2019 年 2 月 13 日

高等学校国語科の説明的文章指導における学力評価に関する研究

三重大学大学院教育学研究科
教育科学専攻　人文・社会系教育領域
217M007　中村　亮太

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

序　章　研究の目的・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第１節　国語科教育研究の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　第１項　説明的文章指導についての先行研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　　（１）　説明的文章の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　　（２）　説明的文章指導についての先行研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　　第２項　国語科教育研究の学力論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　　第３項　国語科教育研究の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第２節　高等学校国語科の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　第３節　高等学校国語科における評価の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　第１項　ハイ・ステイクスなテストの影響・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　第２項　高等学校国語科における評価の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　第４節　研究の目的・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　第１項　研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　第２項　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

第１章　説明的文章指導で育成すべき「資質・能力」・・・・・・・・・・・・・・・・22
　第１節　高等学校国語科で求められている「資質・能力」・・・・・・・・・・・・・23
　　第１項　「言葉による見方・考え方」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
　　第２項　「資質・能力」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
　　第３項　説明的文章指導における「資質・能力」について・・・・・・・・・・・・26
　第２節　説明的文章指導の認知過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
　　第１項　説明的文章の理解を促す要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
　　第２項　トップダウンと文章構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

第２章　説明的文章指導における評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
　第１節　評価の基本的理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
　　第１項　評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
　　第２項　評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
　第２節　説明的文章指導の「資質・能力」の評価について・・・・・・・・・・・・・39
　　第１項　国語科における「資質・能力」の評価について・・・・・・・・・・・・・39
　　第２項　説明的文章指導における評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・41

第３章　説明的文章における学習者の意識に関する調査・・・・・・・・・・・・・・・43
第１節　アンケートの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
第２節　アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第１項　質問１の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第２項　質問２の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第３項　質問３の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第４項　質問４の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
第５項　質問５の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第３節　アンケート調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

第４章　説明的文章指導における学力評価問題の提案・・・・・・・・・・・・・・・53
第１節　学力評価問題の提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第１項　学力評価問題の提案目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第２項　学力評価問題の本文について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第３項　設問の目的とルーブリック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
（１）　問１について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
（２）　問２について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
（３）　問３について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
（４）　問４について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
第２節　学力評価問題における調査結果とその分析・・・・・・・・・・・・・・・・61
第１項　学力評価問題の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
（１）　問１の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
（２）　問２の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
（３）　問３の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
（４）　問４の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第２項　学力評価問題における調査結果とその分析・・・・・・・・・・・・・・・・68

結　章　研究の成果と今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70

引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
アンケート用紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
アンケート結果集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

「贅沢を取り戻す」全文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
学力評価問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
学力評価問題の解答・評価一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97

はじめに

2020 年度から従来のセンター試験[1]が廃止され、新テスト[2]が導入される。高大接続等を目的としたいわゆる教育改革のうちの一つとして何年も前から注目されているもので、モデル問題や実施要綱が公開されている。従来のセンター試験を改めるということについての議論はいまだ尽きることはないようだが、これについて前大学入試センター理事の伯井(2017)は以下のように述べている[3]。

> 1979 年に共通一次試験が導入されて以来、現在の大学入試センター試験まで、40 年近くにわたって築き上げられてきたものに対して、「こんなに社会に定着しているにも関わらず、なぜ今ここで新テストをわざわざ導入する必要があるのか」「十分、選抜試験として機能しているのに、あえて変える必要があるのか」という意見を関係者の方々、とりわけ大学教育関係者からよくお聞きしました。

伯井はセンター試験についての主に大学教育関係者からの指摘について述べている。伯井によるとセンター試験を廃止して新テストを導入することについての反対意見は少なからずあるようだ。しかし、大学教育関係者からの声が多かったと述べているが、新テストを受ける側である高校生を指導する高等学校の関係者からはこれらの教育改革についてはどのように見えているのか。これについて石川(2017)は以下のように述べている[4]。

> 大々的な教育改革を行ってはどうかという議論はしばしばされてきました。しかしその度に、高校サイドからは次のような声が聞こえて来ました。「いくら高校教育を変えようとしても、大学入試が変わらなければ、変えようがない」今までの日本社会は間違いなく、学歴社会であり、現在にいたって多少の変化は見られるものの、いまだに「いい大学を出ておくことに越したことはない」という風潮はいたる所に残っているように感じます。だからこそ、大学受験のあり方は高校教育に大きな影響を与えてきました。大学入試の中身を変えずに高校教育だけ改革することは、現実的に不可能だったのです。

大学の教育関係者はセンター試験について変える必要がないという立場であるのに対して、高校教育の関係者では大学入試が変わらないからという理由で高等学校教育の根本的な問題の解決を先延ばしにしているように感じざるを得ない。読解偏重が指摘され、「資質・

---

[1] 大学入学センター試験のこと。以下同じ。
[2] 大学入学共通テストのこと。以下同じ。
[3]大杉住子・伯井美徳 (2017)『2020 年度大学入試改革！新テストの全てが分かる本』、教育開発研究所、p.165。
[4] 石川一郎(2017)『2020 年からの教師問題』、KK ベストセラーズ、p.22。

能力」の育成を目的とするこれからの高等学校国語科は、新テストで記述式での解答を求められるようになり、この教育改革の影響を正面から受けているといえるだろう。このような教育改革が始まっている中で、注目すべきはやはり高等学校国語科で育成すべき学力をいかにして評価すべきなのかという点である。「「資質・能力」の育成」、「学力の 3 本柱」というように方針が示されてもそれをどのようにして評価し、学力として認めるのかという点では議論がされていないように思える。そのため、いま一度学力評価についての研究を振り返り、これからの国語科教育界で求められている学力の形成について考えていかなければならない

平成 33 年度からの先行実施で高等学校国語科の教育課程は「現代の国語」や「言語文化」などの科目に変更される。学習指導要領の改訂も合わさったこの機会で改めて高等学校国語科での学力の育成とその評価についての研究が必要になっている。その中でも説明的文章指導では、論理的な文章を取り扱い、生徒の論理的思考力や批評する力についての育成が求められる。モデル問題に取り上げられていた契約書やガイドラインのような文章は説明的文章としての側面が強く、現行の「国語総合」や「現代文」の授業で取り扱われているであろうが、新課程の「現代の国語」や「論理国語」でも取り上げられるのは明白である。テクスト[5]を踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行い、自らの考えを説明するための学力の育成には説明的文章指導による役割が大きいと考えられる。

本研究は、指導要領の改訂に伴って、これから高校生が求められる説明的文章指導における学力について検討し、それをいかにして評価する課題を設定するかということを明らかにすることでこれまでの国語科教育研究を踏まえた発展的な側面と、これからの国語科教育を含めた教育界全体の課題となる評価やテストといった点に対する一考察、提案としての側面の両方で考察を試みる。

[5] ここでの「テクスト」は文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」、p.36。によるものである。「文章、及び、文章になっていない断片的な言葉、言葉が含まれる図表などの文章以外の情報も含めて『テクスト（情報)』と記載する。」とある。

序　章　　研究の目的・方法

第１節　国語科教育研究の課題

国語科教育研究は多岐に渡り、国語科教育の歴史や文学研究、授業実践など、理論と実践の両輪によって支えられ今日の研究実績がある。学力評価についてももちろん国語科教育研究のなかで取り上げられ、その研究成果と展望が報告されている。それらのうち、本節では説明的文章指導の評価と学力論について述べていく。

第１項　説明的文章指導における評価についての先行研究

（１）説明的文章の定義

まず、説明的文章の定義を確認しておく。そのためには「説明する」ということから確認しなければならない。植山(2009)は説明と解説について以下のように述べている[6]。

> 「説明」「解説」とは、ある事柄に関して専門的立場あるいは熟知している立場から読者・聴者に対して行われる論理的合理性を持った表現活動である。基本は、事物・事象の構造や原理・法則などについて特徴的ならびに不可欠の情報を整理しつつ、一定の合理性を保って述べることにある。

また、櫻本(2015)は説明文を以下のように定義している[7]。

> 説明とは、ある物事を取り上げて、その内容や意味をよく知らない人にそれがどんなものかわかるように解き明かすことである。「問いと答え」の構造を基本とする。ある物事に関する成り立ちや仕組み、働き、価値など、様々な側面からその特徴や様子を取り上げ、情報を的確に伝えることに主眼を置く。
>
> 説明文は広義には、記録文や報告文、論説文、評論文などを含むが、狭義には上記の機能を備えた物事を説明する目的の文章を指している。

植山と櫻本によると、そもそも説明するという行為は、読者や聴者という相手が存在し、その相手が事物や事象をよく知らない場合に行われる、論理的合理性を持った表現活動であることが分かる。

では、説明文や評論文、論説文などをふまえた説明的文章についてはどのように定義されるのか。説明的文章の定義について森田(2011)は以下のように述べている[8]。

---

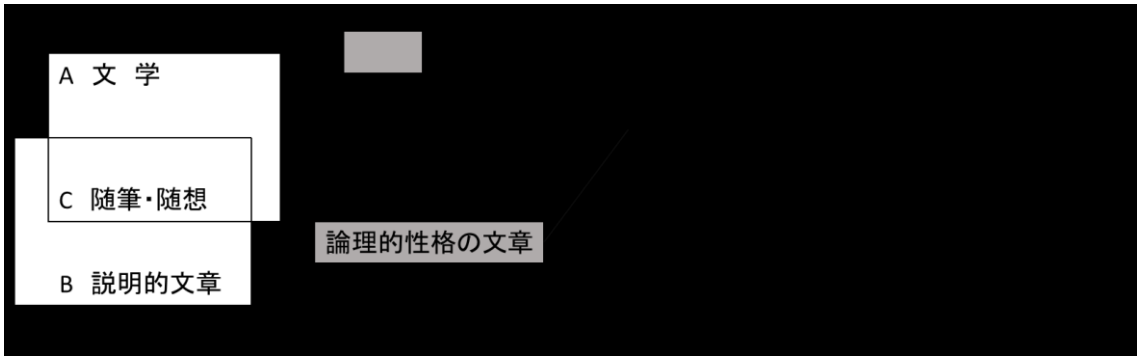
[6] 植山俊宏(2009)「説明・解説」、田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』、教育出版、p.104-105。

[7] 櫻本明美(2015)「説明文」、髙木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要用語辞典』、明治図書出版、p.109。

[8] 森田信義(2011)「説明的文章教育の研究」、森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著『新訂国語科教育学の基礎』、渓水社、p.128-129。

説明的文章は、書き手が事象（ものごと）の本質を、論理的な認識方法によってとらえ、とらえたものを論理的に表現することによって生み出される文章を基本とする。文学以外の文章群の呼称である説明的文章の中には、多種多様な文章があるので、論理的認識の文章という性格の希薄なもの（実用的文章、生活的な文章と言われるもの）が存在することを否定はできないが、国語科の教材として、説明的文章の中心位置を占めるのは、論理的認識の文章であると規定して差し支えないだろう。また、実用的、生活的文章の場合も、程度の差はあっても、基本的には論理的認識に支えられているということもできる。

森田は説明的文章について「非文学」と呼ばれたこともあることについて言及している。しかし、このような曖昧な定義では説明的文章の固有性、その指導の明確な目標と内容を確認することは不可能であったため、説明的文章の定義を述べた。そして、説明的文章と文学の領域を簡単に図示した。それが以下の図Ｉである[9]。



また、寺井(2015)は、説明と解説について述べた後、以下のように示した[10]。

説明文は、解説文、記録文、報告文、報道文、論説文などと同様に文種の一つだが、これらを総称する用語でもある。説明的文章と総称することもある。

これらより、説明的文章は文学的文章とは対照的な文章として位置づけられていた事もあったが、説明文や評論文などの総称として使用されていることが分かる。その中でも、論理的性格の文章が国語科における説明的文章教育の主教材となる。これらの先行研究を参

[9]森田信義(2011)「説明的文章教育の研究」、森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著『新訂国語科教育学の基礎』、渓水社、p.129。
[10]寺井正憲(2015)「説明・解説」、髙木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要用語辞典』、明治図書出版、p.135。

考にしながら、本研究では説明的文章について、「ある読者を想定した筆者が事象の本質について論理的認識のもとで説明した文章全般」のことを指すと定義する。

本研究では、第４章で実際に教科書に掲載されている評論文を取り扱って学力評価問題を作成する。そこでここでは、より細分化されたジャンルである評論文についても定義を確認しておく。本研究は、評論文にのみ焦点を当てて論じるものではない。あくまでも、評論文を含めた説明的文章全体での考察を行なう。しかし、高等学校国語科の説明的文章指導は評論文で行われている事が多い。

守田(2015)は「論説・評論」の定義について、以下のように示している[11]。

> 論説は、ものごとに対する見解を客観的に根拠付け、筋道立てて論証することによって、その見解の正しさを読者に認めさせようとする文章である。評論は、ものごとに対するより望ましい(より完全な/より正しい)評価を論証することによって、その評価を読者に同調させようとする文章である。両者には、ある事象とそれに対する一般的ではない見解や評価が論理的、説得的に表現されるという共通点がある。

説明的文章においてその筆者は、その事柄や事象についてよく知らない読者を対象として想定していると考えられるが、高等学校国語科教科書に掲載されている説明的文章教材は教科書のために書き下ろした文章もあれば、そうではない一般の本や雑誌から抜粋されたものもある。そのため、高等学校国語科の教科書に掲載されている説明的文章教材については、筆者の想定している読者と実際の読者に乖離があるのではないかと考えられる。そのような文章を実際に読んでいく高校生を国語科の教員たちはどのように指導し、評価するべきなのであろうか。これについても説明的文章指導において取り扱うべき課題となる。

（２）説明的文章指導についての先行研究

先に説明的文章についての定義を確認した。では、その説明的文章における指導はどのような研究がなされてきたのだろうか。説明的文章指導について、森田(1984)は以下のように述べている[12]。

> 教室における読みは、私たちの日常の読みとは異なることが多い。それは、教材を媒介にして、子どもに一定の学力がつくように、周到な配慮がなされた読みだからである。
>
> しかしながら、また、教室における読みも、日々の生活の中で行われる読みも、個々人の自由な、主体的な読書の原理を踏まえて構築されることが望ましい。そのことが、教室での読みを活性化し、結果として、理解能力、認識能力を、確実に身につけさせる

---

[11] 守田庸一(2015)「論説・評論」、髙木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要用語辞典』、明治図書出版、p.136。

[12] 森田信義(1984)『認識主体を育てる説明的文章の指導』渓水社、p.115-116。

ことになると考えるからである。また、能力は、分析的に取り出して、一つ一つをスキルとしてのばすよりも、一つの強固な目的意識のもとに、総合的に機能させることによって育てられるものであるとも考えるからである。

森田は説明的文書を教室で読む場合も日常生活で読む場合も、生徒の主体的な読書の原理を踏まえて構築されることが望ましいとした。そして日常の読みの原理を下敷きとして指導過程(試案)を提案している。指導過程(試案)[13]には以下の 5 つの段階と柱が示されている。

①題名読み―説明の対象になっている「もの」、「こと」について、読み手の認識のありようを把握させる。
②教材文の通読―「認識の見取り図」を念頭において反応しつつ。(内容読み)
③教材文の精読―教材の客観的把握と課題の解決、新しい反応の創造(表現の読み)をめざす。
④教材文の総合把握―反応を総合的にとらえ、残された反応を確認する。
⑤まとめ―教材文の批評と学習の発展をはかる。

また、大槻(1981)は説明的文章の授業での伝統的な手順では、学習者にとって面白くないものになると述べたうえで、習慣的な授業展開を改善しようとする試みについて、以下の 4 つの方法を紹介している[14]。

①筆者想定法―情報化時代に置ける読みの指導では、資料の選択、結合、改善の力をつける必要があるという考えから、筆者が文章制作時にどのように情報を整理し変換したかを読み取り、学ぶという姿勢で読みとらせようとする指導過程。
②読み手主体を中心とした指導―説明文の読みを生活過程の一環として位置づけようという主張。読みに入る前の指導、読んでいる時の読み方の指導、読んだ後の発展の指導という、一連の指導過程が必要になる。そこでは、常に学習主体である学習者が中心に置かれており、教材もまた学習者の側に立って選ばれ、読み取りも学習者主体に進められることになる。
③説得の論法を軸とした説明文指導―筆者が伝達したいと意図するものをどのような

[13] 同上、p.153。
[14]大槻和夫(1981)「説明文教材の性格・分析と方指導法」、大槻和夫・野地潤家著『国語教材研究シリーズ 7　説明文編』、桜楓社、p.13-14。

工夫をこらして、相手である読者にわかりやすくおもしろく表現しようとしているのか、その筆者の工夫の跡をたどり、文章の運びの巧みさを学ばせるのが眼目でなければならない。

④一読総合法による説明文指導―説明的文章の読みとは認識活動であるという根本的な考え方に立って認識能力と直結した言語能力を伸ばすことを主眼にしている。

そして、説明的文章教育の目標について森田(2011)は以下のように述べている[15]。

説明的文章教育の目標とは、児童生徒に、論理的文章の内容、表現の理解と吟味を通して、ものごとの論理的思考力・認識力と論理的表現力を養い、認識主体としての自立・成長を図ることである。

このように、説明的文章の指導についての研究や方法、目標に至るまでが国語科教育研究の対象として様々な研究と実践がなされてきた。様々な輝かしい実績のもと、現在の国語科教育研究は説明的文章指導の研究を導いてきたといえるだろう。しかし、授業内での話し合いや児童生徒への教授に比べるとその評価の仕方や学力論についての具体的な提言は少ない。そのため、今一度国語教育研究での学力論や説明的文章指導の評価に関する研究を振り返る必要がある。

第２項　国語科教育研究の学力論

説明的文章教育の目標は、認知主体としての生徒の自立・成長を図ることであった。どのような授業も生徒の「資質・能力」の育成を目的として行われているということは言うまでも無い。では、中等国語科教育研究では学力とはどのように研究されてきたのだろうか。

そもそも学力[16]について、大熊(2009)は以下のように述べている[17]。

国語学力とは、国語科の学習によって学習者が形成した望ましい能力である。すなわち、学校教育課程の一環としての国語科の目的的な教育によって児童・生徒が習得した能力である。

また、学力を「国語科教育における意図的・計画的な学習を通して学習者が身に付ける言

[15]森田信義(2011)「説明的文章教育の研究」、森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著『新訂国語科教育学の基礎』、渓水社、p.137。

[16] 「国語学力」のこと。本研究では統一して学力と称す。

[17] 大熊徹(2009)「国語学力」、田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』、教育出版、p.242。

語能力」とした間瀬(2015)はその課題について以下のように述べている[18]。

> 個別の知識・技能基盤の学力観から、社会への効果的な参加や問題解決のためのパフォーマンス能力として学力を捉える、コンピテンシー基盤の学力観への転換が求められている。国語語学力についても、こうした観点からの捉え直しが行われている。

歴史的、社会的な影響による変遷が大きい学力観は、その時代や当時の学習指導要領によって現在はコンテンツ・ベイス[19]からコンピテンシー・ベイスへと移行しつつある。学習指導要領が「内容」を中心に構成されてきたのを典型として、日本の教育は長年に渡り領域特殊的な知識・技能を基盤に、コンテンツ・ベイスで実施されてきた。これに対し、近年、領域を超えて機能する汎用性の高い「資質・能力」を中心に、コンピテンシー・ベイスでの教育課程と授業についての再編成が行われている。つまり、「何を知っているか」という問いから「どのような問題解決を現に成し遂げられるか」へと変化している。これは日本の教育研究全体の流れであるが、もちろん国語科教育研究もその例外ではない。

では、具体的にどのような力を学力として国語科教育研究は捉えてきたのか。これについて田近(1994)は以下のように述べている[20]。

> 私は国語学力を構成するのは、次の三つだと考える。
> ①　媒体としての言語(言語要素)に関する力―言語力
> ②　言語を媒材として行動する力―言語行動力
> ③　言語行動を主体としての自らを育てる力―主体形成力
> ①、②は言語行動に関するものであり、③はその行動を学び取る主体のあり方に関係するものである。すなわち、たえず他を取り込みつつ、豊かな言語及び言語行動を自らのものとするための、学ぶ力である。

田近は国語学力としての要素を 3 つ挙げた。これらは全て「言葉による見方・考え方」を学ぶ国語科にとって、言語を媒介とした学習から得られる「資質・能力」として国語科で育成すべき学力を言い表しているだろう。急激に変化し続ける社会の中で、自己実現を図りながら主体的に生きていくためには、自己の必要・要求にもとづいて自ら学び続けていかなければならない。田近の示した①は新学習指導要領で示されている「知識・技能」に、②は「思考力・判断力・表現力」、そして③は「学びに向かう力・人間性等」に通じる提示である。

---

18 間瀬茂夫(2015)『説明的文章の読みの学力形成論』、渓水社、p.36。
19 「Base」のカタカナ表記で基礎や基盤といった意味を持つ。「ベース」と表記することもあるが本研究では統一して「ベイス」とする。
20 田近洵一(1994)「ことばの力から、ことばを学ぶ力へ―学力としての主体形成力―」、飛田多喜雄・野田潤家監修『国語教育基本論文集成　第 3 巻　国語科教育基礎論(3)　学力論』明治図書出版、p.146。

また、国語科教育におけるコンピテンシー・ベイスについて、鶴田(2015)は以下のように述べている[21]。

> これからの教科教育にあたっては、汎用的な能力としての「コンピテンシー」と教科固有の「ものの見方・考え方」「知識・スキル」との共存的・協働的関係が必要となってくることが理解されよう。

鶴田は国語科教育においても教科横断的な能力と、教科固有の能力についてのどちらも軽んずべきではないと述べた上で、コンピテンシー・ベイスのカリキュラムや教材研究、授業提案についての重要性を指摘した。全ての学習の基盤となる国語科教育にとって、言葉を操り、言葉によって学ぶことに加え、教科横断的で汎用性の高い能力が求められるのは必然である。国語科教育がどのような能力を育てるべきかという議論は、教科教育の域を出て議論されるようになった。

第３項　国語科教育研究の課題

主に説明的文章における理論の展開をこれまでの国語科教育がどのように展開し、それに伴い学力観がどのように変化しているのかを述べた。国語科教育は新学習指導要領の改訂や新テストの導入が代表的な教育改革に順当に対応できているのだろうか。コンピテンシー・ベイスのカリキュラムや教育過程についての研究や国語科での「資質・能力」の育成についての研究は様々である。しかし、新テストのように学力を実際に評価するための研究や実践というものは少ないという指摘をせざるを得ない。評価についての研究もパフォーマンス評価が重要視されているが、授業内や単元の目標の充実といった点での考察がほとんどであるようだ。しかしながら、大学入試や定期テストでの学力評価についての研究も必要であると考えられる。広島大学国語学力研究グループ(2015)は学力とテストについて以下のように述べている[22]。

> 中学校、高等学校段階において、国語科でどのような学力を育成するかを問うとき、高校入試、大学入試との関係は無視できない。入学試験は、受験する生徒にとって、試験の結果が個人の利害関係に与える影響が極めて大きいハイ・ステイクスな評価である。

広島大学国語学力研究グループは高次的読解力の評価について、学力評価問題とルーブ

---

[21] 鶴田清司(2015)「第３章　国語科　『根拠・理由・主張の３点セット』で論理的思考力・表現力を育てる」、奈須正裕・江間史明編著『強化の本質から迫るコンピテンシー・ベイスの授業づくり』、図書文化社、p.59-60。

[22] 広島大学国語学力研究グループ(2015)『高校国語　高次読解力評価のためのハンドブック』p.27。

リックの提示という形で、具体的に論じている。しかし、この研究以外に学力評価テストに対する研究は、国語科教育研究の説明的文章の研究や学力論の研究よりもはるかに数が少ないといえるだろう。もちろん、OECD の行っている世界的規模の学力調査である PISA 調査に関する研究や、全国学力・学習状況調査に関する研究は行われてきた。PISA 型読解力の影響によって、連続型テキストに加え、非連続型テキストを使った情報整理能力や、思考力に関する問題が全国学力・学習状況調査で取り上げられるようになったように、国語科教育研究にとどまらず、学力をどのように評価するのかは教育界全体の課題となっている。しかし、高等学校終了時までの学力についてはやはりこれらの研究よりは遅れをとっているだろう。

これからの国語科教育はこれまでの研究の成果を踏まえつつ、さらに学力を評価するということはどういうことなのか、また、どのように評価していかなければならないのかという点も研究していかなければならない。

第２節　高等学校国語科の現状

現状の高等学校国語科教育についてどのような課題があり指摘されているかは研究を進めるために触れておかなければならない。高等学校国語科教育の課題について中央教育審議会の答申[23]では以下のように述べられている。

> 高等学校では、教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり、授業改善に取り組む必要がある。また、文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること、国語の語彙の構造や特徴を理解すること、古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている。
>
> 高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないこと、古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されている。

高等学校国語科の課題として、講義調の授業が指摘されてきたことは今に始まったことではないだろう。しかし、講義調の授業を改善しようとしても、大学入試やセンター試験を理由にして「入試が変わらないと学校現場も変えられない。」と変わらずに現在まできてしまったことは先述した。答申では、説明的文章指導に関連する改善点として、読解偏重の授業の改善と主体的な言語活動の重視、情報活用能力に関して述べられている。新テストでは記述解答式の問題が出題されたり、様々な種類のテキストから情報を取捨選択して思考する問題が取り入れられたりするが、このような新テストでの変更点も、高等学校国語科の課題を意識した改変になっていると言わざるを得ない。高等学校教育の現場に対して改善を求めていることがひしひしと感じられる。また、幸田(2016)は、高等学校国語科の「読むこと」における課題について、読解指導にも利点はあるがそれだけで高等学校国語科が完結されてしまうことには大きな問題があるとし、以下のように述べている[24]。

---

[23] 文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
p.124、p.127。

[24] 幸田国広(2016)「資質・能力の育成をめざす高校国語科の学習指導」、大滝一登・幸田国広編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践―「資質・能力」の確実な育成をめざし

「読むこと」において発問や学習課題の質自体はきわめて重要であり、その工夫が求められるのは当然だが、具体的にどのような「問い」が学習者の解釈を広げたり深めたりするのか、オープンエンドによって多様性を確保しつつ授業を閉じることが妥当な「問い」とはどのようなものかといった吟味は、「ある解釈」を理解させようとする読解指導の発想と枠組みからだけでは困難な作業だといえる。総じて、「読むこと」の学習指導が「ある解釈」を理解させるイメージから脱却できず、それだけが高校国語科の全体となってしまっているところに課題の深さがある。

幸田は高等学校国語科の授業が読解偏重であることに加え、教師の持つ「ある解釈」を理解させようとする授業で完結してしまっていることを問題視している。また、答申で示された高等学校国語科の課題よりもさらに具体的に「読むこと」に偏った授業のあり方について指摘した。「話すこと・聞くこと」「書くこと」との均衡を保ったカリキュラム・マネジメントの重要性は言うまでもないが、この達成は確かに高等学校国語科の課題となっている。しかし、それに加え、読解の授業でも「教師のある解釈を理解させるための読解」として指摘されていることには危機感を覚えずにはいられない。学習指導要領の改訂に伴い、「主体的・対話的な深い学び」という方針が示されてからそれに向けた改善に努めてきた教育界に対して、未だに教師主導の授業が指摘されている。高等学校国語科にはこの課題の解決は至上命題と言ってよいだろう。

て』、大修館書店、p.26。

第３節　高等学校国語科における評価の課題

第１項　ハイ・ステイクスなテストの影響

「高等学校教育を変えようとしても、大学入試が変わらなければ、変えようがない。」という現状は紹介したとおりであるが、果たしてそれほどまでに高等学校教育に対するテストや学力試験の影響は大きいのだろうか。つまり、テストの結果は高等学校教育において重視されるべきものなのかという問いがある。テストは一般的にその後の人生に影響の少ないものと影響の大きいものがある。テストや評価の結果が、生徒の将来の進路や学校の評価となる結果、社会全体の注目を浴びるようになることをハイ・ステイクスという。日本では、高校入試やセンター試験、大学入試などのこれに相当する。これに対して、そのような社会的な関心をよばないテストや評価をロー・ステイクスという。この、ハイ・ステイクスなテストについて Gipps(1994)は以下のように述べている[25]。

> 教師自身の自尊感情からであったり、生徒の幸福や将来のためだったりするが、いずれにしても教師は自分の生徒がハイ・ステイクスなテストで良い成績をとるように指導する。テストは生徒にとって重要である場合と、教師にとって重要である場合、その両者である場合が生じる。教師はそのようなテストで評価される知識や技能の学習に、多くの時間を費やすようになる。「ハイ・ステイクスなテストはカリキュラムを誘導する強力な力を持っている」。

Gipps は特にテストがハイ・ステイクスな場合、テストによって教師の自分の職務内容についての認識がきわめて大きく影響されることをテストに関する事実として挙げた。このことから分かるように、確かにテストが高等学校教育に与える影響は大きいといわざるを得なく、これを無視しながらカリキュラムを構成することは現実的ではない。新テストも社会的関心の高さからこのハイ・ステイクスなテストとなることは間違いない。これをもとにすると、「高等学校教育は大学入試が変わらない限り、変わることができない。」という指摘に対しても納得がいく。逆に、新テストは高等学校教育に対してハイ・ステイクスであるという自覚から、大幅な改訂を行っているといっても良いだろう。いずれにしても、大学入試やセンター試験、新テストについても高等学校教育に与える影響の大きさは認めざるを得ない。また、教師がハイ・ステイクスなテストに応じたカリキュラムを設定することも一概に糾弾できるものでもないようだ。しかし、テストのハイ・ステイクスな性質が問題の根源であるとは思われない。Gipps(1994)は以下のようにも述べている[26]。

---

[25] Caroline V・Gipps(1994)『BEYOND TESTING　Towards of educational assessment』=鈴木秀行(2001)『新しい評価を求めて　テスト教育の終焉』論創社、p.45.
[26] 同上、p.48。

問題はテストが実際にハイ・ステイクスかどうかではなくて、それに関わる者がハイ・ステイクスだと信じてしまうことにある。

高等学校教育へのテストの影響は大きいと認められているように思えるが、教員や社会の関心の大きさから入試がハイ・ステイクスであるという認識の下に問題の根源はあるようだ。つまり、ハイ・ステイクスなテストについては事実として影響力はあっても問題の根源とまでは言えないということが示されている。学力試験による選抜方法というより、それに対する措置を授業内で取り扱い、講義調になってしまう授業の在り方や教員の考え方に問題がある。であれば高等学校国語科に求められている改善の方針は、ハイ・ステイクスなテストで求められている学力や「資質・能力」の育成について、いかに生徒の主体性を確保しつつそれを評価する学力評価問題を作成していくかということになる。

第２項　高等学校国語科における評価の課題

高等学校国語科においてその「資質・能力」や学力をいかにして評価するかという問いは様々に議論されてきた。時代によって求められる学力が移り変わってしまうために、それが固定化されずに時代によっての議論がなされるべきであるからだ。ハイ・ステイクスなテストについてはテストに関わる者がそれを重要視してしまうことに問題があると前節では述べた。時代に求められる学力はペーパーテストだけに反映されるものではない。これは承知の事実である。教育評価の問題点は高等学校教育の現場において、テストのハイ・ステイクスな性質によって、教員がテストでよい成績をとることを目標にしてしまっていることにある。そして、高等学校の評価観について髙木(2016)[27]は以下のように述べている。

これまでの高等学校では、授業を通して育成した学力を、ペーパーテストによる得点のみによって評価することが多く行われてきた。ペーパーテストによる学習評価は、日本の学校教育においては、明治の学制以降行われてきたものである。それゆえ、評価を行うこと＝ペーパーテストというパラダイムの転換ができずに今日まできてしまっている。その傾向が今日まで強く残っているのが、高等学校における評価観である。

髙木は高等学校の評価がペーパーテストに依存している点について指摘している。確かにペーパーテストで測ることのできるものが生徒の能力の全てではない。それにもかかわらず、高等学校で行われている評価の大部分がペーパーテストによるものであっては生徒の学力を適切に評価しようという考えとはかけ離れた評価の仕方であると言える。生徒の学力をどのようにして評価するのかという問いはこれまでの国語科教育研究でも議論され

[27]髙木展朗(2016)「資質・能力の育成をめざす高校国語科の学習指導」、大滝一登・幸田国広編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践―資質・能力の確実な育成をめざして』、大修館書店、p.35。

てきたが、現在は新学習指導要領を見据え、パフォーマンス評価の観点を取り入れた評価の仕方が注目されている。

国語科授業における評価の重要性として尾木(2001)[28]は以下のように述べている。

> 学校において学習指導を展開するとき、多くは指導内容を有機的なまとまりとしてとらえ、子どもの学習意欲を喚起し諸能力の発達を促すよう計画的に学習活動を組織することによって目標の実現を目指そうとします。したがって、効果的な学習指導のためには、目標の実現を目指し、どのように学習活動を組織するかを示す学習計画が重要ということになります。同時に、その展開の過程で、目標の実現状況について絶えず評価をし、これを次の指導に生かすことが重要になります。

尾木は国語科授業評価における学習計画と評価の相関の重要性を述べている。評価は学習目標の達成度を測るために必要であり、それを次の指導に生かしていくものであるため、高等学校が現状ペーパーテストでの評価に依存していることが問題視されているのも当然である。やはりペーパーテストによって測ることのできる学力が限定的である以上、学習目標の達成度を測るものとしては不十分であるからである。また、国語科の授業における評価についての研究は大いになされてきた。しかし、国語科のテストによって測ることができる力がどれほど学習目標の達成度を測るかということには述べられていない。授業内での評価とテストでの評価の一体化が評価研究の目標のうちであるとは考えられるが、そのためにはやはりテストによって測ることのできる「資質・能力」についての研究も求められていると考える。評価研究というとやはり授業内での学習状況や関心・意欲・態度、授業中に記した文章について教師がフィードバックするという方法での評価について研究が進んでいる。しかし、テストによる学力の測定や「資質・能力」の育成という点では研究が比較的少ない。そのため授業とテストの評価の均衡を保ちながら生徒の学力を評価していくためにはやはり国語科におけるテストについての研究もなされるべきである。

[28] 尾木和英(2001)『評価で変わる国語の授業』、三省堂、p.16-17。

第４節　研究の目的と方法

第１項　研究の目的

第３節では、ペーパーテストに依存している高等学校での評価についての課題を述べた。しかし、ペーパーテストではあるが、大学入試がハイ・ステイクスであることは変わらない。ペーパーテストに依存している評価には問題がある。とは言っても、大学入試が無視できるものではないというのが現状の高等学校教育が変わることのできない理由の一つである。では、今求められている学力観や評価観を基にしてペーパーテストやルーブリックの作成を試みることはできないだろうか。ペーパーテストで測ることのできる学力は限界があるという指摘も承知しているが、ではその限界はどの辺りにあるのだろうか。学習指導要領が求めている「資質・能力」や「思考力・表現力・判断力」についての評価はテストによってできないのか。つまり、学習指導要領の改訂に伴い求められている学力について、テストで評価することはできるのかという問いが、本研究の核となる。その中でも今回、説明的文章指導について取り上げたのは、文章の論理に注目してテクストを活用し、自分の言葉で表現することが求められている中で、論理的認識のもとに記述されている説明的文章における指導は確かに有用であるからだ。

そのためには国語科で求められている学力について再度取り上げ、現在の国語科がどのような観点で学力を捉え、生徒の育成関わっているのかを明らかにする必要がある。また、高等学校国語科の説明的文章指導で育成すべき「資質・能力」についても取り上げなくてはならない。文学との二本柱で行われてきた国語科の授業はそれぞれの分野で育成できる「資質・能力」の全てが一致しているとは言えないからだ。今一度説明的文章指導によって育成すべき「資質・能力」について取り上げる。そして、説明的文章指導に関する評価の研究もすすめなければならない。テストという評価の一環として行われるものに関して取り上げる際、やはり評価の観点は無視することができないだろう。さらに抽象的な研究に収束しないように具体的な側面での研究としても意義を見出したい。高校生の説明的文章の学習における意識や現状についてアンケートを用いた調査を行う。また、具体的な評価問題を作成し、現時点での高校生がどのような解答をし、それをどのように評価するかという点で提言していく。

本研究では、高等学校国語科の説明的文章指導で求められている「資質・能力」を学力評価問題によって評価することの可能性を見出していくことを課題として設定する。

第２項　研究の方法

上記の課題を解決するために、本研究では、まず国語科が今求められている学力観について述べ、それに対応する「資質・能力」の育成における説明的文章指導について述べる。また、具体的な提案として高等学校の生徒に対して行ったアンケート結果により、高校生の学習状況と意識の分析を行う。そして学力評価問題を作成し、実際に高校生に解答させたうえ

でルーブリックをもとに学力の評価を行う。その分析を通して、高等学校国語科に現在求められている「資質・能力」のテストによる評価を見出していく。上記の方法をもとに章立てを検討すると以下のようになる。

① 現在国語科で求められている学力観や、説明的文章指導によって育成することのできる「資質・能力」について様々な理論的観点から考察していく。(第１章)

② 説明的文章指導における学力評価について取り上げ、テストによる評価の可能性を論じる。(第２章)

③ 高校生におこなったアンケートの分析を通して、説明的文章における学習の現状や意識について調査する。(第３章)

④ ①②③をふまえて具体的な学力評価問題の提案とその評価についての考察を行う。(第４章)

第１章　　説明的文章指導で育成すべき「資質・能力」

第１節　高等学校国語科で求められている「資質・能力」

まず、説明的文章指導によって得られる「資質・能力」について論じる前に、そもそも国語科ではどのような「資質・能力」が求められているのかを解き明かす。また、コンピテンシー・ベイスのカリキュラムが求められている中で、国語科での育成すべき「資質・能力」について述べていく。

この「資質・能力」について、中央教育審議会(2016)の答申では以下のように説明されている[29]。

> 現行学習指導要領では、例えば総合的な学習の時間の目標として、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」こととされている。こうしたことも踏まえ、本答申では、資質と能力を分けて定義せず、「資質・能力」として一体的に捉えた用語として用いることとしている。

「資質・能力」とはどのようなものかという問いに対して答えようとするときに、どの学力が資質にあたって、能力とされる学力は何かという考え方は通用しない。教育行政の用語であることを念頭において論じなければならず、学力の三要素のどれが資質と能力のそれぞれに当てはまるのかという観点で捉えきれるものでないことがわかる。このため、本研究でも、「資質・能力」については一体的にとらえた用語として用いる。本節では 2018 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領からこれからの高等学校国語科で求められている「資質・能力」とはどのようなものかということについて述べていく。「資質・能力」は次の三つの要素が複合した学力であると中央教育審議会答申では説明されている。

①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）
②理解していること・できることをどう使うか
（未知の状況にも対応できる「思考力・表現力・表現力等」の育成）
③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

「知識及び技能」については、これまでの研究や実践などで学力評価問題としての評価が可能で有効であるという指摘がなされている。本稿では、「資質・能力」をいかにして学力評価問題を使った評価をしていくのかという点に着目するため、当然「思考力・判断力・表

[29]文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)、p.15。

現力」の育成についても視野に入れた学力評価問題についても取り扱わなければならない。そのためには国語科の特質として定められている「言葉による見方・考え方」の観点と「資質・能力」の観点から国語科としての役割について述べていかなくてはならない。よって本節では、「言葉による見方・考え方」と「資質・能力」のそれぞれについて述べたのち、その関連性について考察する。

第１項　「言葉による見方・考え方」について

国語科の「資質・能力」については、以上のような要素それぞれについて述べていくことによって明らかにすることができる。国語科における学力についても学習指導要領から求められている学力について述べることができる。国語科の特質として「言葉による見方・考え方」の育成も求められている。各教科の特質全般について高等学校学習指導要領解説の総則編では以下のように記されている[30]。

> ④深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は，「どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり，教科等の学習と社会をつなぐものであることから，生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ，教師の専門性が発揮されることが求められること。

高等学校学習指導要領解説の総則編では、「見方・考え方」について、「教科ならではの物事を捉える視点や考え方」として表されている。つまり「見方・考え方」とは「その教科は何を学ぶ教科なのか」を端的に示すものであると言える。では、国語科における「見方・考え方」とは一体どのようなものか。これについては中央教育審議会の答申で述べられている[31]。

> 事物、経験、思い、考え等を言葉で理解したり表現したりする際には、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、創造的・論理的思考、感性・情緒、他者とのコミュニケーションの側面から、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けるといったことが行われており、そのことを通して、自分の思いや考えを形成し

---

30 文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領解説　総則編」、(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_01.pdf)、p.4。

31 文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)、p.126。

深めることが、国語科における重要な学びであると考えられる。

このため、自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることを、「言葉による見方・考え方」として整理することができる。

ここに示されている国語科における「見方・考え方」が「言葉による見方・考え方」である。教科が異なれば、学習する内容も異なる。国語科では言葉を学ぶことになるが、重要なのは、教科によって異なるのは学習対象だけでなく、対象への思考過程や考え方も含まれているということである。「言葉による見方・考え方」は、国語科が教科の本質として意識しなければならないものであることがわかる。そして中村(2018)は「見方・考え方」と「資質・能力」の関係について以下のように述べている[32]。

「見方・考え方」は、様々な事象を捉える各教科等の視点であり、思考の枠組みである。繰り返しになるが、この「見方・考え方」は「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」であり、それぞれの教科において「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力表現力等」を育成し、「学びに向かう力、人間性等」を涵養していくことを通して磨かれていくものである。各教科等の目標に、まず「…見方・考え方を働かせ、」という文言が位置付けられている理由もここにある。

中村によると「見方・考え方」は「資質・能力」を育む際に思考の枠組みとなることで、学力の三要素の育成や涵養となることがわかる。また、学力の「資質・能力」を育成していくことによってさらに磨かれていく相互作用を持つものであるということもわかる。国語科では「言葉による見方・考え方」が教科の目標として、高等学校国語科にも定められている。つまり「資質・能力」の育成に関して考察する際に「言葉による見方・考え方」の観点で考察していくことが求められ、「資質・能力」に関する育成についても「言葉による見方・考え方」の観点で国語科の教科目標を達成しているのかという点で考察することが求められている。そのため、学力の三本柱と互いに高め合いながらの育成が求められる。

第２項　「資質・能力」について

本項では「言葉による見方・考え方」と相互的に高めていくことが求められているとして示した「資質・能力」について述べる。

学力が教科の特質を学習した後に獲得できる力であるのに対し、「資質・能力」は教科横断的に、生涯にわたって発揮することができる力である。教科の特質に即した考え方を学習によって習得することができるが、これについては大熊の論を示し、第１章で述べた。それに対して「資質・能力」は、獲得した学力を基盤として、育成されるべき汎用的な力である。

[32] 中村和弘(2018)『見方・考え方［国語編］』、東洋館出版社、p. 13。

教科横断的である「資質・能力」の育成と、教科の特質に即した学力という点で両者には違いがある。

「資質・能力」はそれ自体で一つの教育行政の用語であることは先に述べた。ではその「資質・能力」は、「見方・考え方」とどのような関係性の上で育成してくことが必要なのであるのか。

国立教育政策研究所(2016)は「資質・能力」について以下のように定義している[33]。

○「資質・能力」＝学び始めには学習に使う手段、学び終わりでは学習内容も含みこんだ次の学習のための手段。したがって、方法知でありつつ、内容知も含みこんだもの。

○「資質・能力」＝知識の質の向上のために必要不可欠な手段かつ目標。「手段」とは、知識の質を上げるために「資質・能力」を使うことが必要不可欠であること、そして、「目標」とは、質の上がった知識やそれらを統合したものの見方・考え方、知識を仲間とともに作り替えられるという態度を含みこんだ「資質・能力」が目標となることを意味する。

○「資質・能力」＝「資質」を中心に人格(価値・態度等)に関わるもの(なお、この際、価値を教えて子供の「資質・能力」に組み込むか、あるいは、価値は学ぶ対象にしておいて、その受容は子供の判断に任せるかは重要な検討課題)。

国立教育政策研究所は「資質・能力」について複数の側面から定義している。それは「資質・能力」をどう見るかと関係していると考えられる。「資質・能力」を学習が終わった時に身につくものであると想定した場合には、「知識だけではなく、スキル、さらに態度を含みこんだ人間の能力」等と広義に定義できる。一方で、手段として「資質・能力」を捉えた場合は、知識と区別される「学びの手段」や「学ぶための力」等と狭義に定義することができる。これらのような「資質・能力」の捉え方によってさまざまな定義の仕方が存在するのである。では、「資質・能力」について、国語科ではどのようにして捉えられているのであろうか。これについては「言葉による見方・考え方」との関連の中で検討しなければならない。国語科の特質である「言葉による見方・考え方」が教科の本質であって、「資質・能力」は教科横断的な学校教育内だけにとどまることのない学力についても含まれているとするのであれば、双方それぞれがどのようなものかを別々に捉えるよりも、教科の本質とそれに伴った学力の育成という観点で複合的に論じられなければならない。

[33] 国立教育政策研究所(2016)『国研ライブラリー　資質・能力［理論編］』、東洋館出版社、p. 67-68。

第３項　説明的文章指導における「資質・能力」について

各教科の特質として設定されている「見方・考え方」について、国語科では「言葉による見方・考え方」となっている。また、「資質・能力」と教科の特質を複合的に捉えた学力の育成が必要であることも先に述べた通りである。では、具体的に国語科の教科の特質としてある「言葉による見方・考え方」と「資質・能力」はどのようにして関連させて育成していくべきなのであろうか。また、高等学校国語科における説明的文章指導において「言葉による見方・考え方」を働かせながら、「資質・能力」を育成していくとは具体的にどのようなことを指すのであろうか。その考察のために新学習指導要領国語科の目標から紐解いていく。2018 年 3 月に告示された新学習指導要領では国語科の目標はそれぞれ以下のように示されている[34]。

教科目標「国語科」

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する「資質・能力」を次のとおり育成することを目指す。

(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を伸ばす。

(3)言葉のもつ価値への認識を深めるとともに，言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科としての目標は「言葉による見方・考え方」を働かせ、「資質・能力」を育んでいくことを示している。特に「生涯」という言葉が繰り返され、「社会生活」という言葉が三つの目標の内、二つに入っていることから、卒業後の社会人としての生活を視野に入れた国語教育の重要性を強調している。また、「論理国語」の目標は次のようになっている。

「論理国語」

(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2)論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を

---

34 文部科学省(2018)「高等学校指導要領解説　国語編」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_02.pdf、p.21、p.26。

向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

「論理国語」の目標をここで取り上げたのは、「論理国語」と「文学国語」に分けられている選択科目のうち、特に説明的文章の学習に重きを置かれる科目が「論理国語」であるため、「現代の国語」の科目の目標よりもより説明的文章指導における目標を示していると考えられるためである。つまり、説明的文章指導における目標を含み、示しているものが「論理国語」の目標であるためである。もちろん、「論理国語」の中には非連続型テキストの読解なども含まれているため、従来の説明的文章の印象とは少し異なるものも対象にした目標であるが、新学習指導要領の国語科の科目の目標のうちでは、特に説明的文章指導における方針として受け取ってよいものであろう。この「論理国語」の目標を受けて、説明的文章指導における目標を捉えるとすると、「現代の国語」と比較して特筆すべき点は、「論理的、批判的に考える」力を伸ばすという点にある。これが国語科の教科目標の内の「生涯にわたる社会生活」における思考力に含まれる。そのために、説明的文章指導については論理的、批判的に思考する力を伸ばしていくことが求められる。これが、国語科の教科目標と「論理国語」の目標から推察する説明的文章指導の目標である。そしてこれが「言葉による見方・考え方」における「資質・能力」の育成の一端を担っていると言える。

第２節　説明的文章指導の認知過程

前節では、新学習指導要領の教科目標の観点から「言葉による見方・考え方」と「資質・能力」についての関係性を述べ、特に説明的文章指導における「思考力・判断力・表現力」では、論理的、批判的な思考の育成が求められていることについても述べた。本節では、説明的文章の認知過程をもとに文章の読解に必要な力を明らかにすることで、説明的文章指導で培われるべき学力について述べていく。そしてさらに具体的に「言葉による見方・考え方」と「資質・能力」について認知心理学の観点から考察してく。

第１項　説明的文章の理解を促す要因

説明的文章においてその理解を促す要因について、岸(2004)は読み手要因、文章材料要因、課題の方向づけ、課題の四つを挙げており、その中でも特に読み手要因と文章材料要因について以下のように述べている[35]。

> 読み手要因には、先行知識の量や構造化の程度、作動記憶の容量と機能、推論能力など、理解過程での個人内差・個人間差を直接決めると思われる要因から年齢、知能、動機など一般性の高いものまでが含まれる。一方、文章材料要因は、文章自体に関係するもので、文章のタイプ(説明文・物語文など)、文章構造、文章の表現様式(長さ、漢字の比率、使用語彙の困難度、文体など)、記述順序などが考えられる。

また、文章材料要因について、説明的文章自体の特徴の中で、読み手の理解程度に何らかの差をもたらす四つの要因(文章のタイプ・文章構造・記述様式・記述順序)について挙げられている。これらそれぞれがどのように説明的文章の理解に影響を及ぼしているかについて、以下のように説明されている[36]。

> 文章のタイプでは、説明文の場合、宣言的説明文と手続き的説明文との間の違いが大きく影響する。この場合の影響とは、理解を促進あるいは抑制するという意味ではなく、両タイプの間で理解の仕方が異なるという変動要因としての影響である。
>
> 文章構造とは、文間の論理関係、文章全体の論理構造、さらには文章全体での段落間の構造などをどのように構成するかであり、この構成の仕方によって理解に影響を及ぼすことが知られている。
>
> 表現様式とは、文章自体の記述の仕方による影響である。
>
> 記述順序とは、文章全体の内容構成が理解にどのように影響するかを検討するものである。例えば、同一の文章であったとしても、段落の配列順序によって理解のしやす

[35] 岸学(2004)『説明文理解の心理学』、北大路書房、p. 21-22。
[36] 同上、p. 24-25。

さに個人差が生じるような場合が考えられるためである。

説明的文章指導の学力評価問題を作成するにあたって、その文章が認知心理学の観点からどのような要因をもとに理解できる可能性があるのかはやはり指導者は捉えておかなければならない。その点において上に指示した理解を規定する要因のうち、文章材料要因については、説明的文章指導における重要な着眼点を示しているといえよう。学力評価問題は読み手(生徒)の学力を評価するものでなくてはならないため、どのような観点で理解をしているのかを作成者が捉えておく必要がある。また、説明的文章指導における読解の理解についてその要因を認知心理学の観点から心得ておくことはこれまでの研究と実践を結ぶためにはやはり重要視すべきである。

また、読解のプロセスにおけるトップダウン処理とボトムアップ処理の二つについても、説明的文章を読む際の方略として着目すべきである。これらの認知過程についてBruer(1993)は以下のように示している[37]。

> 入力刺激からの情報のみに基づいて低次なレベルからしだいに高次なレベルへと処理が進んでいくのがボトムアップ処理であり、データ駆動型処理と呼ばれることもある。これに対し、知識に基づいて高次なレベルからの制御のもとになされる情報処理がトップダウン処理であり、概念駆動型処理と呼ばれることもある。

また、岸(2004)は文章理解の過程は、ボトムアップ処理とボトムアップ処理の相互作用によって文章全体の表象を的確に効率よく作っていくことに他ならないとしたうえで、次のようにそれぞれを示している[38]。

> ボトムアップ処理とは、視覚や聴覚を通じて入力された言語情報について、まず単語、句、文のレベルで意味を解釈し、それをもとに、文の間や段落の間での意味関係をとらえてより大きな単位の意味に次つぎにまとめていき、最終的に文章全体の意味を表したもの(表象:representation)を作って記憶する過程である。
>
> 一方、トップダウン処理とは、理解のときに、文章全体の構造についての知識を使って文章を予測し、一つ一つの文や段落をはっきりさせる、文章の論理構造をとらえて次の内容を予測する、先行知識を使って意味内容を推測する、などの過程である。上から下への処理過程、あるいは予測の処理過程ともいえる。「この次には問題提起が書いてあるはずだ」「結果は～のようになるはずだ」などと考えながら理解を進めていくもの

---

[37] John T.Bruer(1993)『Schools for thought : a science of learning in the classroom』=松田文子・森敏昭監訳(1997)『授業が変わる―認知心理学と教育実践が手を結ぶとき』、北大路書房、p.161。

[38]岸学(2004)『説明文理解の心理学』、北大路書房、p.30。

である。

文章を理解する過程では、ボトムアップ処理とトップダウン処理の双方を必要に応じてうまく使い分けなければならない。

読みの認知過程のボトムアップ処理は文章から知識を得て読んでいくことであり、トップダウン処理は自らの知識をもとに文章に書かれていることの内容を推測しながら読んでいくことである。この二つを交互に使い分けながら読み手は文章を理解してくわけである。これは「資質・能力」の育成のうち「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力」の観点に即して捉えることができるのではないか。ボトムアップ処理では読んだことについて何を理解したかという点で知識が活用され、トップダウン処理については自らの知識を活用して文章の内容について予測しながら文章と自己の考えを比較しながら読むことができる。これら二つの読みのプロセスを活用することが国語科による「資質・能力」の育成へと繋がっていくと考えられるのである。

第２項　トップダウンと文章構造

読みのプロセスにおいて、読者はトップダウンとボトムアップの両方の処理を行っている。この二つの処理の間には相互作用があり、どちらかだけを行っているということではない。前項では、これらが国語科における「資質・能力」の育成としての可能性を秘めていると述べた。また、トップダウン処理が「思考力・判断力・表現力」の育成に際して特に注目すべき点である事も述べた。本節ではこれについてさらに説明を加える。トップダウン処理をスムーズに行ううえで最も有力な資源を文章構造であるとした岸(2004)は、トップダウン処理と文章構造について以下のように述べている。

段落間構造の理解とは、段落の意味内容や接続語を手がかりにして段落間の関係をとらえ、最終的に文章全体の構造をとらえていくことである。これができれば、次の段階の内容を予測したり、予測と食い違った内容が書かれているかどうか確認したり、文章全体の要旨をとらえたりなどのトップダウン処理を働かせ、文章全体の理解を大きく促進するといえよう。

上記引用のほか岸は、段落間の論理構造を把握すること以外にも、文章間での論理構造を把握する際にも、トップダウン処理は有効であると述べている。つまり、ボトムアップ処理によって読者は文章から知識や筆者の考えを受け取ることができるが、トップダウン処理によって段落間の構造や文章間の論理について読者は理解することができる以外にも、文章を予測しながら読み進めることができるため、自分の予測と文章が合致しているかという点を意識しながら読むことができる。これは、文章を読むという点について批評しながら読むということと関係があるのではないか。予測しながら読み、自分の考えと比較しながら

文章や段落について理解することはつまり、文章の論理や段落間の関係について主体的に読みながらその文章について批評的にならざるを得ないからである。

ここに、国語科の教科の特質として定められた「言葉による見方・考え方」と「資質・能力」の関係性が見えてくる。認知心理学の観点から、読みの認知過程にはトップダウン処理とボトムアップ処理の二つがあることは先に述べた。このうち、トップダウン処理は文章間や段落間の論理構造についての理解を大きく促進すること、そして、トップダウン処理による読みによって主体的に読み進めること、批評的に読み進めることができるのであれば、これは「知識及び技能」の習得だけにとどまらず、「思考力・判断力・表現力」といった観点での読みの学力の育成が期待できる。

第２章　　説明的文章指導における評価

第１節　評価の基本的理念

評価とは対象の価値を測定・判断する行為である。評価は、指導者から学習者へ一方的に行うのではなく、学習者の側から指導者の指導そのものに向けても行われる。「資質・能力」の育成が求められている中では、パフォーマンス評価の重要性が指摘されているが、本節ではこれからの学力評価について述べ、次節で説明的文章指導における評価について論じていく。

第１項　評価の方法

評価は生徒や教師にとって、実行可能な改善の方向を示すものでなくてはならない。また、生徒の知識や能力は、実際の行動に生かされるような状況で評価されなければならない。このような評価の観点から、重視されている評価の仕方がポートフォリオ評価である。ポートフォリオ評価について田中(2010)は以下のように述べている[39]。

> 「ポートフォリオ評価」の「ポートフォリオ」とは「紙挟み」とか「書類かばん」とかの邦訳があるように、子どもたちが創造した「作品」(日記、ビデオテープなどを含む)や様々な評価記録(教師の観察記録、子どもの読書目録など)を収集したもので、その収集された中身やそれを入れる容器(ファイル、箱、棚など)を意味します。「ポートフォリオ評価」とは、子どもたちの学習活動で生み出されてくる、様々な「作品」を蓄積するとともに、それらの「作品」を取捨選択する「検討会(conference)」に子供たちを参加されることで、教師の指導上のねらいと子どもたちの学習上のめあてを練り合わせることとともに、子どもたちの自己評価能力の形成を促そうとするものです。

ポートフォリオ評価は、評価の観点として生徒たちの自主性を重んじ、学習上のめあてと学習活動の振り返りを得て自らで評価する方法であることがわかる。このため、高等学校の評価観がペーパーテストによるものが主流となっているという批判に対しての改善するための評価方法として注目されている。評価観の改善の方法としていま必要なものは、単に教科の知識を獲得したり、記憶したりするのではなく、さらに多面的な認知状況を査定する広範な評価の方法である。このポートフォリオ評価では「資質・能力」の評価として、生徒たちも参加しながら評価することができる点で、従来のペーパーテストのみの評価に比べ生徒の自己評価能力やメタ認知能力を育むことができる。そしてこのポートフォリオ評価の中でも特に注目されているのが、パフォーマンス評価である。パフォーマンス評価は、知識を記憶しているかどうかは確かに従来のペーパーテストでの評価が有効であるが「資質・能力」の評価にまで対応することができないという批判を受けて注目されている評価方法で

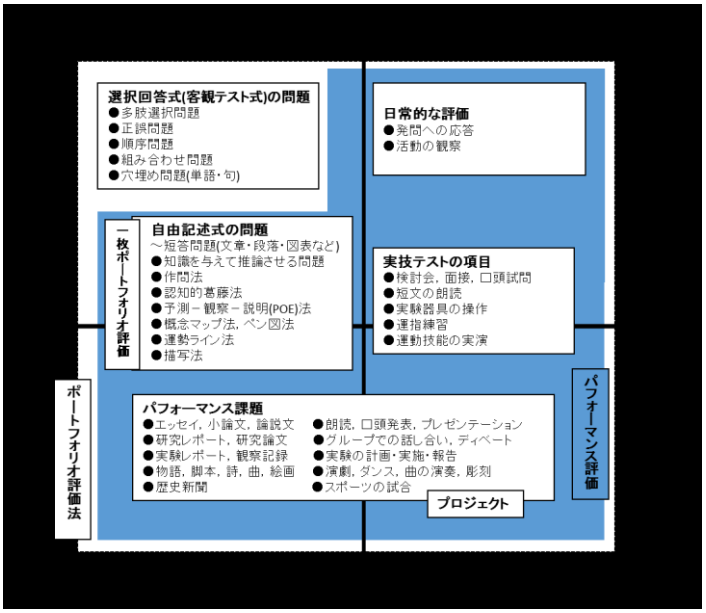
---

39 田中耕治(2010)『新しい「評価のあり方」を拓く―「目標に準拠した評価」のこれまでとこれから―』、日本標準、P. 30。

ある。これの評価方法についてパフォーマンス評価を「真正の評価」とした石井(2015)は以下のように述べている[40]。

> 「使える」レベルを評価として有効な方法としては「パフォーマンス評価(performance assessment)」を挙げることができます。パフォーマンス評価とは、一般的には、思考する必然のある場面で生み出される学習者の振る舞いや作品(パフォーマンス)を手掛かりに、概念理解の深さや知識・技能の総合的な活用力を質的に評価する方法と定義できます。

パフォーマンス評価は、狭義には、学習者のパフォーマンスを引き出し、実力を試す評価課題(パフォーマンス課題)を設定し、それに対する活動のプロセスや成果物を評価する、「パフォーマンス課題に基づく評価」を意味する。また、パフォーマンス評価の意図は課題の内容を、基準となるパフォーマンスで示された批判的な思考や知識の総合を求めるものにしていこうとするところにある。このパフォーマンス評価とポートフォリオ評価の関係について田中(2010)は図Ⅱのように示している[41]。図Ⅱは学校での評価の方法の全般を包括して示されているため、国語科の評価として取り入れることが困難であると考えられる「運動技能の実演」や「演劇」、「ダンス」といったものも含まれている。しかし学習の評価の観点として国語科としても、もちろん当てはまる点が読み取れる。田中は、パフォーマンス評価はポートフォリオ評価のうちの一つとして示しており、パフォーマンス評価に当てはまらないものとして選択回答式の問題を挙げている。しかし、選択回答式も、田中によるとポートフォリオ評価のための要素となりうる。このため、選択回答式や自由記述式という問題形式の観点からは、どちらも評価の方法として不適切とは言い難い。現在、重視されている評価の方法の一端を確かに担っていると言える。高等学校の評価観として問題視されているのは、ペーパーテストによる評価のみに重点が置かれて



[40] 石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは―コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影―』、日本標準、p. 56。
[41] 田中耕治(2010)『新しい「評価のあり方」を拓く―「目標に準拠した評価」のこれまでとこれから―』、日本標準、p. 30。

いることであって、他の評価方法と共に組み合わせて使用することができれば、ペーパーテストでも学力評価の役割の一端を担えるであろう。「目標に準拠した評価」を行う上で、問題はポートフォリオ評価やパフォーマンス評価がそれぞれどのような扱われ方をしなくてはならないのかという点である。単純に自由記述式と選択回答式の問題を取り扱ったからと言って、これからの真正の評価に対応した評価を行っているとは言えないのではないか。先に引用した田中(2010)でも示したように、ポートフォリオ評価については生徒たちの自己評価能力の形成をも目的として行われなければならない。そのためには明確な評価基準を設定し、生徒に提供していかなければならない。そのために必要とされているのがパフォーマンス課題におけるルーブリックの活用である。「できる/できない」の二択では測ることのできない課題について評価する際、どのような点ができていると判断され、どのような力が不十分であると評価されているのかをパフォーマンスの観点において示すことができる。ルーブリックについて石井(2015)は以下のように述べている[42]。

> ルーブリックとは成功の度合いを示す三～五段階程度の尺度と、それぞれの段階にみられる認識や行為の実的特徴を示した記述語からなる評価基準表のことをいいます。また多くの場合、ルーブリックには各段階の特徴を示す典型的な作品事例も添付されます。典型的な作品事例は、教師や学習者がルーブリックの記述語の意味を具体的に理解する一助となります。
>
> ルーブリックはパフォーマンス全体をひとまとまりのものとして採点する「全体的ルーブリック」としても作成できますし、一つのパフォーマンスを、複数の観点で捉える「観点別ルーブリック」としても作成できます。一般に全体ルーブリックは、学習過程の最後の総括的評価の段階で全体的な判断を下す際に有効で、他方、観点別ルーブリックは、パフォーマンスの質を向上させるポイントを明示するものであり、学習過程での形成的評価に有効です。

石井によると、ルーブリックを作成するうえでその採点基準を記述語として作成し、カリキュラム全体としても単元や課題別の評価基準としても作成できる。また、採点基準にパフォーマンスの質を向上させるためのポイントを明示する点では従来の学力評価で設定されていた評価基準との違いを読

①パフォーマンス課題を実施し、学習者の作品を集める。
②パッと見た印象で、「5 すばらしい」「4 良い」「3 合格」「2 もう一歩」「1 かなりの改善が必要」という五つのレベルで採点する。複数名で採点する場合はお互いの採点がわからないように工夫する。(たとえば、筆記による作品の場合は、評論を付箋に書き、作品の裏に張りつける。)
③全員が採点し終わったら、付箋紙を作品の表に張り直し、レベル別に作品群に分ける。それぞれのレベルに対応する作品群について、どのような特徴が見られるのかを読み取り、話し合いながら記述語を作成する。
④一通りの記述語ができたら、評価が割れた作品について検討し、それらの作品についても的確に評価できるように記述語を練り直す。
⑤必要に応じて評価の観点を分けて、観点別ルーブリックにする。

[42] 石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは―コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影―』、日本標準、p. 60-61。

み取ることができる。西岡(2017)はルーブリックの作成について右のような手順(表Ⅰ)[43]を示し、次のように述べている[44]。

> 表の手順でルーブリックを作った場合、各レベルに対応する典型的な作品例(これを「アンカー作品」と言う)を整理することができる。ルーブリックには、そのようなアンカー作品を添付しておくと、各レベルで求められているパフォーマンスの特徴をより明確に示すことができる。

従来の高等学校の学力評価において、記述式であっても「採点基準」は存在した。しかし、ルーブリックを評価の観点としてペーパーテストに活用することはなかった。従来の高等学校の評価の課題やペーパーテストでは、採点基準によって「できる/できない」を評価され点数化されていた点について、ルーブリックを評価に取り入れることでさらに細かく評価の観点を示すことができる。これによって生徒たちは自らの解答に対してどのようなパフォーマンスができていなかったかをペーパーテストによっても振り返ることができる。これらを今後の高等学校国語科の学力評価の観点としても取り入れていくべきである。

第２項　評価の目的

学力評価の観点を述べるためには、その評価によって期待できる効果や目的についても述べておかなくてはならない。先にパフォーマンス評価について、生徒へのフィードバックができるようになるルーブリックの活用の重要性を述べた。改めて評価の目的について述べておくと、生徒の自己評価を促すものでなくてはならないという点が重要であろう。評価の目的について西岡(2015)は以下のように述べている[45]。

> 教育実践の担い手である教師が、学習状況の評価、とりわけ学力評価を通して教育の成果が上がっているかどうかを確認し、実践を向上させることにある。しかし、学習の質を向上させようと思うと、子どもへの指導のなかで評価を活用していくことも重要となる。また、教育評価のある局面に着目すれば、学習形態や教育環境に関する判断を行うため、または学校がアカウンタビリティ(説明責任:accountability)を果たすためといった、特定の目的のために評価が行われていると捉えられる場合もあるだろう。

西岡によると、評価の目的には実践の質の向上を目指すところにある。教育の評価は教師

---

[43]西岡加名恵(2017)『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる―学ぶ力を育てる新たな授業とカリキュラム―』、西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子 ＋ 京都府立園部高等学校・附属中学校編、学事出版、p.16

[44] 西岡加名恵(2017)同上、p.16

[45] 西岡加名恵(2015)「序章　教育評価とは何か」、『新しい教育評価入門　人を育てる評価のために』、西岡加名恵・石井英真・田中耕治編、有斐閣、p.13。

にとって授業内での生徒の学習状況を把握する手立てと言ってよいだろう。また、評価は生徒にとっても自らの学習状況を確認するための手段になりえる。自分の作成した作品(＝解答)に対して出された他人からの評価から自分の学習状況や学力の向上を把握することができる。また、自分の作品(＝解答)に対して自己評価を行うことで生徒は自らの学習状況を振り返る観点も得られる。「目標に準拠した評価」の観点を生徒と共有することによって、生徒が自らの置かれている状況を把握することができる。高等学校の学力評価は教師主体の評価ではなく、生徒も参加し主体的に関わってゆける評価の方法を模索していかなければならない。

第２節　説明的文章指導の「資質・能力」の評価について

第１項　国語科における「資質・能力」の評価について

前節では国語教育に限らない高等学校の学力評価、とりわけ学習評価の方法とその目的に焦点を当てて論じてきた。本節の目的は国語科での評価、本研究での目的である説明的文章指導における学力の評価を述べていくことであるが、先に国語科としての評価について述べていく。国語科の評価の方法について、国立教育政策研究所教育課題研究センター(2012)は以下のように示している[46]。

評価方法は，原則として，次の３段階で設定している。

① 観察，点検

・行動の観察：　学習の中で，評価規準が求めている発言や行動などが行われているかどうかを「観察」する。

・記述の点検：　学習の中で，評価規準が求めている内容が記述されているかどうかを，机間指導などにより「点検」する。

② 確認

・行動の確認：　学習の中での発言や行動などの内容が，評価規準を満たしているかどうかを「確認」する。

・記述の確認：学習の中で記述された内容が，評価規準を満たしているかどうかを，ノートや提出物などにより「確認」する。

③ 分析

・行動の分析：　「行動の観察」や「行動の確認」を踏まえて「分析」を行うことにより，評価規準に照らして実現状況の高まりを評価する。

・記述の分析：　「記述の点検」や「記述の確認」を踏まえて，ノートや提出物などの「分析」を行うことにより，評価規準に照らして実現状況の高まりを評価する。

国立教育政策研究所の示している評価の方法として三つの方法が示されているが、それらには共通して「行動」と「記述」をもとにして生徒の学習状況を評価することが記されている。この「行動」については、授業内で学習者の発言や態度を対象として観察や確認、分析が行われる。そして、「記述」は生徒の提出した作品をもとに評価すると考えられる。そのため、ポートフォリオ評価の対象となるのは主にこの「記述」であると考えられる。生徒の提出した作品を教師の作成したルーブリックと見比べることによって生徒は自らの学習

---

46 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2012)「評価規準の作成、評価方法等の不風改善のための参考資料(高等学校 国語)～新しい学習指導要領をふまえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」、p. 45。

を振り返り、自己評価を行うことができる。また、国立教育政策研究所が示した三つの評価の方法では、実際に評価を行う人物が記されていない。評価について「教師」や「指導者」という言葉が示されていない以上、評価を行う者が生徒であっても問題はない。あえて言うならば、生徒も評価する側に参加できるように設定されていると捉えるべきであろう。繰り返すようになるが、高等学校国語科での評価の観点でも生徒が評価に関して参加できるようにするべきである。

また、国語科における「資質・能力」の評価の観点について藤森(2018)は「『資質・能力』の評価は『自己評価』によって行う。」と述べている[47]。前節においてパフォーマンス評価とルーブリックの作成に関して生徒へのフィードバック、自己評価の重要性について述べた。藤森の上記指摘をふまえると、生徒の自己評価を促すためのルーブリックの作成やアンカー作品の提示が重要となる。教師と生徒が評価の主体となって学力や学習状況について振り返ることができる機会を与えることが教師の役割である。また、国語科の評価方法について、松友(2010)は以下のように述べている[48]。

> 「言語パフォーマンス」を評価する場合、「パフォーマンス課題による評価」が第一に考えられる。これは、学習者の言語活動を導く課題を設定し、「ルーブリック」と呼ばれる学習者の言語活動の質を段階的に評価するための評価基準に基づいて解釈する方法である。この「ルーブリック」は、単に表面的なパフォーマンスを記述するだけでなく、言語活動を内面的に支える知識や思考の道筋を内包して記述しなければならないため、教師個人による作成が非常に困難で時間がかかるという難点がある。
>
> また、自由記述式による評価の作問を工夫することによって、学習者の思考のプロセス自体を可視化し、言語活動の質をとらえようとする試みが進んでいる。

松友もルーブリックの作成について述べたうえで、教師個人による作成の困難さについて言及しているが、やはり、国語学力の評価において「目標に準拠した評価」を行おうとするとパフォーマンス評価の観点からルーブリックの作成についてはできる限り作成するのが望ましいと

[redacted]

[47] 藤森裕治(2018)『学力観を問い直す　国語科の「資質・能力」と見方・考え方』、明治図書出版、p. 36。

[48]松友一雄(2010)「Ⅴ国語の力の育ちをどのように評価するか　1　評価の目的と主体」、『新たな時代を拓く　中学校 高等学校国語科教育研究』、全国大学国語教育学会編、学芸図書 p. 223。

考えられる。また、国語科の評価の方法として松友(2010)では、表Ⅱのように示されており[49]生徒への課題の作成やポートフォリオ評価を含めた日々の評価の方法について、非常に簡潔かつ明瞭にまとめられている。この表Ⅱより、評価の方法としてパフォーマンス評価を行うために自由記述式課題を作成し、ルーブリックの作成と自己評価のためのフィードバックすることは十分、学力評価におけるパフォーマンス評価の役割を担っていると言える。国語科における「資質・能力」の育成としても、パフォーマンス評価を目的とした記述式の課題や、自己評価の機会を作ることによって、学力評価の可能性を見いだすことができる。

第２項　説明的文章指導における評価について

第１章では説明的文章における「言葉による見方・考え方」を土台とした「資質・能力」の育成について、トップダウン式の読みに着目することでその一端を育成できることを述べた。また、前項までに国語科における「資質・能力」の育成の成果をどのように評価するのかについて、パフォーマンス評価の観点からルーブリックの作成の重要性を指摘した。これらのことから、説明的文章指導における「資質・能力」の評価では、パフォーマンス評価の観点より、ルーブリックの作成と生徒へのフィードバックによって自己評価の機会を与えることが求められていると言えよう。

説明的文章指導における評価については、第１章で示した新学習指導要領での目標と合わせて論じておきたい。改めて、「論理国語」の目標を示す[50]。

(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2)論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

第１章では「論理国語」の目標から、説明的文章指導では論理的、批判的に考える力を伸ばすことを求められていることを述べた。また、その論理的、批判的に考える力の一端としてトップダウン式読みの活用の重要性を指摘した。加えて、説明的文章指導で育成すべき学力評価についてもトップダウン式の読みによってその一端を確かに育成することができる

[49]松友一雄(2010)「V国語の力の育ちをどのように評価するか　1　評価の目的と主体」、『新たな時代を拓く　中学校 高等学校国語科教育研究』、全国大学国語教育学会編、学芸図書 p.223。
[50]文部科学省(2018)「高等学校指導要領解説　国語編」http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_02.pdf、p.26。

と論じた。説明的文章指導において、「資質・能力」を評価するためには、松友が述べている「言語活動を内面的に支える知識や思考の道筋」の要素としてルーブリックなどの評価基準に組み込まれるべき内容が、トップダウン式の読みである。説明的文章指導では、「何が表現してあるのか」ではなく、「何をもとに考えたことを表現してあるのか」を評価基準として設定することが求められる。トップダウン式の読みでは、文章構造から先の文章を予測し、批評しながら読むことができるのであった。具体的な問題例や評価基準であるルーブリックについては第４章で示すが、学力評価をペーパーテストで行おうとすると、その観点の一つとして、トップダウン的な読みが行われているかという点は重要である。認知心理学の観点と評価の方法との観点を複合させた説明的文章の問題作りを目指し、実際の高校生の解答を分析・考察することで、トップダウン式の読みを反映させるペーパーテストでの「資質・能力」の評価の可能性を模索することができるだろう。

第３章　　説明的文章における高校生の意識に関する調査

第１節　アンケートの概要

本研究では、多様な高校生の学習実態を把握するためのアンケート調査を実施した。アンケートの調査対象は三重県内の公立高等学校 2 校、1 年生から 3 年生の 240 名である。実施した高等学校のうち 1 校は全生徒のうちの半数程度が就職し、進学とは別のカリキュラムで就職に必要な専門的知識を学ぶことのできる学科も併設されている。これを A 高校とする。この学校の 1 年生から 3 年生の 122 名に調査の協力を依頼し、2018 年 9 月 26 日と 9 月 27 日に実施した。また、もう 1 校は全校生徒のほぼ全員が進学を希望している学校である。この高等学校の 1 年生から 3 年生、118 名に調査への協力を依頼し 2018 年 11 月 5 日に実施した。この高校を B 高校とする。

カリキュラムや就職・進学状況が大きく異なっている二校に調査を依頼したのは、アンケート調査や学力評価問題に汎用性を持たせるためである。本研究では特定の学力や進路を目標としている高校生に対するアンケート調査や学力評価問題を作成することを目的とはしておらず、より多様な高校生の説明的文章の学習実態の把握を重視している。

なお本アンケート調査では、高校生が日々の授業で感じている説明的文章の学習についての意識を調査することを目的としている。調査において対象者全員に 10 分間の回答時間を設けた。調査項目は以下の 5 つである。各質問での選択肢は資料を参照してほしい。

質問 1　高校国語科の教科書の説明的文章を読むとき、どのような点に注目して読んでいますか。（複数回答可）

質問 1 では説明的文章を読む際に高校生が注目している点について問うた。「その他」を含めて 13 の選択肢を設定した。この質問によって説明的文章を読む際に高校生がどのような目的を持っているのか、説明的文章の読解のための要素をどれくらい意識しているのかという点について明らかにする。第１章第２節に記したように岸(2004)は、説明的文章の理解を規定する要因の文章材料要因について(1)文章のタイプ、(2)文章構造、(3)表現様式、(4)記述順序の四つを示している。これを参考にして説明的文章の読解において高校生が注目している点について設問した。

質問 2　高校国語科における説明的文章(評論文・論説文・説明文)のテストについて、難しいと感じる問題はありますか。（複数回答可）

質問 2 では、説明的文章のテストについて高校生達が難易度の高いと感じる課題について問うた。ペーパーテストによって問われる問題の解答は大きく分けて選択回答式と自由記述式の２つがある。今回のアンケートではこれらに加え、「漢字や語句の意味を問う問題」を設定した。漢字や語句の意味レベルの問いと、読解力が求められる問いを区別して設定す

ることで回答者たちの混乱を防ぐ狙いがある。新学習指導要領では語句の意味や漢字の習得については主に「知識及び技能」にあたり、「読むこと(読解)」は「思考力・表現力・判断力」に分類されるため今回は回答欄を区別した。この質問によって高校生がテストの回答形式の点においてどのような苦手意識があるのかを解明し、それによって高等学校国語科の育成すべき「資質・能力」や説明的文章指導の課題について明らかにする。

質問 3　高校国語科における説明的文章(評論文・論説文・説明文)のテストについて、テストの前に自分でどのような勉強をしていますか。(複数回答可)

質問 3 では、高校生たちの学力テストに向けた学習について問うた。主に定期テストの勉強法について調査したが、高校国語科におけるテストの学習法を調査することで生徒たち自らがどのような点で学力を伸ばすことを目的としてテストに備えているのかを理解することができる。そして、生徒たちはテストでどのような学力が測られると考えているのかということも、この質問から明らかになる。全部で 7 の選択肢を設定した。

質問 4　高校国語科における説明的文章の授業ではどのような力を身につけられると思いますか。(複数回答可)

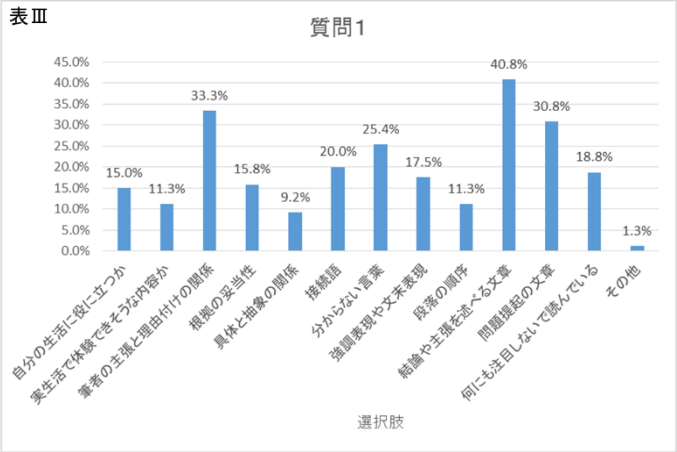
質問 4 では、高校生が説明的文章指導によって得られると考えている力について、6 つの選択肢の中から当てはまるものを回答させた。生徒たちが日ごろの説明的文章指導の中で成長していると感じる部分を問うこの質問によって、高等学校国語科の実態について知ることを目的としている。説明的文章指導によって得られる学力のうち、学力評価によって発揮することができるものを中心に 6 つの選択肢を設定した。

質問 5　2020 年度から実施される「大学入学共通テスト」では説明的文章の一部の問題で記述式の解答が取り入れられます。このことについて、不安や疑問点はありますか。

質問 5 では、新テストの導入に伴って生徒たちの現状の疑問点や不安について調査した。現高校 1 年生からはセンター試験ではなく新テストを受験することになる。2 年生や 3 年生であっても一概に受けないとは言いきれないテストであるため、この質問によって、生徒たちの新テストへの意識を表面的ではあるが調査した。この質問では、「疑問や不安はない」「疑問や不安がある」の 2 つから当てはまる方を選び、その理由を記述式で解答する方法をとった。

第２節　アンケート結果と分析

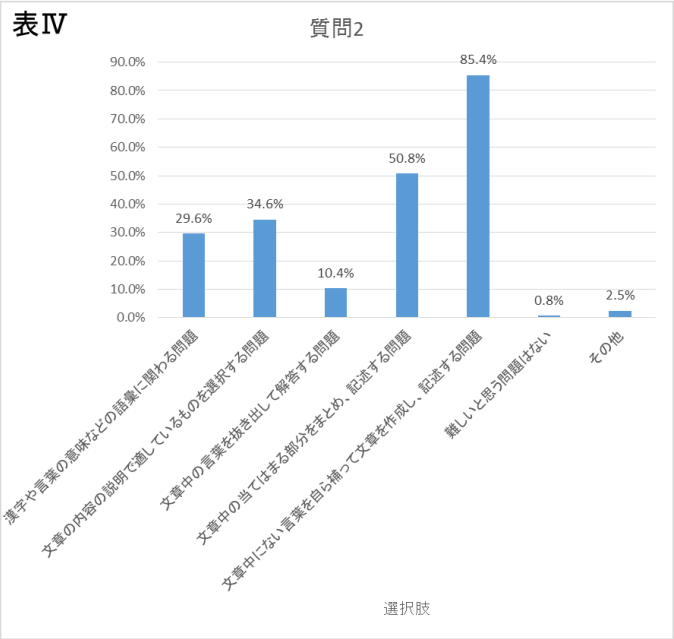
第１項　質問１の結果



質問 1 では、説明的文章を読む際に高校生が注目している点について問うた。調査結果を棒グラフにして表したものが表Ⅲである。結果としてはどの項目も半数を越える回答を得られておらず、40.8%で「結論や主張を述べる文章」が一番高い数値が出た。続いて「筆者の主張と理由づけの関係」、「問題提起の文章」が全体の 3 割程度の回答を得た。「その他」と回答した高校生からは「自分の普段の生活と照らし合わせる」や「興味があるかないか」、「質問に関する部分」と回答されていた。以上の結果を分析すると、回答の多かった 3 つの項目に関しては、文章の内容読解という点では大変重要な要素である。高校生が説明的文章を読む際に筆者の問題提起とそれに対する答え（主張）を整理しながら読解していることがわかる。しかし、内容読解だけにとどまらないような学習への発展的な要素となりうる「具体と抽象の関係」や「段落の順序」といった点では回答率が低いため、依然として内容読解のみの授業が批判されている高等学校国語科への問題点もこの結果から浮き彫りになる。高等学校国語科の説明的文章指導における「資質・能力」の育成という観点では未だに課題の残る結果となった。「その他」以外の選択肢では「具体と抽象の関係」が 9.2%と 1 割にも満たない結果になったことについて、文章の構造や、筆者の説得の論法（レトリック）にまで注目できていないことが指摘できる。筆者のレトリックに対して分析的に読むことの能力の育成もこれからの高等学校国語科の課題といえるだろう。

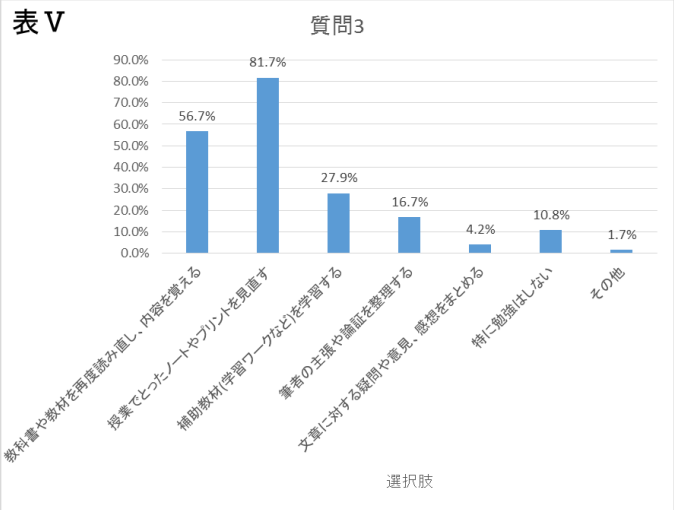
第２項　質問２の結果

質問２では、説明的文章のテストについて高校生が難易度の高いと感じる課題について問うた。調査結果を棒グラフにして表したものが右の表Ⅳである。高校生の85.4%が難しいと回答したのは「本文中にない言葉を自ら補って文章を作成し、記述する問題」であった。それに次いで「本文中の当てはまる部分をまとめ、記述する問題」が50.8%と半数以上の回答を得た。「難しいと思う問題はない」と回答した高校生は 0.8%であった。「その他」については「段落の同じような主張のまとまりに分ける問題」や「筆者の考えをまとめる問題」、「全て難しい」という答えが得られた。以上の結果より、高校生の苦手意識としてやはり自らの言葉を使って文章を作成するという点と、理解した内容を文章にするという点が指摘できる。読解偏重が指摘されている高等学校国語科にとっては、やはりこの結果も重く受け止めなければならない。「本文中にない言葉を自ら補って文章を作成し、記述する問題」と「本文中の当てはまる部分をまとめ、記述する問題」については自由記述式の問題を想定した項目となっている。これら二つが高い割合で「難易度が高い」と回答されていることについては、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成が求められていることについても納得のいく結果であるといわざるを得ない。



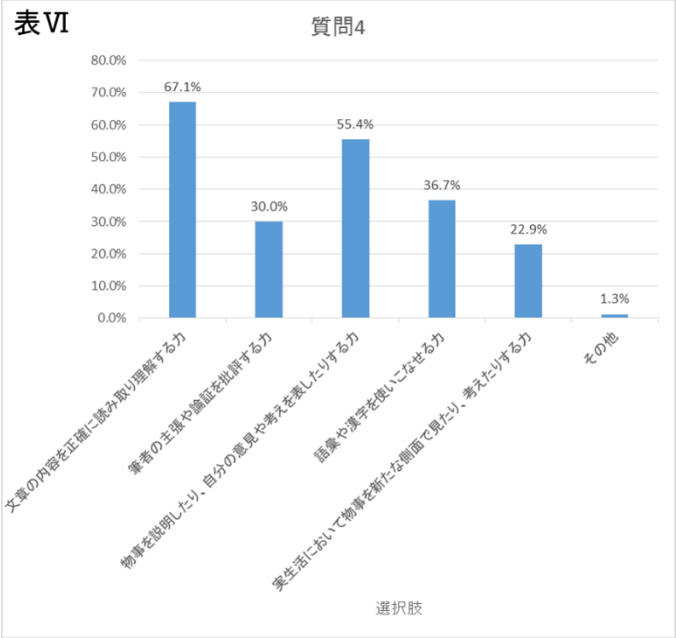
第３項　質問３の結果

質問 3 では、主に定期テストの勉強法について調査し、高校生たちの学力テストに向けた学習について問うた。調査結果を棒グラフにして表したものが表Ｖである。高校生たちの勉強法として 81.7%の回答を得たのが「授業でとったノートやプリントを見直す」であり、次いで 56.7%が「教科書や教材を再度読み直し、内容を覚える」であった。「その他」には「語句や漢字の意味」や「ノートとワークを見て自分でノートをまとめる。」、「勉強の仕方がわからない」という回答があった。以上の結果を分析すると、授業内容や教材内容を振り返るという学習法については達成されていることが分かる。しかし文章を自らで再度記してみることや、筆者の論証の仕方にまで目を向けることは少ない。つまり、授業の内容について理解すればテストの学習が成り立っていることになる。これについてはテストと学習法のどちらに問題があるのかはわからないが、少なくとも生徒の学習方法として批評したり、文章に綴ってみるといった学習がなされていないことは問題点として指摘できる。大学入試の改変によって高等学校国語科の授業やカリキュラムにも改善が求められているのであれば、生徒の学習に影響を及ぼす授業の在り方を今後も模索しなければならない。また、「その他」で回答された「勉強の仕方が分からない」という指摘については回答数が少なかったとはいえ、軽視することができないと考えられる。高等学校国語科の説明的文章の学習について、どのようなことをすれば勉強として成り立っているのかという観点はこれまでの学力研究の中でも課題となっていた。「文章の内容が分かればよい」という域から脱却しなければいけない高等学校国語科において、文章の批評力や論理の整理などの要素を明らかにしながら日々の授業での「資質・能力」の育成を目指していかなくてはならない。そのための一端としてやはりトップダウン式の読みに重点を置いた授業や学力評価問題の作成、そしてルーブリックの作成や生徒に自己評価の機会を与えることが重要となるだろう。一点だけ述べておきたいのは、「補助教材(学習ワーク)を学習する」は学年によって定期テストに向けた学習の方法として想定した項目であった。しかし、そもそもそのような補助教材が学校から配布されていない高校が調査対象に存在したため、十分なデータとして取り扱うことができない。アンケートとしては調査したが参考するには不十分なデータとなってしまったことを補足しておきたい。



第４項　質問４の結果

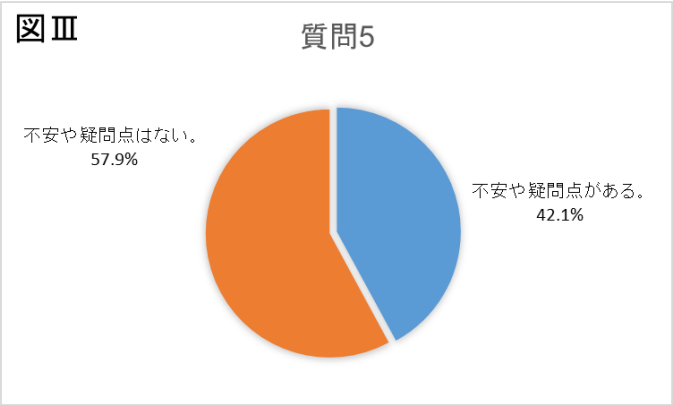
質問４では、高校生が説明的文章指導によって得られると考えている力について調査した。調査結果を棒グラフにして表したものが右の表Ⅵである。項目の中で比較的高い割合で回答されたのが67.1%で「文章の内容を正確に読み取り理解する力」と55.4%で「物事を説明したり、自分の意見や考えを表したりする力」であった。「その他」には「普段の生活から学んだことを見つけて考える力」と「わからない」という回答があった。



以上の結果より、高校生たちは説明的文章では文章の内容理解と表現力という点での学力がつくと意識しているということがわかる。しかし、「筆者の主張や論証を批評する力」は30.0%、「実生活において物事を新たな側面で見たり、考えたりする力」は22.9%にとどまった。新学習指導要領の国語科の教科目標では実社会を意識した目標が掲げられている。文章の批評力や実生活と関連させて文章を読むということが新学習指導要領で求められていることに納得がいく一方、高校生の学習の意識として以前、文章の内容読解が重視されていることについては問題視しなければならない。これからの説明的文章指導についてはやはり、文章の批評力と実生活につながる学習を取り入れていくべきであると考えられる。文章の内容理解という点では従来からの説明的文章指導は大きな役割を確かに担っているが、それだけにとどまらない読解力の育成を目的とした学習を授業内でも取り入れられるように、これからの高等学校国語科には期待したい。

第５項　質問５について

質問５では、新テストの導入に伴って生徒たちの現状の疑問点や不安について調査した。調査結果を円グラフにして表したものが図Ⅲである。「不安や疑問点がある。」と回答したのは全体の 42.1%であった。主な回答理由としては「自分で考えて文章をまとめることが苦手だから、書けるか不安」や「記述問題が苦手なので不安です。」といった記述式に対する苦手意識からの不安と、「採点基準がわからない」や「どの教科の先生が丸付けをしても大丈夫な答えじゃなくなるから。」といったテストの採点基準の妥当性や公平性への不安や疑問点が挙げられた。逆に「不安や疑問がない。」と回答したのは 57.9%となった。主な回答理由としては「大学に行く予定はないから」や「大学入試を受験しないから」といった理由と「大学では論文やレポートの提出があるのでその前準備だと思えば。」や「記述の練習をたくさんすれば安心だと思うし、定期テストでも記述式の問題は出題されていて、慣れていると思うから。」といった記述式のテストの導入について肯定的な理由があった。また、学年別に新テストへの不安や疑問点の有無については右の表Ⅶのような結果となった。不安や疑問点については３年生よりも１・２年生の結果のほうが高い割合となったのは予想通りである。しかし、必ずしも大学進学を目的としている高校生のみに対して行ったアンケート調査ではないため、回答者は様々な進路に向かう可能性がある。その中でも大学進学や新テストの受験に対して不安や疑問がある回答した高校生が４割以上にのぼったことからは新テストの注目度の高さがうかがえる。



(表Ⅶ) 学年	不安や疑問点がある		不安や疑問点はない	
	割合	人数(人)	割合	人数(人)
1年生	43.6%	17	56.4%	22
2年生	56.3%	72	43.8%	56
3年生	16.4%	12	83.6%	61
全体	42.1%	101	57.9%	139

第３節　アンケート調査のまとめ

アンケート調査を通して明らかになった高等学校国語科の説明的文章指導の課題としては、文章の批評力と「思考力・判断力・表現力」の育成が挙げられる。批評力の育成については、第２章でも取り上げた新学習指導要領の「論理国語」における目標に示されている。そのため、これからの高等学校国語科における、説明的文章指導ではいかにして文章に対する意見を読み手として持つことができるかという点が重要視されてくるだろう。

質問１では、高校生の説明的文章と読むときの意識を問うた。アンケート結果からは内容読解に必要な要素となるものについては比較的高い割合で注目していることが分かった。しかし、筆者の論述の仕方や表現方法についてまで注目できているとは言い難い結果であった。

質問 2 では、学力評価テストの設問で難易度が高いと感じる問題のタイプについて問うた。これについては予想通り、自由記述式の問題で自らが言葉を補って解答する問題が選択されていた。自由記述式の問題での表現力の評価は生徒にとって難易度が高いと感じられるのだが、ルーブリックの作成や自己評価の機会を設けることで、特定の解答を求める学習から、自分の意見や表現力を評価される学習によって「資質・能力」の育成につながっていくであろう。

質問 3 では定期テストに向けた高校生の学習方法を調査した。結果からは内容を読解するという点では十分学習されていることが明らかになった。しかし、定期テスト以外では、一般的には初見の文章を読んで学力評価問題に取り組むことになる。そのため初見の文章を読んで解答するための学習がなされているかという点ではまだまだ不十分である。初見の文章から筆者の主張を把握したり、論証を整理したり、文章を批評したりする学習が必要だろう。

質問 4 では説明的文章の学習によって高校生が得られると考えている力について調査した。文章の批評力といった点では課題が見られるが、自分の意見を表すといった表現力は得られるという回答が過半数を占めたことは国語科の説明的文章指導において肯定されるべき結果である。調査校における国語科教諭の授業の工夫が反映された結果ではないかと考えられる。

質問 5 では新テストへの不安や疑問点について調査した。学年によって新テストに対する注目度に差はあったが、進学を目的としない生徒も大勢いる中で約半数が「不安や疑問点がある。」と回答していることについてはやはり新テストの注目度の高さを感じずにはいられない。新テストはプレテストなどで導入への準備が進められているため、今後の動向にも注目していきたい。

今回のアンケート調査を通して、高校生の説明的文章の学習に対する意識について以下のような点について指摘することができる。

・内容読解の要素については注目しているが、文章の批評力や実生活との関連という点での意識が比較的希薄である。
・説明的文章の授業によって表現力を付けることができると感じているが、学力評価問題としては難易度が高いと感じている。

これらが、説明的文章指導における重大な課題であることは、高等学校国語科の課題として指摘されている[51]。これらの課題を克服するためには「言葉による見方・考え方」をいかに働かせて、主体的な学習ができるかという点につながってくるであろう。より一層の「思考力・判断力・表現力」の観点での学習が必要である。

また、今回のアンケート調査での分析で、A 高校と B 高校の比較は行わなかった。その理由は、高校生全体の意識を把握する調査の目的としたためであり、A 高校と B 高校の差を浮き彫りにすることが目的ではなかったことが挙げられる。また、調査データの比較を行った際に、その有意差が発見できなかったため、本研究では、高校生の意識として一括した。

[51]文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申)」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf、p.124、p.127。や大滝一登(2018)「第 1 章　新学習指導要領が目指す高校国語科像」、町田守弘・幸田国広・山下直・高山実佐・浅田孝紀編、『シリーズ国語授業づくり―高等学校国語科―　新科目編成とこれからの授業づくり』、東洋館出版社、p.8-10。による。

第４章　　説明的文章指導における学力評価問題の提案

第１節　学力評価問題の提案

第１項　学力評価問題の提案目的

本研究の目的は国語科教育で育成が求められている「資質・能力」についての評価について述べ、学力評価問題の可能性を論じることである。そのために、新学習指導要領を視野に入れた国語科教育の学力研究や説明的文章指導に関する研究をふまえながら「資質・能力」の育成と評価の一体化について検討していく。これまでの国語科教育研究における学力論については、高等学校国語科では学力研究が小学校や中学校よりもなされていないことと、大学入試が変わらなければ高等学校の教育現場の改革は難しいという指摘[52]がある。この指摘をふまえ、ここでは、高等学校全体が抱える評価テストと授業の課題を述べる。また、学習指導要領の改訂に伴う。「学力の三要素」と「言葉による見方・考え方」の観点から国語科で育成すべき「資質・能力」について考察し、その評価について論じる。さらに、アンケートと評価問題の作成と調査・分析を通じて、高等学校国語科の説明的文章指導における学力評価について述べることとする。

そのうち学力評価問題とルーブリックを提案する目的は、高等学校国語科において「資質・能力」の育成とそれを評価するための手段としての学力評価問題の可能性を論じることにある。これまでの国語科教育研究における学力研究や評価研究をもとに実際に学力評価問題を作成し、高校生の解答を分析することによってより実践的な研究としての意義を見出し、理論と実践の融合を目指す。「資質・能力」を評価する学力評価問題の作成は、これまでの研究の実践的な提案として位置づけられるものである。調査対象は第３章でアンケート調査を行った高校生 240 名である。それぞれの高等学校の説明や実施日時は第３章第１節を参照してほしい。また、解答時間は 35 分に設定した。

第２項　学力評価問題の本文について

本稿で学力評価問題の本文としたのは國分功一郎の「贅沢を取り戻す」(大修館書店『精選　国語総合　新訂版』(平成 28 年検定済み教科書)所収)である[53]。検定済みの国語科教科書に採用されている教材であるため、高校生への教育的配慮はなされている文章であると考えられることから、本教材を学力評価問題の本文として採用した。

また、教材本文の特徴として、筆者の論述の仕方が浪費と消費を対比させた二項対立の文章として読者の同意を得ようとしている文章であることがあげられる。説明的文章は読者を意識して書かれた事象や観念を説明している文章である。「贅沢を取り戻す」も、読者の理解を得るために対比や具体と抽象を効果的に活用した文章であるため、筆者の論証の仕方に対する文章の読解力や批評力の育成が見込める文章である。事象に対する専門的な説明ではなく、教材本文は新たな観念の提示という側面が強い説明的文章であるため、筆者の

---

[52] 石川卓郎(2017)『2020 年からの教師問題』、KK ベストセラーズ、p. 22。
[53] 教材全文は資料編(p. 90-92。)に掲載している。

論証に対して批評する点で教育価値が見出せる文章である。以上から本研究での学力評価問題の本文として採用した。

教科書教材の「贅沢を取り戻す」では評価問題で取り上げた本文からさらに筆者の論が展開し、モノの享受する姿勢という点にまで述べられている。しかし、高等学校国語科に求められている「資質・能力」について、「思考力・判断力・表現力」の育成といった観点から学力評価問題を作成すると、教材本文の前半部分の抜粋で十分に問題の作成が可能である。

「贅沢を取り戻す」では筆者が生活に必要である余分のことを浪費と言い換えることによって記号や観念を受け取る消費と対比させて論じ、消費社会についての批判とモノの享受について主張している文章である。評価問題に採用した本文では、浪費と消費の対比について読解することができれば消費社会の批判や筆者の主張であるモノの享受の仕方についての理解は容易いと考えられる。そのため、生徒に高次の読解力を求めるのであれば、文章の構成や文章の批評力、提示された意見に対する論理的思考力、自らの意見の表現力という点で学力評価問題を作成することを目標としなければならない。

第３項　設問の目的とルーブリック

本研究では、学力評価についてのルーブリックを作成し、調査した 240 名の高校生の解答の評価を実際に行う。評価方法としてルーブリックを採用した理由に、「目標に準拠した評価」の重視が高等学校国語科にも求められていることが挙げられる。ペーパーテストの得点のみによる評価が批判されている高等学校の評価観の改善の方法として注目されているのが「目標に準拠した評価」であるが、ペーパーテストは知識の再生と習得量を評価する場合にのみ優れた評価であるという指摘[54]がされている。しかし、大学入試などのハイ・ステイクスなテストを無視することもできない現状において、学力評価問題と「目標に準拠した評価」の一体化の可能性を模索しなければならない。そのため、「目標に準拠した評価」の質的な基準として取り上げられているルーブリックを作成し、テストの評価基準として設定することで一体化の可能性を模索する目的のもと採用した。本稿の学力評価問題については全四問のうち、問 3 と問 4 が自由記述式の解答様式のため、その二つに関してルーブリックを作成する。

問 2 において、選択回答式を採用したのは、選択回答式においてもトップダウン処理を活用した読みの評価を行うことを目的としたためである。選択回答式の設問は、パフォーマンス評価に含まれないものであったが、トップダウン処理によって読みを進めた結果を評価するという観点では、必ずしも自由記述式に囚われた問題を作成する必要はないと考えられる。文章構造において他の段落や文章との関連を読み取って、自らが予想することと一致している選択肢を選ばれる問題とした。この問 2 によって、生徒は文章を予測しながら

---

54 髙木展郎(2016)「理論編③　新しい教育評価」、大滝一登・幸田国広編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践―「資質・能力」の確実な育成をめざして』、大修館書店、p. 35.

読むことを強いられるため、トップダウン処理による読みの方法をとらざるを得なくなる。文章の批評力と文章構造に着目した読みを評価するという点で、新学習指導要領にも求められている文章の批評力や論理的思考力に対する評価を行おうという試みである。

問１については、「資質・能力」の評価ではなく、文章の内容理解という点で生徒の理解を促進するための問として設定している。選択回答式を採用したのも、生徒に余計な負担をかけることなく、本文の内容理解の度合いを評価することが目的である。

実際の本文や設問は資料編に掲載しているのでそちらを参照してほしい。

（１）　問１について

問 1 は、選択式を採用し、本文から適する部分を抜き出す問題とした。設問の目的として、本文で述べられている浪費と消費の対比についての理解を評価することが挙げられる。そのため、この問いでは消費と浪費の対比について文章中の言葉を用いて説明させる。模範解答は以下のように設定した。

問１　　ア)目の前にあるモノ　　イ)モノに付与された意味・観念
別解イ)モノに付与された記号や観念

問 1 では、ア)は解答する際の文字制限を 10 文字で設定しているため模範解答以外の答えはすべて誤答となる。イ)については 15 文字で設定したため、正答が二通りある。

（２）　問２について

問 2 は、選択回答式を採用し、課題に対する答えとして適するものの番号を選ぶ問題とした。本文のうちで削除された［　※　］の部分について、どのような内容が書かれているのかを推論する問題となっている。本文の内容理解と文章構造の理解度を評価することが設問の目的である。本文全体の流れと［　※　］の前後の文脈から記述されているだろう内容を推論する問いとなっている。模範解答は以下の通りである。

問２　①

①は、［　※　］の前後についての説明がなされており、前後の文脈から推論できる文章の内容について消費の具体例が示されているという意見は確かに納得のいくものであるため正答である。

②は、「ボードリヤールの言葉を使って消費を説明し」という部分が誤りである。ボードリヤールが説明したのは浪費であるため本文の内容と齟齬があるため誤答となる。

③は、消費社会の批判に説得力を持たせるために浪費社会を推奨する内容であると言う主張である。しかしそれでは［　※　］までの本文が浪費を具体的に説明したことと、［　※　］の

後の文章が抽象的な言葉で消費と浪費を再度対比させたことについて本文の関連性がなくなってしまう。そのため浪費社会についての説明や推奨が ※ の部分でなされているとは考えにくい。よって誤答である。

④は、必要を超えた余分のことを浪費と言い換えたこと、消費が他の言葉で言い換えられていないことを根拠にして、 ※ の部分を想定している。しかし、余分を浪費と言い換えたのであって、浪費を余分と言い換えたわけではない。そのため、消費を他の言葉で言い換えることは、浪費の説明で行われたことに沿う論証の仕方ではない。よって誤答である。

⑤は、本文では書かれていない点について指摘し、それを根拠にして ※ の内容について推論している。しかし、人類が消費を始めた経緯を説明していたとしても、 ※ の前の本文とその後の本文に関連性がなくなってしまう。また、前後の文脈との流れを的確に読み取れていないことに加え、筆者の論証の方法について的確に表現することもできていない。よって⑤も誤答である。

（3） 問 3 について

問 3 は、自由記述式を採用し、本文に対する批評力についての問題とした。 ※ の部分を埋めるために書かれた文章に対して、その適否を問うた。問 3 の模範解答は以下のように設定している。

解答① A さんの文章は消費についての具体的な例が 2 つ示されており、本文の浪費の具体的な説明から双方を対比させて主張を述べる構造に沿うものである。よって私は A さんの文章は本分に適していると考える。(93 文字)

解答② A さんの文章は消費についての具体的な例が 2 つ示されている。しかし、本文にある浪費についての説明よりも多い例を挙げ、重複して説明する必要は感じられないため A さんの文章は適していないと考える。(94 文字)

ここでは、A さんの文章と設定したが、これは國分功一郎による文章をそのまま引用したものである。そのため、文章構造の維持という点では適していると考えられる。しかし、文章の内容としては浪費の例が本文では 1 つしか挙げられていないのに対し、A さんの文章では消費についての説明の例がグルメブームとモデルチェンジの 2 つが挙げられている。わざわざ例を重複させて説明する必要は無いと考えれば、この文章は適していないと指摘できる。つまり、A さんの文章が適しているか否かは評価の基準ではない。評価に際しては、適否の判断理由が述べられており、その理由として、文章の構造から判断したのか、具体例の取り上げ方から判断したのかに着目する。そういった判断が示されているかという基準で、生徒の批評力と表現力を評価する。

以上より、問 3 のルーブリックは、次のように設定した。

ルーブリック

レベル	0	1	2	3	4	5
評価基準	・無解答など	・Aさんの文章について適切に言及せず、文章の構造もしくは事例の取り上げ方以外の点に着目して説明がなされたうえで、適否の立場を明らかにすることができていない。	・適否の立場を明らかにしているが、Aさんの文章について適切に言及せず、文章の構造もしくは事例の取り上げ方以外の点に着目して説明がなされている。	・Aさんの文章について適切に言及して、適否の立場を明らかにしているが、文章の構造もしくは事例の取り上げ方以外の点に着目して説明がなされている。	・文章の構造もしくは事例の取り上げ方に着目して説明がなされたうえで、適否の立場を明らかにしているが、Aさんの文章について適切に言及していない。	・Aさんの文章について適切に言及し、文章の構造もしくは事例の取り上げ方に着目した説明がなされ、適否の立場を明らかにしている。

評価の観点は、以下の三つの要素に重点を置いて設定している。

・Aさんの文章について適切に言及できていること。
・前後の本文と比較して、文章の構造や事例の取り上げ方に着目できていること。
・Aさんの文章に対する適否を明からにしていること。

これらの要素のうち、前後の本文と比較して、「文章の構造や事例の取り上げ方に着目できていること。」は「Aさんの文章に適切に言及できていること。」よりも高次な読解力であると考えられる。内容の読み取りだけではなく、文章の構造にまで目を向けた解答についてより高い評価を与える為に、先に示したルーブリックを作成した。

（4）問 4 について

問 4 は、自由記述式を採用し、複数の観点からの意見を踏まえて自らの意見を表現させる問題とし､本文を読んだBさんとCさんの意見を参考に文章を批評する課題を設定した。なお、問 4 の模範解答は以下のように設定している。

解答①　Bさんは語義的な観点から消費を捉え、筆者の主張に対する矛盾点を指摘している。満足の有無という点で浪費と消費を対比させている筆者の述べ方について、語彙の定義が正確でないことにより、浪費の定義の仕方にも疑問を感じずにはいられなくなる。そのため、筆者の主張には納得できない。(134 文字)

解答②　Cさんは筆者が行った説明の仕方に着目し、論証の妥当性について指摘している。言葉の言い換えや、哲学者の言葉を引用して説明している筆者の論証の仕方は確かに読み手に対して納得をうながす工夫として評価でき、具体的な例示によってさらに説得力を高める述べ方がされている。そのため、筆者の主張に納得できる。(146 文字)

解答③　読者を共感させるための文章の工夫として C さんの言うような対比や具体例が効果を挙げている。一方、B さんが指摘する辞書の定義との齟齬もその自明性を疑ったからこそ筆者の新たな見方が生まれた点で評価できる。よって筆者の述べる消費社会の問題点に共感したため、筆者の考えに納得できる。(136 文字)

B さんと C さんそれぞれの意見を示したことにより、複数の観点からこの本文を読むことができるため、多様な解釈の中で高校生が自ら意見を持ち表現する力についても評価することが可能となる。BさんとCさんのどちらの意見を参考にするか、また、筆者の主張への賛否に関してはどちらを選んだとしても評価には影響のない。B さんの提示した文章は、語義という観点から消費を自らで捉えなおし本文を批評している。C さんの提示した文章は、筆者の論証の方法を抽象的に論じ、肯定的に捉え評価している。「B さん、C さんのいずれかまたは両方をふまえて」答える問題であるため、自分の主張を述べる際に、B さんまたは C さんの提示している観点について述べられていることが評価基準として設定されるべきである。また、Bさん、またはCさんの視点に立って本文を読み返したときに指摘できる点について述べられていることも評価の基準として設定する。

以上から次のようにルーブリックを設定した。

ルーブリック

レベル	0	1	2	3	4	5
評価基準	・無解答など	・筆者ではなく、Bさんもしくは Cさん、またはその両方に対する立場が表現されている。	・筆者の考えに対する自らの立場を示すことができているが、筆者の主張や論証の仕方についての指摘がなされておらず、両者の発言のどちらかまたは両方をふまえた表現がされていない。	・両者の発言のどちらかまたは両方をふまえた表現がされており、筆者の考えに対する自らの立場を示すことができているが、筆者の主張や論証の仕方についての指摘がなされていない。	・筆者の主張や論証の仕方についての指摘がなされており、筆者の考えに対する自らの立場を示すことができているが、両者の発言のどちらかまたは両方をふまえた表現がされていない。	・両者の発言のどちらかまたは両方をふまえた表現がされて、筆者の主張や論証の仕方についての指摘がなされており、筆者の考えに対する自らの立場を示すことができている。

評価の観点は、以下の三つの要素に重点を置いて設定している。

・ＢさんかＣさん、もしくはその両方の文章について適切に言及できていること。
・筆者の論じ方についての指摘がなされた解答ができていること。
・筆者の考えに対する自らの立場を明からにしていること。

問 4 では「ＢさんかＣさん、もしくはその両方の意見をふまえ、筆者に対する自分の意見」を述べなくてはならない。また、ＢさんとＣさんの意見の両方が、筆者の考えに対する納得か不服を述べており、筆者の論じ方に対する観点を示した文章である。実際の解答も筆者に対する納得度を示した解答であることと、筆者のレトリックに対する意見であることを重要視した。「筆者の論じ方についての指摘がなされた解答ができていること。」についてはより高次な読解力であると考えられるため、高い評価になるように設定している。

第２節　学力評価問題における調査結果とその分析

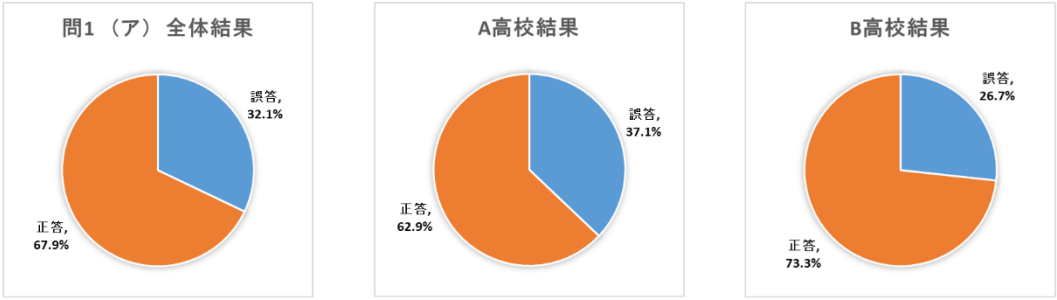
第１項　学力評価問題の結果

本項では、前節で示した学力評価問題の生徒の解答結果を示し、それについての考察を述べる[55]。それぞれの問いで示す結果は、高校生全体とＡ高校、Ｂ高校の三つを提示している。それぞれから読み取れることと、本調査の学力問題と評価の妥当性について述べていくことで、高等学校国語科の説明的文章指導における学力評価問題についての考察を行っていく。

（１）問１の結果について

問 1 では、消費と浪費の違いを読み取り本文中から適切な部分をそれぞれ抜き出して答える。まず、問１の(ア)の正答率を表したのが下の図Ⅳである。全体の正解率は 67.9%と全体の三分の二以上の正解率であった。しかし、消費と比較した浪費についての説明を抜き出す問題であったが、浪費についてのみの説明である「限度を超えてモノ」と誤答した生徒が多く見られた。消費と浪費の違いは、受け取るものが「モノ」か「モノに付与された記号や観念」かという点である。「限度を超えてモノ」を受け取る浪費に対して、設定された文字数で消費を対比させている部分は本文の記述にはない。消費と浪費の対比について正確に読みとることができた生徒が(ア)で正答できたと考えられる。Ａ高校とＢ高校では正答率に差があったが、消費と浪費を的確に対比している部分を正確に読み取って解答することができたためＢ高校の方がより誤答の割合が少なくなったと考えられる。

図Ⅳ

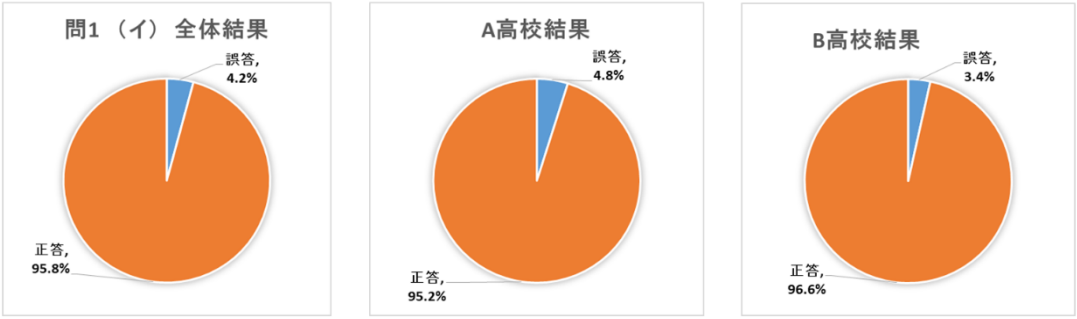


問１の(イ)の正答率を表したのが下の図Ⅴである。全体としても高い正答率が出ている。これは、正答が二通りあったことと、本文中で消費について説明されている部分が浪費に比べて少なかったことが要因として挙げられるだろう。Ａ高校とＢ高校いずれにしても高い

55 生徒の解答は本稿の資料編「学力評価問題の解答・評価一覧」(p. 95-117)に掲載してある。

割合で正答しているため、消費を本文から理解するための設問として効果的であったと考えられる。誤答の例は「モノに付与された意味や観念」、「ものに付与された記号や観念」などがあったが、本文中から抜き出して解答する設問のため、これらについては誤答とした。

図Ⅴ

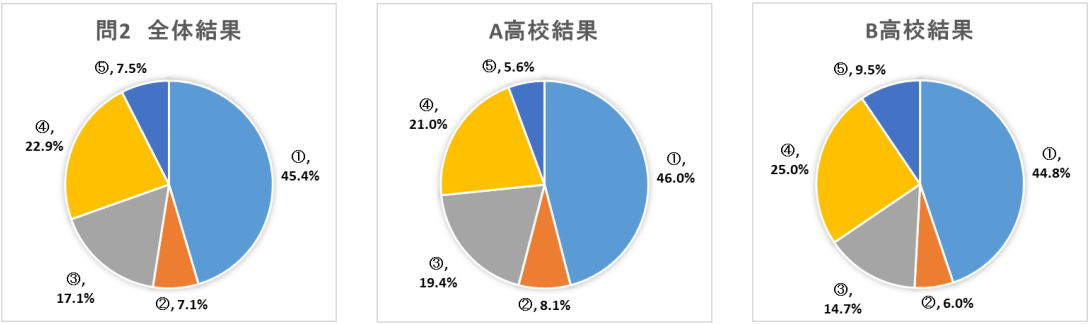


問１の二つの設問を通して、消費と浪費の違いを読み取り、文章の理解を促すことを目的とした設問であったが、（ア）と（イ）の両方を正解するには適度な難易度として設定できたと考えている。（ア）では浪費の説明としては適している部分でも、消費との違いを適切に説明できないことによって誤答としたため、本文中に書かれている対比を正確に読みとらなければいけない問題である。（イ）では、消費を説明している部分を抜き出す設問であるが、（ア）と比較すると難易度が低いと感じられるだろう。しかし、（ア）と（イ）の二つを組み合わせることで、文章の対比とそれぞれの説明を的確に読み取らなくてはならない問題として役割を果たしたといえる。

（２）問２の結果について

問２の結果は以下の図Ⅵの通りである。

図Ⅵ

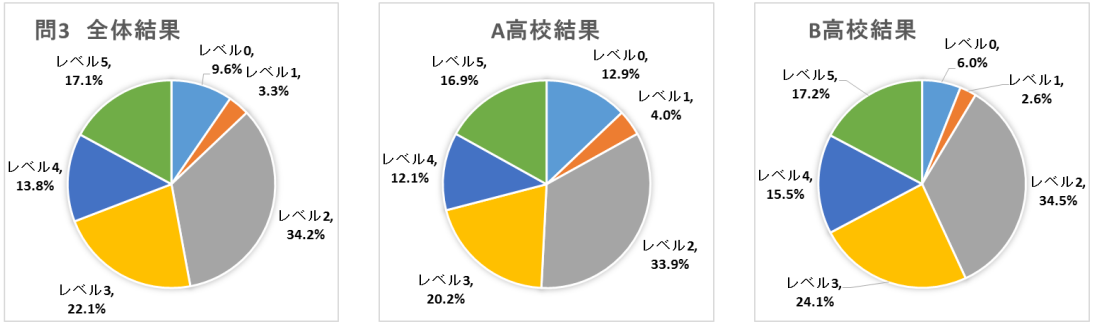


問 2 は文章全体を読んで空白に当てはまる文章の説明として適している選択肢を答える問いである。全体の結果として、45.4%の生徒が正答を選ぶことができた。この結果はＡ高校とＢ高校でもほぼ変化することなく、①から⑤の選択肢それぞれを選んだ生徒の割合も大きく差が出ることはなかった。問 2 は高校生の「資質・能力」の評価を目的とした選択式の問題で、内容の読解ではなく文章の構造に着目した設問であった。内容の読解によって解答できる設問ではないため、文章の構造に着目した読み方や、文章の批評力が必要である。文章全体や設問になっている空白の部分、その前後の文章から適する選択肢を選ぶ問題として生徒の批評力を適切に評価するための設問であった。「資質・能力」の評価という観点でも、内容読解にとどまらない設問として、生徒の批評力、文章の構造に着目した読み方を重視した問題であったが、その正答率については一考を要する。

（３）問 3 の結果について

問 3 では、空白の部分を埋めるために作成したＡさんの文章に対する適否を問うた。問 3 では前節で示したルーブリックを基に評価を行った。その結果が下の図Ⅶである。

図Ⅶ



問 3 では、提示された文章に対する批評力と、自分の意見の表現力を評価した。レベル 0 からレベル 5 までの 6 段階での評価とした。筆者の論じ方や文章の構造に目を向けて批評できている解答はレベル 4 以上の評価となる。評価がレベル 4 以上の割合は全体で 30.9%であることから、これからもトップダウン処理を意識した読解指導や、学力評価問題の作成による「資質・能力」の育成が求められる。また、レベル 2 の割合が高くなっていることも特徴として挙げられる。Ａさんの文章に対する適否を明確に表しているかがレベル 2 の要素である。より高次な読解力としての事例の取り上げ方や筆者の論証の仕方についての考察まで及んでいなかった解答が多かったことが指摘できる。文章の内容が正しいかどうかという点での考察ではなく、文脈から不足している情報を適切に補足できているかという点での意見を述べることが、問 3 では求めている。そのため、文章の構造などについての考察ができるような批評力の学習が依然として求められている。また、問 3 における各レベル

のアンカー作品は以下に示す。（それぞれの記述における末尾の()内は、資料中の受験番号に対応している。）

【レベル 5】

・私は適していると思います。理由は前の文では、浪費についての具体的な例が挙げられているのに対して、消費についての具体的な例が挙げられていなかったからです。消費とは何かなどを述べていて良いと思いました。(30)

・適していないと思います。二つの例はとても具体的に書いてあるけど、消費をここまで具体的に書くと浪費の説明する段落の説得力が少しなくなるかなと思ったからです。(66)

【レベル 4】

・私は適していると思います。この文の前にも後にも消費の具体例が書かれていないからです。ここに消費の具体例を書くことで浪費と対比もできるので適していると思います。(47)

・※より前の部分で浪費について書かれており、※の後の部分では、消費について批判している内容が書かれている。そのため※の部分には、浪費と対比した上で消費を批判する理由が書いていないといけないため適している。(133)

【レベル 3】

・適していると思う。消費とは何なのか、を誰でも想像しやすいような具体例を述べながら書いてあるから。例を二つあげることでより具体的に消費について説明できていると思うので、私はこの文が適していると思う。(195)

・適していないと思う。理由は具体的な消費の説明をするべきところを具体例を 2 回使って説明しているからだ。これでは具体的な消費とはという部分が分かりにくくなってしまうと思う。(162)

【レベル 2】

・私は適していると思う。理由は、実際に好きな著名人が宣伝していたお店に行ったことがある。そのお店にあるものが食べたいわけではない。行ったという意味、事実が大切であるから記号の消費は終わらない。(119)

・この文章は適していないと思う。なぜなら前の段落ですでに消費についての説明が

具体例とともに書かれているからである。これ以上の消費についての説明は不必要と感じた。(181)

【レベル 1】

・あの文と自分の考えはほぼ同じで、実際に行ったことによる満足はなく記号といった点でいえば、新しいといってもあまり変わっていなかったり、よくわからないことなどがそういう考えとして成立しているのではと思う。(36)

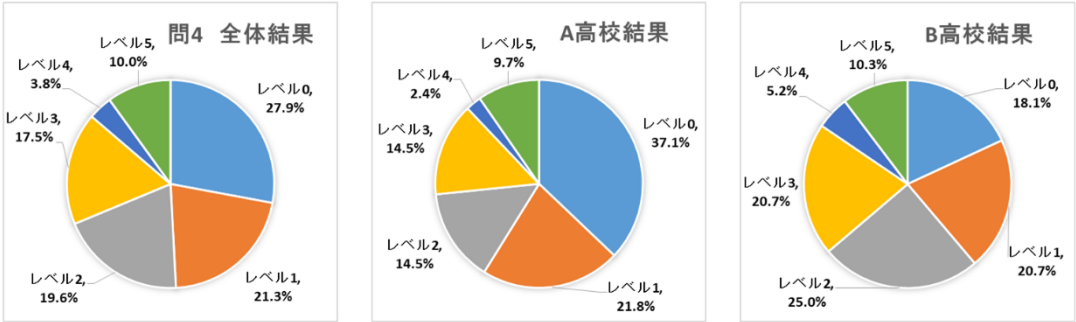
・宣伝により有名になった店や新しい商品に興味が湧くのが、現代はＳＮＳにアップするなどの目的を持った人もいるが、ただおいしいものを食べたい、便利な品がほしいという人もいると思う。(124)

各レベルにおけるアンカー作品では、前節で示したルーブリックをもとに評価したものの例を示している。アンカー作品の中で文字数に差がなかったことは特徴として挙げられる。解答の文字数に応じた評価は目的としていないが、解答の文字数に差がないことにどのレベルでも表現する意欲を読み取ることができる。レベルが上がるほど、筆者の論証の仕方や事例の取り上げ方など、レトリックについて着目した指摘がなされている。Ａさんの文章に対して述べるだけではなく、文章の構造にも着目することによってより高次な読解力として評価することができる。また、レベル 2 や 1 では自身の経験から、Ａさんの文章に対する納得できるかどうかという点での考察にとどまっている。また、本文やＡさんの文章に対する理解が不足していると感じたものもレベルが低くなっている。

（4）問 4 の結果について

問 4 では、本文に対する複数の意見をふまえて、筆者の考えに対する自らの意見を述べる問いである。問 4 の結果は以下の図Ⅷである。

図Ⅷ



高校生全体の結果の特徴として挙げられるのは、レベル 0、つまり無解答であったものの割合が問 3 と比べて大きくなったことである。無解答の原因としては、設問の難易度か生徒の意欲の二点が原因として挙げられる。レベル 1 からレベル 3 までの割合が半数以上を占めていることと、レベル 5 とレベル 4 の割合が問 3 と比べて大きく減少していることから、設問の難易度を高く設定しすぎたと判断せざるを得ない。また、35 分の解答時間で四つの問二答えなければいけないことに生徒の集中力が途切れたのかもしれない。解答に設けた 200 字の文字数も、高校生にとっては多く感じられ、意欲を欠く原因であったと思われる。もちろん難易度がそこまで高くないと感じた生徒もいたかもしれないが、実際に説明的文章指導をしている中で、生徒の学力を見定めながら解答時間や難易度を設定していくのは重要である。今後の評価問題作成では、生徒の実態により即したルーブリックを考案することが必要となる。また、レベル 1 の割合がＡ高校とＢ高校の両方で同じ程度の割合になっている。これは「筆者の考えに対する自分の意見」を書く問題に対し、「ＢさんかＣさん、もしくはその両方に対する意見」を解答してしまっている割合を指す。設問に対して適切な解答を書くという表現力についても課題の残る結果であると言える。レベル 1 の中には筆者の考えに対する意見を書いたつもりであった生徒もいるかもしれないが、適切に表現するという点で高校生の表現力の育成は課題である。レベル 4 とレベル 5 は筆者のレトリックに対して考察し、表現されていることが条件であるが、複数の意見をふまえて筆者の論じ方にまで考察できた割合は低かった。説明的文章指導における表現力の育成と、筆者の論じ方について着眼した学習が依然として今後の課題である。各レベル別のアンカー作品を以下に示す。（それぞれの記述における末尾の()内は、資料中の受験番号に対応している。）

【レベル 5】

・Ｃさんの意見が自分と合っている。贅沢とは何かという導入からはじまり、浪費と消費という普段から使う言葉だが、しっかりと意味が理解できていないものの説明をし、対比されている。そのため、分かりやすく、贅沢を取り戻すことが必要という筆者の考えに共感できた。（111）

・私は筆者の意見に納得している。筆者が言いたいことは贅沢に対する消費社会の問題点を認識してほしいということであって国語辞典に載っている消費と浪費を説明しているわけではない。C さんが言うように消費と浪費は一つの例であって読者が読みやすいように説得力をつけて、社会の問題点に結び付けているのだと思う。（178）

【レベル 4】

・筆者の主張は、贅沢は必要であり消費社会の消費の渦に巻き込まれることで贅沢ができなくなるというものである。浪費と消費を対比して、消費社会の問題点を浮き

彫りにするために哲学者の言葉を用いていると考えられ挙げられている具体例により主張に説得力が感じられるため、私は筆者の主張に納得することができる。(199)

・私はCさんと同じく筆者の意見に賛成だ。理由は、辞典と意味が異なっていても実際の世界ではどうなっているのかという事を述べているのは筆者の方だからである。本文に書かれているように消費は必要最低限の物だけを買う事だが、多くの人は浪費を行っていることだろう。だから私は筆者の意見に賛成だ。(237)

【レベル3】

・私はBさんの意見もCさんの意見も理解できる。私もBさんのように、消費の意味が違うと感じた。しかし、Cさんのように、筆者が主張を強めるために対比させたとも考えることができる。だから、私はこの文章を読んで納得ができたし、新しい見方を発見することができた。(5)

・国語辞典で調べれば、矛盾点が出てくるかもれないがこれはあくまで一人の一つの考え方であるから納得できる。それぞれ筆者と同じ考え方ではないし、さまざまな意見があるからこそ社会について考えが出てくるのだと思う。消費社会への一つの考え方としてこの文章を読んでみれば、筆者の主張に納得できると考えられる。(138)

【レベル2】

・私は筆者の考えに納得できません。なぜかというと「消費は満足をもたらさない」と書いてあるが、満足が得られずに、消費を続けることも浪費も同じようなものだと思うからです。(2)

・私はBさんの意見に納得しました。「なぜ消費は満足をもたらさないのか。」と疑問に思いました。筆者は、消費は限度が決まっていないから満足をもたらさないと述べているが、私は、限度が決まっていない分、自分の満足のいくところまで消費をすることができると考えます。だから筆者の意見に納得することができません。(203)

【レベル1】

・私は、Cさんよりの意見だが、Bさんの意見もおもしろいなと思った。矛盾しているようにみえるが、結局は同じなのではないかと思う。一見正反対に思える辞書と筆者だ。欲は少しの間満たされる。しかし、人はそれ以上にまた欲が湧く。すると

また消費してしまうから、満足しきれない。ということにつながるのだろうと思う。(53)

・私は、消費というものは絶対に存在するものだと思いました。もし消費がないと、贅沢という概念も知らないということが起こると思います。確かに消費社会は批判されるものだが、大量生産と大量消費をねらいにしてそういう社会を育んでいる人もいると思う。だから、消費があってこその贅沢だと思う。(206)

問４では、自らの意見を先に主張する解答が大半を占めていた。生徒は自分の意見を述べるときにまず立場を明らかにしてから、その理由を述べる方法を取る。これはこれまでの学習によって、まずは自分の意見を表明した方が、読み手に伝わりやすいという考え方を得ているのだろう。そのため、自らの意見を表明していない解答は少なかった。しかし、筆者に対する意見を述べることを求められているが、B さんや C さんに対する意見に終止している解答も見られた。そのため、レベル１とレベル２では、問いに対して適切に答えることができているかという点で大きな差がある。また、B さんや C さんの意見をふまえたうえで、筆者の考えに対する意見を記述することそのものの難易度も高かったように感じた。適切に複数の意見の観点を取り入れ、自分の意見を主張し、表現するという点で様々な学力の要素が組み合わされてできている。自らの意見をそのまま述べるのではなく、いかに B さんや C さんの示した観点から文章を読み、表現するかという課題であった。自分の意見を主張することと、提示された観点から文章を読み取ることのどちらを念頭に置いて解答を作成するかという点で、生徒の解答に差が生まれたと考えられる。

第２項　学力評価問題における調査結果とその分析

調査の結果を通して、評価問題としての妥当性を検討する。

問１では正答率が高くなったが、文章の内容理解を促す目的の設問であったため、その役割を果たすことが十分にできたと考えられる。

問２でも、生徒の解答が正答に大きく偏ることはなく、Ａ高校とＢ高校の間で大きな差はなかった。45％の正答率は高いとは言えず一考を要するが、その際には生徒がこうした設問に慣れていなかったということも含めて考えるべきであろう。学力評価問題としての機能を十分に果たしているといえ、高校生の「資質・能力」を評価する為の設問としての役割を十分に発揮できたといえる。

問 3 ではほとんどの生徒がＡさんの文章に対する適否を述べることができていた。しかし、筆者の論証の仕方や事例の取り上げ方まで着目した考察に至った生徒の割合は低かった。これらの点について考察できた生徒を適正に評価できたことについてはルーブリックの作成の価値を見出すことができ、今後の生徒自身の自己評価に関する実践にもつながる問いを作成できた。しかし、生徒の学習の経過をもとに問いを設定するという観点が今回の

調査ではできなかったため、今後の自らの実践の課題としたい。

問 4 では、レベル 4 とレベル 5 の割合が低く、レベル 0 の割合が高くなってしまった。このことから、設問の難易度が高すぎたと考えられる。35 分という解答時間と 200 字という課題の中で生徒の意欲を削ぐことがないような設問作りについては今後も検討していかなくてはならない。しかし、その中でも筆者のレトリックについての考察を適切に解答できていた生徒もいた。このような生徒たちの表現力や批評力を評価することができたことについて、評価問題としての役割と価値を見出せる。問 3 と同様、実際の生徒の学習状況の把握をもとにした設問の作成は今後の課題としたい。

評価方法については「適切に表現されているか」という点を重視した。もし、それぞれの評価を生徒に返却し彼らの自己評価につなげるのであれば、評価に対する不満が生じることもあるだろう。「自分としてはこのようなことを書いたつもりであった。」と言われるかもしれない。しかし、評価方法として、評価する側が「このようなことが言いたいのではないか」と想像しながら生徒の解答を解釈することがあってはならないと考える。稿者は「書かれていることでしか評価してはいけない」という立場のもと、今回の評価を行っている。この点に関しては適切に表現することを学習に取り入れていき、いかに誤解のないように表現するかということを学習の目的としていかなければならない。

また、学力評価問題として、選択式と自由記述式、両方を使って提案することができた。従来のペーパーテストにあった内容読解のみでなく、文章の構造を読みとったうえでの思考力を測る問題や、文章に対する批評力、自らの意見を的確に表現する力という点を評価するための問題を作成した。知識の暗記と再生にのみ有効であった従来のペーパーテストから、高校生の「資質・能力」の一端を評価する可能性を見出すことのできる学力評価問題を提案することができた。

A 高校と B 高校を比較して、特筆すべきは正答率やレベル別の割合に大きな差が生まれなかったという点である。A 高校と B 高校では、従来の学力テストであればその結果に差が出ることも十分にあり得るが、本調査では、大きな差はうまれなかった。正答率や高レベルの割合が高いわけではなく、難易度が少し高い問いに対して、二校が同じような結果となったことは肯定すべき事実である。従来の知識の暗記、再生であったペーパーテストではなく、生徒の「資質・能力」の評価を目的とした学力評価問題では、現時点での高校生の学力に差は生まれない。「資質・能力」の育成を目的とした学習などを取り入れていかなければ、依然として従来のペーパーテストにしか対応できない学力のみの定着が危惧される。一般的に注目されている偏差値などには惑わされずに、「資質・能力」の育成を目指した学習を取り入れることによって、どの生徒にも成長の可能性が見いだせる結果となった。

結　章　　研究の成果と課題

序章で述べたとおり、本研究の目的は、高等学校国語科の説明的文章指導で求められている「資質・能力」を学力評価問題によって評価することの可能性を見出していくことであった。この目的に対して本研究では次のような過程を経た。

まず第１章では、国語科で求められている「資質・能力」の育成について、「言葉による見方・考え方」の観点から、その一端をトップダウン処理による読みによって実現できることを指摘した。認知心理学の観点から、改めて「読む」ということの認知過程をたどることで、高等学校国語科の課題として挙げられている文章の批評力や表現力についての育成の可能性を見出した。続く第２章では、評価の方法に関してもペーパーテストによるルーブリックの活用の重要性を指摘した。パフォーマンス評価を目的とした、学力評価問題の作成によって「資質・能力」の評価の可能性を述べている。このような過程をふまえて、第３章では、高校生の説明的文章における意識の実態を調査し、改めてその課題を批評力と表現力における課題を指摘した。そして第４章では、実際の学力評価問題の提案と調査を通して、学力評価問題における「資質・能力」の育成、評価について論じた。

本研究で明らかになったのは大きく以下の二点である。

まず、一点目は、批評力と表現力が課題とされる高等学校国語科において、実際の生徒に対するアンケート調査や学力評価問題を通して改めて指摘することができた。実際の高校生の意識調査から高等学校国語科の課題について、文章の批評力や自らの意見を適切に表現することを説明的文章指導では取り扱わなくてはならない。読解偏重と批判される高等学校国語科の課題を具体的に解き明かすことができた。

二点目は、「資質・能力」の評価に関して、学力評価問題での評価も活用できるということである。もちろん、全ての学習における「資質・能力」を評価することは難しいが、トップダウン処理における読みの認知過程に準じた学力評価問題の作成によって、「言葉による見方・考え方」を活用した学力を評価することができた。また、ルーブリックの作成によって、学力評価問題でのパフォーマンス評価を実現することができた。また、選択式の設問によっても、文章の構造に着目した高次的な読解力を評価することができた。従来のペーパーテストは知識の暗記と再生にのみ有効であるとされていたが、本研究における学力評価問題の提案によって、「資質・能力」の評価の可能性を見出すことができた。

今後の課題としては、生徒への自己評価の機会の導入が挙げられる。学校現場では複数の教員でルーブリックをもとにした評価を行い、それぞれの解答に対する評価を検討することがパフォーマンス評価では求められている。また、生徒の自己評価につなげるためにルーブリックの提示と自己評価の機会を与えることも重要である。しかし、今回の調査では匿名性を担保する目的のもと、無記名での調査であった。そのため、生徒に各自の解答を返却し、自己評価の機会を与えることにまで及ばなかった。また、具体的な生徒の学習状況を想定した学力評価問題の作成にも、依然として課題は残る。今回の調査では汎用的な学力評価問題の作成を目的としたが、実際の説明的文章指導においては生徒の学習状況をふまえた設問作りを心掛けなければならない。これらは今後の自らの実践での課題とする。

引用・参考文献一覧

○石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは―コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影―』、日本標準、p.56。
○石川一郎(2017)『2020年からの教師問題』、KKベストセラーズ、p.22。
○石原千秋(2007)『秘伝　大学受験の国語力』、新潮社。
○糸井通浩・植山俊宏遍(1995)『国語教育を学ぶ人のために』、世界思想社。
○植山俊宏(2009)「説明・解説」、田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』、教育出版、p.104-105。
○生駒大壱(2016)『全国大学入試問題正解　特別編集　思考力問題の研究』、旺文社。
○大熊徹(2009)「国語学力」、田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』、教育出版、p.242。
○大杉住子・伯井美徳　(2017)『2020年度大学入試改革！新テストの全てが分かる本』、教育開発研究所p.165。
○大滝一登(2018)「第１章　新学習指導要領が目指す高校国語科像」、町田守弘・幸田国広・山下直・高山実佐・浅田孝紀編、『シリーズ国語授業づくり―高等学校国語科―　新科目編成とこれからの授業づくり』、東洋館出版社、p.8-10。
○大槻和夫遍(1990)『教職科学講座17　国語教育学』、福村出版。
○大槻和夫大槻和夫(1981)「説明文教材の性格・分析と方指導法」、大槻和夫・野地潤家著『国語教材研究シリーズ７　説明文編』、桜楓社、p.13-14。
○尾木和英(2001)『評価で変わる国語の授業』、三省堂、p.16-17。
○岸学(2004)『説明文理解の心理学』、北大路書房、p.21-22、p.30。
○北野秋夫(2011)『日米のテスト戦略―ハイステイクス・テスト導入の経緯と実体―』
○キャロライン・V・Gipps(1994)『BEYOND TESTING　Towards of educational assessment』=鈴木秀行(2001)『新しい評価を求めて　テスト教育の終焉』論創社、p.45、p.48。
○「月刊高校教育」編集部(2018)『高等学校新学習指導要領　前文と解説』、学事出版。
○幸田国広(2016)「『「資質・能力」の育成』をめざす高校国語科の学習指導」、大滝一登・幸田国広編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践―「資質・能力」の確実な育成をめざして』、大修館書店、p.26。
○紅野謙介(2018)『国語教育の危機―大学入学共通テストと新学習指導要領』、筑摩書房。
○國分功一郎(2016)「贅沢を取り戻す」、大修館書店『精選　国語総合　新訂版』(平成28年検定済み教科書)所収、p.122-128。
○国立教育政策研究所(2016)『国研ライブラリー　「資質・能力」[理論編]』、東洋館出版
○国立教育政策研究所教育課程研究センター(2012)「評価規準の作成、評価方法等の不風改善のための参考資料(高等学校 国語)～新しい学習指導要領をふまえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」、p.45。
○櫻本明美(2015)「説明文」、髙木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要

用語辞典』、明治図書出版、p. 109。
○渋谷孝(1980)『説明的文章の教材研究論』、明治図書出版。
○J. T. ブルーアー(1993)『Schools for thought : a science of learning in the classroom』=松田文子・森敏昭監訳(1997)『授業が変わる―認知心理学と教育実践が手を結ぶとき』、北大路書房、p. 161。
○髙木展郎(2016)「理論編③　新しい教育評価」、大滝一登・幸田国広編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践―「資質・能力」の確実な育成をめざして』、大修館書店、p. 35。
○髙木展郎・大滝一登(2018)『アクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくり―高校国語の授業改革―』、明治書院。
○田近洵一(1994)「ことばの力から、ことばを学ぶ力へ―学力としての主体形成力―」、飛田多喜雄・野田潤家監修『国語教育基本論文集成　第3巻　国語科教育基礎論(3)　学力論』明治図書出版、p. 146。
○田中耕治(2010)『新しい「評価のあり方」を拓く―「目標に準拠した評価」のこれまでとこれから―』、日本標準、P. 30。
○鶴田清司(2015)「第3章　国語科　『根拠・理由・主張の3点セット』で論理的思考力・表現力を育てる」、奈須正裕・江間史明編著『強化の本質から迫るコンピテンシー・ベイスの授業づくり』、図書文化社、p. 59-60。
○寺井正憲(2015)「説明・解説」、髙木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要用語辞典』、明治図書出版、p. 135。
○中村和弘(2018)『見方・考え方［国語編］』、東洋館出版社、p. 13。
○奈須正裕・江間史明(2015)『教科の本質から迫る　コンピテンシー・ベイスの授業づくり』、図書文化社。
○奈須正裕(2017a)『教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベイスの授業づくりガイドブック―「資質・能力」を育成する15の実践プラン―』、明治図書出版。
○奈須正裕(2017b)『「資質・能力」と学びのメカニズム』、東洋館出版。
○西岡加名恵(2017)『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる―学ぶ力を育てる新たな授業とカリキュラム―』、西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子 ＋ 京都府立園部高等学校・附属中学校編、学事出版、p. 16
○西岡加名恵(2015)「序章　教育評価とは何か」、『新しい教育評価入門　人を育てる評価のために』、西岡加名恵・石井英真・田中耕治編、有斐閣、p. 13。
○広島大学国語学力研究グループ(2015)『高校国語　高次読解力評価のためのハンドブック』p. 27。
○福田誠治(2015)『国際バカロレアとこれからの大学入試改革　知を創造するアクティブ・ラーニング』、亜紀書房。
○藤森裕治(2018)『学力観を問い直す　国語科の「資質・能力」と見方・考え方』、明治図

書出版、p. 36。
○間瀬茂夫(2015)『説明的文章の読みの学力形成論』、渓水社、p.36。
○松友一雄(2010)「Ｖ国語の力の育ちをどのように評価するか　1　評価の目的と主体」、『新たな時代を拓く　中学校 高等学校国語科教育研究』、全国大学国語教育学会編、学芸図書 p. 223。
○森田信義(1984)『認識主体を育てる説明的文章の指導』渓水社、p. 115-116、p. 153。
○森田信義(2011)「説明的文章教育の研究」、森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著『新訂国語科教育学の基礎』、渓水社、p. 128-129、p. 137。
○守田庸一(2015)「論説・評論」、髙木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要用語辞典』、明治図書出版、p. 136。
○文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」、p. 36、p. 124、p. 127、p. 126。
○文部科学省(2018a)「高等学校学習指導要領解説　総則編」、p. 4。
○文部科学省(2018b)「高等学校指導要領解説　国語編」p. 21、p. 26。
○山内太地・本間正人(2016)『高大接続改革―変わる入試と教育システム』、筑摩書房。

おわりに

大学三年生の九月に教育実習で県内の公立中学校にお世話になった。当然教員としては右も左も分からない状態であったが、教育実習生としての教職に対する夢や情熱だけは人一倍強かったように思える。その教育実習中のある生徒の一言が私に衝撃を与えたことは今でも忘れない。授業中の私の提示した発問についてその生徒は「先生、その問題はテストに出るのですか？」と聞いてきた。正直なところ中学校の定期テストをふまえて授業中の発問は考えていなかったが、生徒にとって定期テストに活用できるかどうかは確かに気になるところだろう。私はこの生徒の言葉で自分の授業の価値を考え直した。その時の答えはつまらないものを生徒に返してしまったことも思い出される。むろんテストを目的とした見方を授業に適応するつもりはない。この私の授業観は今も変わってはいない。しかし、遂にセンター試験が廃止され、新テストの導入がされようとする機会に、学力評価研究に身を捧げる思いで疑問を持ち、学力評価問題の可能性について興味を持った。来年度から私もすぐに教員として実際の生徒を前にして日々を過ごすことになるだろう。その時に今のこの感性を忘れずにいたい。そして本研究は私にとって価値があるモノになった。当時の生徒に謝ることができるならば、夢や理想、理論ばかりで実際の生徒を想定できずに授業していた。テストを目的とした授業をするつもりはないが、いかにしてこれから求められている学力を付けさせるかという問いを持ちながら、教職に従事したい。

謝辞

本論文執筆にあたり、A 高校と B 高校の国語科の先生方と生徒の皆様、快く調査に協力して頂いたことに深くお礼を申し上げます。そして日々の指導教官の守田庸一先生から丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに深く感謝の意を記すとともに、今後の精進を決意したい。

資料編

【アンケート用紙】

高等学校国語科の説明的文章指導における学力評価に関する研究

調査へのご協力のお願い

本調査は、高等学校国語科の説明的文章指導における学力評価問題について、高校生の意識や実態を明らかにすることを目的としています。高等学校で受ける学力評価問題についての率直な意見や考えをお聞かせ下さい。

個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、配慮を行うとともに、責任を持って管理いたします。また、回答いただいた内容につきましては、教育・研究の目的以外には一切使用いたしません。

※性別、所属校種については当てはまる箇所の□にレ点を付けて回答してください。

調査日：西暦＿＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日	
年齢：満＿＿＿歳	性別：□男　□女
学年：＿＿＿年生	
※個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、いただいた情報を教育・研究の目的以外に使用いたしません。太枠内や今回収録した内容を修士論文や報告書等に掲載することに同意し、本研究の調査にご協力いただける場合、お手数ですが以下の□にレ点の記入をお願いいたします。 □本調査に協力いたします[56]。	

（調査実施者）　三重大学大学院　教育学研究科教育科学専攻
中村 亮太
e-mail：217M007@m.mie-u.ac.jp

（指導教員）　三重大学　教育学部　国語教育コース
守田 庸一

[56] 本研究においては、「本調査に協力いたします。」の欄にレ点が記入されていたものだけを調査対象として採用している。

調査について

本アンケートの目的は、高等学校国語科の説明的文章指導における学力評価問題に対する高校生の意識や実態を調査することです。学力評価問題とは、学校内で受けるテストのことで、中間考査や実力テストなどが当てはまります。修士論文執筆のため、率直な意見や考えでの回答をお願いいたします。

アンケート用紙は 4 ページ、質問は全部で 5 問です。自分が当てはまると思うものにレ点を付け、「その他」を選んだ場合は、下の回答欄にて回答してください。

質問 1

高校国語科教科書の説明的文章を読むとき、どのような点に注目して読んでいますか。当てはまるものにレ点を付け、「その他」を選んだ場合は、その下の回答欄に自由に記入してください。

（複数回答可）

□1. 自分の生活に役に立つか
□2. 実生活で体験できそうな内容か
□3. 筆者の主張と理由づけの関係
□4. 根拠の妥当性
□5. 具体と抽象の関係
□6. 接続語
□7. 分からない言葉
□8. 強調表現や文末表現
□9. 段落の順序
□10.結論や主張を述べる文章
□11.問題提起の文章
□12.何にも注目しないで読んでいる
□13.その他

回答欄

質問２

高校国語科における説明的文章（評論文・論説文・説明文）のテストについて、難しいと感じる問題はありますか。当てはまるものにレ点を付け、「その他」を選んだ場合は、その下の回答欄に自由に記入してください。

（複数回答可）

□1. 漢字や言葉の意味などの語彙に関わる問題

□2. 文章の内容の説明で適しているものを選択する問題

□3. 文章中の言葉を抜き出して解答する問題

□4. 本文中の当てはまる部分をまとめ、記述する問題

□5. 本文中にない言葉を自ら補って文章を作成し、記述する問題

□6. 難しいと思う問題はない

□7. その他

回答欄

質問３

高校国語科における説明的文章（評論文・論説文・説明文）のテストについて、テストの前に自分でどのような勉強をしていますか。当てはまるものにレ点を付け、「その他」を選んだ場合はその下の回答欄に自由に記入してください。

（複数回答可）

□1. 教科書や教材を再度読み直し、内容を覚える

□2. 授業でとったノートやプリントを見直す

□3. 補助教材（学習ワークなど）を学習する

□4. 筆者の主張や論証を整理する

□5. 文章に対する疑問や意見、感想をまとめる

□6. 特に勉強はしない

□7. その他

回答欄

質問４

高校国語科における説明的文章の授業ではどのような力を身につけられると思いますか。当てはまるものにレ点を付け、「その他」を選んだ場合は、その下の回答欄に自由に記入してください。

（複数回答可）

□1. 文章の内容を正確に読み取り理解する力

□2. 筆者の主張や論証を批評する力

□3. 物事を説明したり、自分の意見や考えを表したりする力

□4. 語彙や漢字を使いこなせる力

□5. 実生活において物事を新たな側面で見たり、考えたりする力

□6. その他

回答欄

質問５

2020 年度から実施される「大学入学共通テスト」では説明的文章の一部の問題で記述式の解答が取り入れられます。このことについて、不安や疑問点はありますか。当てはまるものにレ点を付け、その理由も書いてください。

□1. 不安や疑問点がある

□2. 不安や疑問点はない

理由

受験番号	実施校	実施日	年齢	性別	学年	質問1													自由回答欄	質問2							自由回答欄	質問3							自由回答欄	質問4						自由回答欄	質問5		回答欄
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6		1	2	
1	A高校	2018/9/27	16	男	2			○							○									○					○									○			○					○		自分の考えを表すことがとても苦手で、書くのに時間がかかってしまい、他の問題を解く時間がなくなるから
2	A高校	2018/9/27	17	女	2	○							○			○						○			○					○								○	○	○		○				○		自分の意見をきちんと文章に表し、相手に正確に伝えられるか心配
3	A高校	2018/9/27	17	女	2						○				○					○	○		○	○				○	○								○		○						○		説明文はあまり得意ではないし、書けるかどうかが不安
4	A高校	2018/9/27	16	女	2												○							○				○	○	○							○		○	○					○		自分で考えて文章をまとめることが苦手だから、書けるか不安
5	A高校	2018/9/27	16	女	2			○	○			○		○	○									○				○	○	○	○						○		○		○					○	テストの制度が変わってもテストなことにかわりはないから。
6	A高校	2018/9/27	17	女	2							○								○				○				○	○		○						○		○						○		答えるのが難しいから
7	A高校	2018/9/27	16	女	2												○							○					○											○						○	今は大学に行くつもりはないから。
8	A高校	2018/9/27	17	男	2							○			○					○				○									○				○								○		まず、そのテスト自体を知らないために、何のテストか分からない。
9	A高校	2018/9/27	17	男	2		○								○						○			○				○	○											○	○				○		記述することがあまり得意でないし、文章を読み解く能力がないから
10	A高校	2018/9/27	17	男	2			○																○				○											○						○		どの単語が入ればいい等の採点基準が分からない
11	A高校	2018/9/27	16	女	2												○				○		○	○					○	○	○						○				○				○		自分で考えて記述することが苦手だから
12	A高校	2018/9/27	16	女	2										○						○			○					○								○									○	大学に行かないから。
13	A高校	2018/9/27	16	女	2												○						○	○				○	○								○		○						○		
14	A高校	2018/9/27	17	男	2												○			○	○	○	○	○					○	○								○	○		○				○		自分の意見をまとめて文にする問題などは決まった答えがよくわからないので減点や0点になってしまうことが今までにあったから。
15	A高校	2018/9/27	17	男	2	○		○			○		○		○								○	○					○								○		○		○				○		自分の思いを～字以内にまとめられるかどうかという不安、しかし、採点の方々に自分がどう思っているかを伝えた方がどのような人か伝わると思います。
16	A高校	2018/9/27	17	女	2		○	○												○			○	○				○	○								○		○		○					○	
17	A高校	2018/9/27	16	女	2			○													○							○	○											○						○	文章力も大切だと思う為。
18	A高校	2018/9/27	16	女	2							○								○			○	○					○								○	○	○						○		しっかり問題にあった答えが書けるか
19	A高校	2018/9/27	17	女	2			○							○	○					○							○	○								○				○					○	学校のテストでも記述することは多いから。
20	A高校	2018/9/27	17	女	2			○		○			○	○	○						○			○				○	○								○		○		○					○	記述式の問題があることで、話す文章力とは別の書く文章力も見ることができて、なお、その文章をどれだけ理解しているのかも知れて良いと思うからです。
21	A高校	2018/9/27	17	男	2												○			○			○	○				○	○		○								○	○	○				○		記述問題が苦手なので不安です。
22	A高校	2018/9/27	16	男	2			○								○				○	○			○					○		○						○				○				○		説明的文章が一番難しいと思うから。
23	A高校	2018/9/27	17	女	2		○							○		○		○	自分の普段の生活と照らし合わせる	○						○	筆者の考えについて答える問題	○	○										○		○	○	普段の生活から学んだことを見つけて考える力		○	説明的文章は自分の考えを自由に書ける。
24	A高校	2018/9/27	16	女	2												○							○				○	○	○							○		○	○	○				○		自分の思っていることを言葉に表すのは、少し苦手だからです。
25	A高校	2018/9/27	17	女	2						○	○									○			○					○		○								○						○		求めている答えがわからない。

26	A高校	2018/9/27	16	女	2			○	○				○											○				○	○									○	○				○		筆者の主張がまわりくどい文章だと、正直頭に入ってこないのでテストをとける自信がないから。
27	A高校	2018/9/27	16	女	2												○			○			○	○					○							○			○					○	大学を受験しないから。
28	A高校	2018/9/27	16	男	2						○				○					○				○				○										○						○	
29	A高校	2018/9/27	17	女	2			○		○		○			○	○					○	○	○	○					○							○							○		どのようなものかわからないから。
30	A高校	2018/9/26	16	女	2					○			○	○										○				○	○	○								○	○					○	
31	A高校	2018/9/26	17	女	2		○	○	○												○		○	○					○		○					○		○		○				○	
32	A高校	2018/9/26	16	女	2			○						○	○	○				○				○				○	○	○						○		○	○				○		記述が入ることで点数が取りにくくなってしまう気がします。
33	A高校	2018/9/26	16	女	2								○				○			○			○	○					○										○					○	分からない問題が出てもやるしかないし、文の読み取りの力などが今の人に欠けているから入学のテストに出されるようになると思っているから。
34	A高校	2018/9/26	16	男	2				○															○									○			○								○	
35	A高校	2018/9/26	16	女	2												○				○		○	○					○							○		○	○				○		記述が苦手だから。
36	A高校	2018/9/26	16	男	2	○			○	○											○			○				○								○			○					○	本人たちの理由なども知れて、その人たちの漢字の力などを測れるから。
37	A高校	2018/9/26	17	女	2			○																○					○								○							○	
38	A高校	2018/9/26	16	女	2											○					○		○	○				○	○	○						○		○		○				○	
39	A高校	2018/9/26	17	女	2	○														○	○			○				○			○					○		○					○		自分が記述式の問題が苦手だし、記述だと時間がかかってしまうから不安。
40	A高校	2018/9/26	17	女	2							○		○						○				○					○			○				○		○					○		どんなのかまったく分からないから不安。
41	A高校	2018/9/26	16	男	2												○			○	○		○	○					○							○	○	○	○	○				○	私はおそらく関係ないから。
42	A高校	2018/9/26	17	女	2												○			○				○				○	○							○	○	○					○		急に入試の方式を帰られると勉強の仕方も変えないといけなくなるし、めんどくさい。
43	A高校	2018/9/26	16	女	2			○		○		○	○		○						○	○						○	○							○	○	○	○					○	自分で言葉を使い、意見を書いたりすることは大切だと思うから。若者のコミュニケーション能力が疑問視される中で、そのような機会があるのは良いことだと思うし、あった方が良いと思う
44	A高校	2018/9/26	17	女	2							○								○	○	○	○	○									○			○		○					○		国語が苦手だから。
45	A高校	2018/9/26	16	女	2	○	○														○		○	○				○	○		○					○	○		○				○		正解が分からないから。
46	A高校	2018/9/26	17	女	2			○				○				○				○				○					○		○						○	○						○	
47	A高校	2018/9/26	16	女	2			○							○	○				○	○		○	○					○		○					○	○	○					○		国語が苦手で、特に文を書くのが苦手だから。
48	A高校	2018/9/26	16	男	2							○												○									○						○				○		しっかり時間内にやれるか不安だから。
49	A高校	2018/9/26	17	男	2			○												○				○					○	○		○						○					○		難しい。
50	A高校	2018/9/26	16	男	2							○									○		○	○					○		○								○					○	大学を受けないから。

51	A高校	2018/9/26	16	男	2	○							○													○	○								○	○								○			○					○		
52	A高校	2018/9/26	17	女	2													○				○	○	○	○	○	○												○								○	○	○	○	○			○		難しい。
53	A高校	2018/9/26	16	女	2											○	○								○	○									○		○								○	○		○					○		記述が苦手だから。
54	A高校	2018/9/26	17	女	2								○										○	○	○	○	○							○	○													○						○	
55	A高校	2018/9/26	16	男	2	○											○					○			○	○	○								○															○			○		自分で文章を作るのが苦手だから。
56	A高校	2018/9/26	17	女	2													○				○	○		○	○	○							○	○		○								○			○					○		どの教科の先生が丸付けをしても大丈夫な答えじゃなくなるから。
57	A高校	2018/9/26	16	男	2		○	○	○							○								○		○										○		○									○						○		人によって違う考え方なので、そこを考慮するかどうか。採点基準の決め方。
58	A高校	2018/9/27	17	男	2													○								○	○							○	○															○				○		難しそうで手が付けられない。
59	A高校	2018/9/27	17	女	2			○			○							○							○	○	○								○	○										○	○						○		説明するのが苦手だから、うまく文章にまとめられるか不安。
60	A高校	2018/9/27	16	女	2								○												○	○									○										○								○		自分で文章を考え、記述する問題がとても苦手だから。
61	A高校	2018/9/27	16	女	2			○						○		○	○								○	○								○	○		○							○	○	○		○				○		マークを付けるな、分からなくてもどこかを選べば当たっている可能性があるけど、記述式は分からないと問題が解けないから。
62	A高校	2018/9/27	16	女	2									○		○	○								○	○								○	○								○	○							○		記述を書くのが苦手で、自分の言葉や思ったことをまとめることができないから。
63	A高校	2018/9/27	16	女	2													○								○												○										○				○		記述式のテストで点数を撮ることが難しいため。
64	A高校	2018/9/27	17	女	2						○														○	○								○	○											○						○		記述式の問題は苦手だから。
65	A高校	2018/9/27	16	女	2		○			○	○	○				○							○			○								○	○		○							○	○	○	○	○				○		個人的に、文章にのっていない、自分で考えた言葉を書くのが苦手だから。時間配分がくるうから。
66	A高校	2018/9/27	17	女	2										○	○									○									○	○									○								○		自分の気持ちを表すのが苦手で答えがまとまらない。
67	A高校	2018/9/27	16	女	2							○	○		○	○									○									○	○									○				○				○		記述が苦手なので、まとめたり、考えを書いたりする問題が不安です。
68	A高校	2018/9/27	16	女	2		○			○													○	○									○	○		○							○	○		○	○				○		個人的に記述式の問題が苦手で、、他の科目と比較しても出題される問題の予想ができないから。
69	A高校	2018/9/27	16	男	2				○								○						○	○									○	○	○								○								○		記述式での解答が苦手だから。
70	A高校	2018/9/27	17	女	2	○																	○		○	○								○	○									○								○		
71	A高校	2018/9/27	16	男	2										○		○						○												○									○	○		○					○		解答が全てうめることが難しくなりそうだから。
72	A高校	2018/9/27	16	女	2											○							○											○	○											○	○						○	
73	A高校	2018/9/27	16	女	2						○				○	○									○									○	○									○					○			○		まだよく分かっていないため。
74	A高校	2018/9/27	17	女	2													○								○	○							○	○									○	○							○		記述は苦手でしっかりと解答できるがどうか。
75	A高校	2018/9/27	17	女	2			○							○								○	○		○	○								○		○	○	○						○	○	○						○		解答を書く時、文章のひと通りの流れをつかんで、まとめるのが苦手。

76	A高校	2018/9/27	16	女	2			○							○					○	○			○				○	○		○					○	○						○		どんな勉強方なら点数が取れるか。
77	A高校	2018/9/27	17	男	2						○	○			○									○				○	○	○						○	○	○	○	○			○		これまで無かったならば何故新しく取り入れるのか。今まで受験した人には無かったものが新しく増えると、その後の大きく言えば「人生に関わります。」止めて頂きたい。狙いや意図があるためだろうが、「伝統」と守ってほしい。例えこちらが特をする話であっても。（原文マ
78	A高校	2018/9/27	16	女	2			○		○					○								○	○				○	○							○		○					○		自分の言葉で説明する問題が苦手で、時間を多く使わないとできないから。
79	A高校	2018/9/27	16	男	2										○	○							○	○					○							○		○	○				○		もしAOや一般で大学に合格しなかったとき、受験方法が変わってしまうと他の人よりも不利になってしまうからです。
80	A高校	2018/9/27	17	女	2												○							○					○									○		○				○	
81	A高校	2018/9/27	16	女	2					○		○								○			○	○									○			○							○		自分の意見や補って解答する問題が苦手なので、このような問題ばかりだと、時間を書けすぎてしまうので不安がある。
82	A高校	2018/9/27	17	男	2												○						○	○				○	○							○	○	○	○	○			○		過去問などの目安になるものがないから。得意でないから。
83	A高校	2018/9/27	16	女	2		○	○	○			○												○				○	○								○		○	○				○	普段から記述式なので、あまり気にならないから。
84	A高校	2018/9/27	17	女	2	○					○	○			○									○				○	○							○			○	○				○	記述式があって普通だと思うし、より正確に能力を見きわめることができると思うから。
85	A高校	2018/9/27	16	男	2		○														○		○	○					○	○						○	○	○						○	
86	A高校	2018/9/27	16	女	2							○												○					○							○							○		
87	A高校	2018/9/27	16	男	2										○									○					○							○								○	
88	A高校	2018/9/27	16	女	2										○					○			○	○				○	○								○			○				○	
89	A高校	2018/9/27	18	男	3				○			○			○	○								○				○	○		○					○	○	○	○					○	大学では論文やレポートの提出があるのでその前準備だと思えば。
90	A高校	2018/9/27	18	女	3			○			○		○		○	○							○	○				○	○		○					○		○		○				○	
91	A高校	2018/9/27	18	男	3	○			○	○										○				○				○	○							○		○						○	大学に行かないから。
92	A高校	2018/9/27	18	男	3								○		○	○									○					○						○	○							○	
93	A高校	2018/9/27	18	女	3							○				○					○	○	○	○				○	○							○		○	○				○		難しそうだから。
94	A高校	2018/9/27	18	女	3	○			○			○			○	○								○				○	○		○	○				○	○	○	○				○		国語力が試されるしいいと思うけど難しそう。
95	A高校	2018/9/27	18	女	3												○						○	○				○	○									○					○		めっちゃ時間がかかりそうだけど自分にはこう考える力があるんだってことを伝えられるのは良いと思う。
96	A高校	2018/9/27	17	男	3				○																	○	全て難しい。		○								○							○	力になると思う。
97	A高校	2018/9/27	18	女	3		○					○								○		○	○	○				○	○							○			○				○		難しくなるから。
98	A高校	2018/9/27	18	男	3	○				○		○		○	○					○	○	○		○				○	○		○	○				○	○	○	○					○	
99	A高校	2018/9/27	18	女	3			○							○					○			○	○				○	○							○								○	
100	A高校	2018/9/27	17	女	3		○																	○					○								○							○	就職だから。

101	A高校	2018/9/27	17	男	3												○				○	○	○	○					○								○	○					○		記述式の解答は、自分の言葉を取り入れて解答しないといけないから。
102	A高校	2018/9/27	17	男	3												○				○	○	○	○				○	○									○						○	文章をまとめたりする力をためすことができるから
103	A高校	2018/9/27	17	女	3			○	○												○	○		○	○	自分の考えを述べるもの	○	○							○	○	○					○		2020年なので自分が受けるとは思わないが、どう書いたらいいかわからない。
104	A高校	2018/9/27	18	女	3										○					○			○					○	○	○					○		○						○	自分はもう大学に行く気はないから。
105	A高校	2018/9/27	17	男	3	○	○	○	○	○											○	○									○					○		○					○	
106	A高校	2018/9/27	18	男	3				○			○					○			○	○	○					○	○				○			○				○				○	
107	A高校	2018/9/27	18	男	3			○	○						○						○											○			○				○				○	自分で考えるのが難しいから。
108	A高校	2018/9/27	18	女	3		○					○			○						○	○					○	○								○	○						○	
109	A高校	2018/9/27	18	男	3			○			○				○	○								○			○	○								○		○	○				○	難易度がどこに合わされているかが不安。
110	A高校	2018/9/27	18	女	3												○					○						○								○								○	自分は受けないから。
111	A高校	2018/9/27	18	女	3				○				○			○				○							○	○		○								○	○					○	自分はその時には20歳になっており、直接的に関係が無い。元々国語が得意なため、ある程度はとける自信がある。
112	A高校	2018/9/27	18	女	3	○		○			○										○	○					○	○								○								○	取り入れてもいいとおもうから。
113	A高校	2018/9/27	18	男	3			○	○							○					○						○	○									○	○		○			○	個人の実力が分かりやすくなるので良いと思う。
114	A高校	2018/9/27	17	女	3		○					○					○				○						○	○									○						○	自分の考えを制限時間内にまとめることができないから。記述があるだけで難しいと感じてしまう。
115	A高校	2018/9/27	18	女	3					○	○		○		○						○			○			○	○								○		○		○			○	採点基準が分からない。
116	A高校	2018/9/27	18	男	3													○	興味があるかないか					○				○									○						○	大学に行かないから。
117	A高校	2018/9/27	18	男	3							○				○				○				○			○	○			○					○	○	○	○	○				○	記述式の解答も必要だと思うのでいいと思う
118	A高校	2018/9/27	17	男	3												○								○								○								○			○	
119	A高校	2018/9/27	18	女	3			○			○				○	○					○	○						○		○						○		○	○	○				○	今までになかったのが不思議だと思っています。選択だとなんとなくでこたえて正解することもあるのでテストの意味がない。本当の国語力、読解力を試すには記述式が大事だと思う。
120	A高校	2018/9/27	18	女	3			○							○					○								○		○						○	○							○	
121	A高校	2018/9/27	18	男	3	○		○								○				○							○	○								○			○					○	自信があるから。
122	A高校	2018/9/27	17	男	3	○		○	○							○						○					○	○	○							○	○	○						○	
123	A高校	2018/9/27	17	女	3			○														○						○	○							○		○						○	大学受験を受けないため
124	A高校	2018/9/27	18	女	3			○		○						○					○	○					○	○								○		○						○	
125	B高校	2018/11/6	18	女	3			○					○			○					○							○	○	○								○						○	

126	B高校	2018/11/6	18	女	3			○			○												○	○									○			○				○				○	
127	B高校	2018/11/6	18	女	3												○						○	○				○	○	○						○	○	○						○	受けないため
128	B高校	2018/11/6	17	女	3				○													○		○					○							○		○						○	
129	B高校	2018/11/6	18	女	3				○											○	○		○	○				○	○							○		○	○					○	受けるつもりないから
130	B高校	2018/11/6	18	女	3							○			○	○							○	○					○	○						○		○						○	
131	B高校	2018/11/6	18	女	3							○			○	○	○				○		○	○				○	○							○								○	
132	B高校	2018/11/6	18	女	3	○														○								○												○				○	関係のないことだから（自分に）
133	B高校	2018/11/6	18	女	3										○						○			○					○							○								○	
134	B高校	2018/11/6	18	女	3			○		○	○		○		○	○								○									○			○								○	受けひんから！！
135	B高校	2018/11/6	18	女	3		○								○								○	○					○							○								○	
136	B高校	2018/11/6	17	女	3							○			○					○				○				○	○										○					○	
137	B高校	2018/11/6	18	女	3								○							○			○					○								○		○	○					○	
138	B高校	2018/11/6	17	女	3		○	○	○						○					○			○	○				○	○	○						○								○	
139	B高校	2018/11/6	18	女	3						○				○					○	○		○					○	○	○	○						○	○						○	
140	B高校	2018/11/6	17	女	3										○	○					○			○					○								○							○	センターを受けないから
141	B高校	2018/11/6	18	女	3												○				○		○	○				○	○	○						○								○	受験ないから
142	B高校	2018/11/6	18	女	3	○	○									○								○						○								○						○	
143	B高校	2018/11/6	17	女	3			○						○	○					○			○	○				○	○		○							○	○					○	
144	B高校	2018/11/6	18	女	3												○							○				○	○	○							○							○	
145	B高校	2018/11/6	17	女	3									○							○									○						○								○	
146	B高校	2018/11/6	17	女	3			○	○	○	○		○			○							○			○	段落の同じような主張のまとまりに分ける問題	○	○	○						○	○	○						○	受験しないため
147	B高校	2018/11/6	17	女	3			○							○	○					○			○					○		○					○		○						○	
148	B高校	2018/11/6	18	女	3							○								○			○					○									○							○	
149	B高校	2018/11/6	18	女	3	○											○						○	○				○	○	○										○				○	
150	B高校	2018/11/6	18	女	3	○	○		○			○												○									○			○		○	○					○	

151	B高校	2018/11/6	17	女	3			○						○									○				○									○		○		○						○		○	○					○	
152	B高校	2018/11/6	18	女	3								○	○	○								○				○										○		○								○						○	受けないから
153	B高校	2018/11/6	18	女	3								○										○				○									○	○		○										○					○	
154	B高校	2018/11/6	17	女	3				○	○				○	○	○	○										○									○				○	○					○	○	○						○	
155	B高校	2018/11/6	18	女	3													○					○	○		○	○									○	○		○											○			○			○	
156	B高校	2018/11/6	18	女	3	○																	○															○		○								○					○		○	多分そのテストを受けないから
157	B高校	2018/11/6	17	女	3													○						○			○									○	○		○													○				○	
158	B高校	2018/11/6	18	女	3							○	○											○		○	○									○	○		○										○				○				○	
159	B高校	2018/11/6	18	女	3				○	○	○	○		○		○	○									○	○										○		○									○				○					○	
160	B高校	2018/11/6	18	女	3								○					○								○	○										○										○									○	
161	B高校	2018/11/6	18	女	3	○	○																			○	○										○										○				○	○				○	
162	B高校	2018/11/6	17	女	2				○			○				○	○							○			○										○										○									○	
163	B高校	2018/11/6	17	女	2				○					○		○	○						○				○									○	○										○				○	○				○	
164	B高校	2018/11/6	16	女	2	○	○			○		○	○										○				○									○	○														○			○				○	多分受けないだろうから。ただもし受ける身となったらとても不安を感じるだろうと思う。
165	B高校	2018/11/6	16	女	2				○			○		○		○	○									○	○									○	○										○									○		説明的文章は内容が難しいものが多く、読み解く力が試されるから。
166	B高校	2018/11/6	17	女	2													○								○	○	○																○		勉強の仕方がわからない。	○									○	
167	B高校	2018/11/6	17	女	2				○																	○	○									○	○														○					○		時間内に自分が考える文章（本文をまとめるなど）を作ることができるかどうか、しっかり読み取って理解することができるかどうか。
168	B高校	2018/11/6	17	女	2							○	○	○		○	○									○	○									○	○								○	語句の意味	○		○	○						○	
169	B高校	2018/11/6	17	女	2											○										○	○											○	○											○	○				○	
170	B高校	2018/11/6	17	女	2											○	○									○	○									○	○										○			○			○			○	
171	B高校	2018/11/6	16	女	2									○		○										○	○	○								○	○						○				○									○	大学に行く予定はありません。
172	B高校	2018/11/6	17	女	2				○	○		○	○	○	○	○	○									○	○										○	○	○	○								○	○		○					○	実施しないから。
173	B高校	2018/11/6	16	女	2	○			○				○	○		○	○									○	○									○	○										○	○	○	○	○					○	
174	B高校	2018/11/6	17	女	2				○			○	○	○												○	○									○	○										○	○								○	大学に進学しないから。
175	B高校	2018/11/6	17	女	2				○			○				○	○						○	○	○	○	○									○	○										○	○								○	大学に進学しないから。

176	B高校	2018/11/6	17	女	2			○				○											○	○				○	○				○							○		○					○		あまり得意ではないから。
177	B高校	2018/11/6	17	女	2													○	質問に関係する部分					○					○											○							○		苦手意識が強いから。
178	B高校	2018/11/6	17	女	2	○	○																○					○													○							○	大学に行くつもりはないから。
179	B高校	2018/11/6	16	女	2			○		○					○									○										○				○								○	自分の意見を自分の言葉で伝えることができるから。
180	B高校	2018/11/6	16	女	2	○									○					○														○				○	○							○	大学入試を受けないから。
181	B高校	2018/11/6	17	女	2	○					○				○	○							○	○				○	○									○	○							○	今まで特に考えたことなどなかった。
182	B高校	2018/11/6	16	女	2	○		○	○			○		○	○	○								○				○			○	○								○	○		○				○		文章に関する様々な意見や考え方が解答者にあるため、得点の規定をつくることで新しい考え方が否定されることがあると思うため。また、「求められる正しい答え」にとらわれて、自分の率直な意見を述べられず、考え方が「正しさ」にとらわれてしまうことで、自由な発想が潰されてしまうかもしれない
183	B高校	2018/11/6	17	女	2						○	○	○		○	○								○				○	○									○			○		○			○		記述が苦手だから。
184	B高校	2018/11/6	17	女	2												○			○	○	○	○	○										○								○				○		国語とかは「自分の意見で答えなさい」とか大人たちは「答えは1つじゃないから」とか言うくせに解答には決まった答えやこの文が入っていたら1点とかあるからそんなの矛盾している。
185	B高校	2018/11/6	16	女	2							○											○	○				○	○									○	○							○		大学入学共通テストは受けないが、どれくらいのレベルの問題が出されるのか気になったから。
186	B高校	2018/11/6	16	女	2	○	○																○	○										○				○	○	○	○						○	大学入学共通テストが何かも分からないけど、大学に入学するためのテストだとしたら、大学に進学しないから受けないだろうと思ったため。
187	B高校	2018/11/6	17	女	2			○			○				○								○	○												○	漢字と意味				○	○					○	大学に行かないから。
188	B高校	2018/11/6	17	女	2	○	○														○			○										○					○		○					○	大学に進学しないから。
189	B高校	2018/11/6	17	女	2			○								○				○	○		○	○					○									○			○	○				○		苦手
190	B高校	2018/11/6	17	女	2										○	○							○	○				○										○		○	○						○	受ける予定はないから。
191	B高校	2018/11/6	16	女	2			○	○							○							○	○										○					○							○	大学入学共通テストを受けるつもりがないから。
192	B高校	2018/11/6	17	女	2						○	○			○								○					○	○									○	○	○							○	大学入試はうけないため。
193	B高校	2018/11/6	17	女	2												○										○	全て						○									○	わからない		○	受けないから。
194	B高校	2018/11/6	16	女	2						○	○									○			○										○				○	○		○						○	大学入試はうけないから。
195	B高校	2018/11/6	17	女	2			○		○	○		○	○	○								○	○				○	○									○			○						○	
196	B高校	2018/11/6	16	女	2		○	○															○	○														○			○							大学受験をしないから。
197	B高校	2018/11/6	17	女	2												○							○																	○						○		国語が苦手だから。
198	B高校	2018/11/6	17	女	2											○								○														○			○							大学へ入学するつもりはないから。
199	B高校	2018/11/6	17	女	2			○	○		○				○								○																			○					○	大学は受験しないから。
200	B高校	2018/11/6	17	女	2			○							○						○	○	○	○											○	○	学習ワークなどが無いので、勉強の仕方が分からない。（漢字以外）	○			○						○	

201	B高校	2018/11/6	16	女	2						○			○		○					○		○	○					○	○								○			○					○		説明的文章を読んでも何を書いたいのかかいまいち分からないので、テストに出ても書けないという不安がある。人によって採点基準が違うのにどうするのか疑問がある。
202	B高校	2018/11/6	16	女	1												○				○	○	○	○						○												○					○	
203	B高校	2018/11/6	16	女	1			○	○	○			○		○	○					○			○					○	○	○							○		○							○	記述の練習をたくさんすれば安心だと思うし、定期テストでも記述式の問題は出題されていて、慣れていると思うから。
204	B高校	2018/11/6	16	女	1								○	○	○	○					○			○					○	○	○									○	○						○	先生方がきっちり対策してくれると思っているから。
205	B高校	2018/11/6	16	女	1												○							○							○				○	ノートとワークを見て自分でノートをまとめる。	○			○						○	大学に進学しないから。
206	B高校	2018/11/6	16	女	1						○	○		○		○					○			○					○	○	○							○		○							○		自分で言葉をきっちり考えて相手に自分の考えを伝えられるかが不安だから。
207	B高校	2018/11/6	15	女	1			○	○	○		○	○		○	○								○					○	○	○								○	○	○	○					○	大学に進学するつもりはないし、記述式の解答のあるテストは受けたことがあるから。
208	B高校	2018/11/6	16	女	1			○	○						○						○			○						○	○	○							○	○						○		国語の問題での記述の解答は不明な点が多々あるから。
209	B高校	2018/11/6	16	女	1												○							○							○													○		○		記述式の解答が苦手だから。
210	B高校	2018/11/6	15	女	1			○	○	○					○	○						○		○					○	○	○	○						○	○	○	○						○	
211	B高校	2018/11/6	15	女	1							○		○										○						○	○							○		○							○		今までの大学入試と違ってくるので、過去問が無い。
212	B高校	2018/11/6	16	女	1			○							○							○		○					○	○	○							○			○						○	大学を受けないから。
213	B高校	2018/11/6	16	女	1			○			○	○			○	○							○	○					○	○	○							○	○	○	○	○				○		文章を書くのに苦手意識があるから。読みとるのに時間がかかるから。
214	B高校	2018/11/6	16	女	1			○				○			○	○							○	○					○	○								○		○							○	答えが多くその分点数につながると思うから。
215	B高校	2018/11/6	16	女	1			○					○		○							○	○	○					○	○	○							○		○						○		私は記述が苦手なので、どれだけ難しいか怖いから。
216	B高校	2018/11/6	15	女	1	○															○									○									○							○		時間の使い方。
217	B高校	2018/11/6	16	女	1			○					○	○									○	○					○	○								○		○						○		記述式の解答は時間がかかるから。
218	B高校	2018/11/6	15	女	1											○								○						○										○							○	
219	B高校	2018/11/6	16	女	1	○							○											○						○	○											○					○	大学受験をしないつもりだから。
220	B高校	2018/11/6	16	女	1						○			○		○					○									○	○								○		○						○	
221	B高校	2018/11/6	16	女	1										○	○					○			○					○	○	○								○		○						○	自分の言葉でまとめられるかが不安。文字数なども気になる。
222	B高校	2018/11/6	16	女	1									○		○					○			○					○	○								○		○						○		記述が苦手だから。
223	B高校	2018/11/6	16	女	1						○													○					○		○							○									○	大学入試を受けないから。
224	B高校	2018/11/6	15	女	1		○					○	○		○						○	○	○	○					○	○	○							○	○	○	○	○				○		文章がうまく書けるかどうか不安であるため。
225	B高校	2018/11/6	15	女	1	○					○	○	○			○								○					○	○	○		○					○	○			○				○		どのくらいの字数でまとめる記述がでてくるのか。

226	B高校	2018/11/6	15	女	1			○	○						○	○				○	○	○	○	○				○	○	○	○						○		○	○				○	大学受験をしないから。
227	B高校	2018/11/6	16	女	1										○								○	○					○	○						○	○							○	大学入試を受けないから。
228	B高校	2018/11/6	15	女	1	○					○					○					○			○				○	○							○							○		記述問題があまり得意ではないから。
229	B高校	2018/11/6	16	女	1			○			○		○		○	○				○			○	○				○	○	○								○	○	○				○	大学に入学しないから。
230	B高校	2018/11/6	16	女	1												○			○	○	○	○	○									○			○		○						○	大学入試は受けないから。
231	B高校	2018/11/6	15	女	1						○	○			○					○	○			○				○		○						○			○				○		今までと大学入試のパターンが変わると思うので、自分が大学の入試を受ける際お手本がないので対策のしようがないため。
232	B高校	2018/11/6	16	女	1						○	○		○	○								○	○				○		○								○	○					○	自分の意見を書けばいいだけだから。
233	B高校	2018/11/6	16	男	1			○			○	○	○	○	○	○				○								○	○	○	○					○	○	○					○		自分の考えを述べる問題や文章中の言葉に補って書く問題が出た場合、採点基準はどうなるのか。
234	B高校	2018/11/6	16	女	1	○		○	○		○				○						○		○	○				○	○	○	○					○		○	○				○		文の構成によって時間を使ってしまうから。
235	B高校	2018/11/6	15	女	1				○						○	○					○		○	○				○	○	○						○	○	○	○	○				○	受験しないから。
236	B高校	2018/11/6	15	女	1												○							○				○		○						○		○						○	受験をしないから。
237	B高校	2018/11/6	15	女	1						○			○							○		○					○	○	○						○	○	○						○	大学受験をしないから。
238	B高校	2018/11/6	15	女	1	○							○			○					○	○		○				○	○								○		○				○		マークシートなら分からなくても答えを書くことができる。
239	B高校	2018/11/6	15	女	1												○			○			○	○					○	○						○		○						○	大学を受ける予定は無いので、特に不安や疑問点は無いです。
240	B高校	2018/11/6	16	女	1			○							○	○					○		○	○						○						○				○				○	大学受験をしないから。
合計						36	27	80	38	22	48	61	42	27	98	74	45	3		71	83	25	122	205	2	6		136	196	67	40	10	26	4		161	72	133	88	55	3		101	139	

『贅沢を取り戻す』

國分功一郎

贅沢とは何だろうか。それは不必要なものと関わっている。必要の限度を超えて支出が行われる時、人は贅沢を感じる。たとえば、豪勢な食事を食べなくても人間は生きていける。きれいに彩られた服がなくても人間は死にはしない。贅沢はしばしば非難されるが、そこには過度の支出に対する不同意の意味が込められている。必要の限度を超えた支出は無駄ということだ。

だが、ここで少し立ち止まって考えていただきたい。人は必要なものを必要な分だけもっていれば、それで生きていけるのだろうか。必要の限度を超えた支出は無駄であって、生活には生存に必要なものが十分にあればそれで事足りるのだろうか。

おそらくそうではないだろう。必要なものが十分にある状態とは、必要なものが十分にしかないということだ。十分とは十二分ではない。必要な分が必要な分しかない状態、これは非常にあやうい状態である。日常生活のバランスを崩すアクシデントがすこしでもあれば、それまで通りには生活できなくなる。あらゆるアクシデントを排し、必死で現状を維持しなければならない。それは豊かさからはほど遠い生活だ。

必要を超えた支出があってはじめて人間は豊かさを感じられる。人間が豊かに生きていくためには、贅沢が必要である。つまり余分は無駄ではない。

この贅沢を浪費と言い換えることができるだろう。浪費とは必要の限度を超えてモノを受け取ることである。浪費は豊かさの条件に他ならない。人類はずっと浪費を行ってきた。どんな社会も浪費を求めたし、贅沢が許された時代にはそれを享受した。フランスの哲学者ジャン・ボードリヤールは、「あらゆる時代において人々は買い、所有し、楽しみ、使った。」と述べ、封建領主の浪費や、十九世紀ブルジョワの贅沢などを挙げている。ほかにもさまざまな例があるだろう。

浪費は満足をもたらす。なぜなら、モノの受け取りには限度があるからである。たとえば、身体的な限度を超えてモノを食べることはできない。だから浪費はどこかでストップする。

ところが、人間は最近になって全く新しいことを始めた。ボードリヤールによれば、それが消費である。浪費はどこかでストップするのだった。浪費は必ずどこかで満足をもたらすからだ。しかし消費はストップしない。消費には限界がない。なぜだろうか。消費の対象がものではないからである。消費はモノではなくて、モノに付与された記号や観念を受け取っている。記号や観念の受け取りには限界がない。だから消費は終わらない。

記号を消費するとはどういうことだろうか。たとえば、どんな食事でも食べられる量は限られている。しばしば腹八分目が勧められるが、たまには腹一杯、十二分に食べたいものだ。これが浪費である。浪費は生活に豊かさをもたらし、そして必ずどこかでストップする。

では消費とは何か。グルメブームというものを思い起こしてほしい。ある店がおいしいとか、有名人が利用しているなどと宣伝されると、その店に人が殺到する。もちろん「あの店、

行ったことがあるよ。」と他の人に言うためである。そして、もちろん、次に他の店が宣伝されれば、今度はそこに行かねばならないのだ。こうやって「おすすめ」の店を延々と回り続ける人々が受け取るのは、「その店に行ったことがある」という意味である。店は完全な記号になっている。そして、記号はいくらでも受け取ることができる。だから満足をもたらさない。記号の消費はいつまでも終わらない。

別の例を挙げよう。現代では基本的に商品はどんなにいいものであっても、モデルチェンジしないと売れない。携帯電話がいい例である。数年前の機種が今でも使えないわけがない。しかし、半年もたたないうちに「新しい」モデルが発売される。なぜだろうか。人々はモデルなど見ていないからである。「チェンジ」という情報・意味だけを受け取っている。消費する人は、モノ、（＝モデル）を受け取っているのではない。意味や記号（＝「チェンジした」）を受け取っている。

消費と浪費の違いは明白である。浪費は目の前にあるモノを受け取る。消費はモノに付与された意味・観念を受け取る。このことは消費社会の魔法そのものを説明している。消費は満足をもたらさない。しかし消費者は満足を求めて消費している。消費しても満足が得られないから、更に消費を続ける。こうして、消費と不満足の悪循環が生まれる。二十世紀に爆発的に広まった消費社会とはこの悪循環を利用したものである。消費しても満足が得られないから消費して……というサイクルをうまく利用することで、莫大な量のモノを売ることができた。その結果、大量生産・大量消費・大量投棄の経済が生まれた。

このような消費社会に対する批判は数多く現れたが、ほとんどは、この大量生産・大量消費・大量投棄の経済を眺めながら、その「贅沢」を糾弾するものであった。このような贅沢批判の問題点は明らかである。消費社会の中に贅沢などない。逆だ。消費社会とは我々から贅沢を奪うものである。浪費家であろうとする我々を消費者に仕立て上げ、満足することが決してない消費のサイクルに投げ込むのが消費社会である。我々は贅沢をしているからとめどない消費の渦に巻き込まれてしまうのではない。消費の渦に巻き込まれることで贅沢ができなくなっているのである。我々に必要なのは贅沢を取り戻すことなのである。

では、贅沢を取り戻すにはどうすればよいだろうか。実はこれは容易なことではない。贅沢するためには、つまり浪費するためには、きちんとモノを享受し、楽しむことができるようにならなければならない。しかし、浪費家になるチャンスを奪われ続けた人間は、なかなかそうならないのである。

もちろん道はある。その道について、バートランド・ラッセルという哲学者が大変重要なことを述べている。ラッセルによれば、かつて教育は楽しむ能力を訓練することであった。これは楽しむという行為が決して自然発生的なものではないということを意味している。楽しむとは、何らかの過程を経て獲得される能力であり、こう言ってよければ、一種の技術なのである。

ラッセル自身は実のところこのように述べるにあたって、「教養」が必要とさせるハイ・カルチャーの楽しみのことを念頭に置いている。たとえば文学的素養がなければ文学など

つまらない。それを楽しむには訓練が必要だ。

だが、私はラッセルが述べていることは楽しみ一般についてもいえるものだと考えている。たとえば、人との会話を楽しむためには会話術を幼いころから学んでくる必要がある。子どもを見ているとよく分かることだが、複数の人間が一緒に遊んで楽しむためには高度な技術が必要である。

さらには、身体的な楽しみにも同じことが言える食べ物を楽しむためには一定の訓練が必要である。幼いころから質の悪いファストフードしか食べてこなければ（質の良いファストフードもあり得ることを一応付け加えておく）、繊細な味を楽しむことはできないだろう。

訓練というと何か体得の為の厳しい過程を思い描いてしまうかもしれないが、実は我々は日常的に様々な楽しむための訓練を行っている。だから、我々が通常思い浮かべる教育とは、意識的・組織的に行われる「楽しむ能力」の訓練であると考えることができるだろう。

ところがこうした訓練の機会が日常生活から奪われている。消費社会は人が浪費家になることを許さないからである。消費社会としてはモノを楽しむ浪費家になられては困るのだ。それでは、とめどない消費のゲームが始まらないからである。消費社会としては、モノを楽しむ訓練など受けていない人間が消費と不満足の悪循環の中で焦燥感に苛まれながら、ただひたすら記号の受け取りを続けることこそ理想なのだ。

こう考えてみると、楽しむという行為がもつ社会的な意義、もしかしたら革命的と言ってもよいかもしれないその意義が見えてくる。楽しむというというのは確かに個人的なものである。しかし、もしも我々がきちんと楽しみ、楽しむための訓練を積むことが出来れば、おそらくこの社会は変わるのだ。今のサイクルでは物事が回らなくなるからである。楽しむことには、そのようなすばらしい可能性が秘められている。

贅沢を取り戻す

國分功一郎

贅沢とは何だろうか。それは不必要なものと関わっている。必要の限度を超えて支出が行われる時、人は贅沢を感じる。たとえば、豪勢な食事を食べなくても人間は生きていける。きれいに彩られた服がなくても人間は死にはしない。贅沢はしばしば非難されるが、そこには過度の支出に対する不同意の意味が込められている。必要の限度を超えた支出は無駄ということだ。

だが、ここで少し立ち止まって考えていただきたい。人は必要なものを必要な分だけもっていれば、それで生きていけるのだろうか。必要の限度を超えた支出は無駄であって、生活には生存に必要なものが十分にあればそれで事足りるのだろうか。

おそらくそうではないだろう。必要なものが十分にある状態とは、必要なものが十分にしかないということだ。十分とは十二分ではない。必要な分が必要な分しかない状態、これは非常にあやうい状態である。日常生活のバランスを崩すアクシデントがすこしでもあれば、それまで通りには生活できなくなる。あらゆるアクシデントを排し、必死で現状を維持しなければならない。それは豊かさからはほど遠い生活だ。

必要を超えた支出があってはじめて人間は豊かさを感じられる。人間が豊かに生きていくためには、贅沢が必要である。つまり余分は無駄ではない。

この贅沢を浪費と言い換えることができるだろう。浪費とは必要の限度を超えてモノを受け取ることである。浪費は豊かさの条件に他ならない。人類はずっと浪費を行ってきた。どんな社会も浪費を求めたし、贅沢が許された時代にはそれを享受した。フランスの哲学者ジャン・ボードリヤールは、「あらゆる時代において人々は買い、所有し、楽しみ、使った。」と述べ、封建領主の浪費や、十九世紀ブルジョワの贅沢などを挙げている。ほかにもさまざまな例があるだろう。

浪費は満足をもたらす。なぜなら、モノの受け取りには限度があるからである。たとえば、身体的な限度を超えてモノを食べることはできない。だから浪費はどこかでストップする。

ところが、人間は最近になって全く新しいことを始めた。ボードリヤールによれば、それが消費である。浪費はどこかでストップするのだった。浪費は必ずどこかで満足をもたらすからだ。しかし消費はストップしない。消費には限界がない。なぜだろうか。消費の対象がものではないからである。消費はモノではなくて、モノに付与された記号や観念を受け取っている。記号や観念の受け取りには限界がない。だから消費は終わらない。

記号を消費するとはどういうことだろうか。たとえば、どんな食事でも食べられる量は限られている。しばしば腹八分目が勧められるが、たまには腹一杯、十二分に食べたいものだ。これが浪費である。浪費は生活に豊かさをもたらし、そして必ずどこかでストップする。

※

消費と浪費の違いは明白である。浪費は目の前にあるモノを受け取る。消費はモノに付与された意味・観念を受け取る。このことは消費社会の魔法そのものを説明している。消費は満足をもたらさない。しかし消費者は満足を求めて消費している。消費しても満足が得られないから、更に消費を続ける。こうして、消費と不満足の悪循環が生まれる。二十世紀に爆発的に広まった消費社会とはこの悪循環を利用したものである。消費しても満足が得られないから消費して……というサイクルをうまく利用することで、莫大な量のモノを売ることができた。その結果、大量生産・大量消費・大量投棄の経済が生まれた。

このような消費社会に対する批判は数多く現れたが、ほとんどは、この大量生産・大量消費・大量投棄の経済を眺めながら、その「贅沢」を糾弾するものであった。このような贅沢批判の問題点は明らかである。消費社会の中に贅沢などない。逆だ。消費社会とは我々から贅沢を奪うものである。浪費家であろうとする我々を消費者に仕立て上げ、満足することが決してない消費のサイクルに投げ込むのが消費社会である。我々は贅沢をしているからとめどない消費の渦に巻き込まれてしまうのではない。消費の渦に巻き込まれることで贅沢ができなくなっているのである。我々に必要なのは贅沢を取り戻すことなのである。

問一

次の文章の（ア）と（イ）について、本文中から当てはまる言葉を書き抜きなさい。

浪費は（ア：十字以内）を受け取り、消費は（イ：十五字以内）を受け取るという点で違いがある。

問二

本文では※の部分が削除されている。※の内容の想定として適切であるものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

① ※までの本文では、消費と浪費が対比されており、浪費については具体例を挙げて説明されている。また、※の後の本文では、浪費と消費を抽象的に論じて、両者の違いが述べられている。このことから、※の前後には書かれていない消費について具体的に説明されていると想定できる。

② ※までの本文では、ボードリヤールの言葉を使って消費を説明し、浪費と対比している。しかし、浪費についての哲学者の言葉は述べられていない。このままでは、消費と浪費の説明に偏りができてしまうので、※の部分では哲学者の言葉を引用して浪費について説明されていると想定できる。

③ ※までの本文では、消費と浪費が対比されている。また、※の後の本文では消費社会が批判されている。しかし、浪費社会については言及されておらず、消費社会への批判に説得力がない。このことから、※の部分では浪費社会についての説明や推奨がなされていると想定できる。

④ ※までの本文では、必要を超えた余分のことを浪費と言い換えて説明されている。しかし、※の後の本文では消費を他の言葉で言い換えることなく批判している。これでは消費が適切に浪費と対比されているとは言えない。※の部分では他の言葉を使って消費が説明されていると想定できる。

⑤ ※までの本文では、それまで人類が行ってきた浪費について説明され、人間が消費を新しく始めたと述べられている。しかし※の後の本文でも、人類が消費を始めた経緯については書かれていない。このことから、※の部分では歴史的な背景をもとに消費を始めた理由が述べられていると想定できる。

問三

Aさんは※の部分を埋めるために、次のような文章を書いた。この文章が※の部分に適しているか適していないか、自分の考えを百字以内で書きなさい。

では消費とは何か。グルメブームというものを思い起こしてほしい。ある店がおいしいとか、有名人が利用しているなどと宣伝されると、その店に人が殺到する。もちろん「あの店、行ったことがあるよ。」と他の人に言うためである。そして、もちろん、次に他の店が宣伝されれば、今度はそこに行かねばならないのだ。こうやって「おすすめ」の店を延々と回り続ける人々が受け取るのは、「その店に行ったことがある」という意味である。店は完全な記号になっている。そして、記号はいくらでも受け取ることができる。だから満足をもたらさない。記号の消費はいつまでも終わらない。

別の例を挙げよう。現代では基本的に商品はどんなにいいものであっても、モデルチェンジしないと売れない。携帯電話がいい例である。数年前の機種が今でも使えないわけがない。しかし、半年もたたないうちに「新しい」モデルが発売される。なぜだろうか。人々はモデルなど見ていないからである。「チェンジ」という情報・意味だけを受け取っている。消費する人は、モノ（＝モデル）を受け取っているのではない。意味や記号（＝「チェンジした」）を受け取っている。

問四

本文を読んだBさんとCさんが次のように言いました。二人の発言のうち、いずれか、または両方をふまえて、筆者の考えに対する自分の意見を百五十字以内で書きなさい。

Bさん

国語辞典で調べると、消費は「経済で、人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為。」と記されている。筆者の「消費は満足をもたらさない。」という言葉は国語辞典の定義と矛盾しているよ。本文で述べられている消費と浪費の関係は成り立たないから筆者の述べていることには納得できないな。

Cさん

筆者が哲学者の言葉を使って消費を定義したのは、浪費との違いを明確に言い表して対比的に述べることで、消費社会の問題点を浮き彫りにするためだよ。挙げられている具体例も納得できる。論じ方は間違っているとは言えないし、主張に説得力を持たすための工夫として評価できる。だから私は筆者の主張に納得できる。

【解答欄】

問一

イ	ア

問二

問三

問四

【学力評価問題　解答・評価一覧】
〇生徒の解答の下線部は解答のママであることを示している。

受験番号	問1 解答 ア	点数	問1 解答 イ	点数	問2 解答	点数	問3 解答	レベル	問4 解答	レベル
1	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味や観念	0	③	0	ぼくは、この文章は削除されている部分に適していると思いました。理由は、浪費社会についての説明や推奨がされていなくて消費社会への批判に説得力がないからです。	2	ぼくは筆者さんが挙げていた具体例が分かりやすかったので納得できました。	2
2	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると思います。なぜかというと、消費について具体的な説明がされているからです。あと、浪費と同じように消費も、例を挙げて説明されているからです。	3	私は筆者の考えに納得できません。なぜかというと「消費は満足をもたらさない」と書いてあるが、満足が得られずに、消費を続けることも浪費も同じようなものだと思うからです。	2
3	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	②	0	この文章は適していないと思う。読む人が分かりやすく理解しやすい例を2つ使っていていいと思うが、最終的にまとまっていないので答えがなんなのかあまりはっきりしていないので適していないと思う。	2		0
4	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると思います。なぜなら、浪費の説明のときも食事を例としていて、消費の説明でも食事と関係のある話を例としているから、似た話題だと二つの違いを理解しやすいと思ったからです。	3	私は	0
5	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	先に説明された浪費のように、しっかり消費について具体例を挙げて説明されている。よって、私はこの文章が「※」の部分に適していると考える。	5	私はBさんの意見もCさんの意見も理解できる。私もBさんのように、消費の意味が違うと感じた。しかし、Cさんのように、筆者が主張を強めるために対比させたとも考えることができる。だから、私はこの文章を読んで納得ができたし、新しい見方を発見する	3
6	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	消費と浪費が対比されていて、浪費について具体例を挙げて説明してあるからAさんの文章は適していると思う。	3	消費社会の問題点を具体的に浮き彫りにするために、消費と浪費の違いを具体的に説明しているから納得できる。	2
7	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	私は適していると思います。なぜなら、どの店でも、記号や観念を受け取っていて、記号の消費はいつまでも終わらない、そして、モノを受け取っていないと書かれていて、消費の意味の内容にも、合っているから。	3	私は、筆者の主張に納得することができます。なぜならたとえ、Bさんの国語辞典は間違っていないと思いましたがCさんのように主張に説得力を持すための工夫として、自分で考えて発表しているように思えたからです。国語辞典で調べた意味よりも自分自身を信じることができるということは、すごいことだと思います。	3
8	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していると思う。一つ目の例で言うと、その店でおいしいものをたべて満足したということはどうでもよくて、ただその店に行ったというレッテルが欲しいというのが、まさに現代のことを言っていておもしろく	2	哲学者の言葉のお陰で浪費と消費の違いがとても分かりやすくなって読みやすかったし、「哲学者の言葉」という点で説得力もあった。個人的に好きな所は、	0
9	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	②	0	私は適していると思います。この文における「浪費」と「消費」の意味をグルメブームだったり携帯電話を使って、分かりやすく説明していると思います。「消費」と「浪費」をしっかり使い分けているので適切と思	3		0
10	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私はこの文章は本文に適していないと思う。なぜならば一つ前の文で「消費は記号や観念を受け取っている」と書いてあるのに、消費の説明を意味するこの二つの文章は記号の説明と、なぜか情報・意味の説明がされているからだ。	2	Bさんの意見は消費と意味が本文では間違っていると指敵しているが、消費をして身体的な限度や目で見える限界が来たら浪費、心情的や目に見えない限度が来ない消費ということを筆者は述べている。このように分かりやすく説明しているのでCさんの意見は正しいと分かる。そして消費社会は消費より浪費をすべきと書かれて	1
11	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	適していると思います。この文章の前には、日常的な食事を例に浪費を説明しています。その後に、身近なことを例に消費を説明しているのは、不自然ではないし分かりやすいので、私は適していると思いまし	5		0
12	必要限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私は適していると思う。グルメブームを用いて、具体的な例が挙げられているから。さらに、違う例をもう一つ挙げることによって、消についての理解を深められる文章だと思うから。	3	Cさんの発言に同感で、筆者の消費と浪費の違いの論じ方は具体的で分かりやすく、国語辞典の意味と矛盾していても私は納得できる。消費や浪費を哲学者の言葉を使って説明していたり、とても説得力があると思う。	3

13	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	④	0	適していると思います。理由は、前の文章で浪費のことについて詳しく説明しているから、次の文章は消費のことについて話すので正解だと思うし、何も違和感がないからです。	4	私はCさんの意見と同じです。挙げられている例も納得できるし、実際に、二十世紀に広まった消費社会の話を聞いて、あまり消費が人々に満足をもたらすということが考えられなかったからです。浪費と消費についてもよく対比できているし、私も、筆者の述べていることに納得ができます。	3
14	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は問二の問題で①を選びました。①は※の部分に消費について具体的な説明が入るという内容でした。ここでAさんの文を見てみると、グルメブームや携帯を例に説明しています。なのでAさんは適していると思います。	3	筆者は消費社会の問題的を明らかにし、読者にうったえていました。私はそう感じたのでCさんの意見に納得しました。しかし、Bさんの意見の国語辞典で矛盾をしているというものも納得しました。筆者は消費社会の説明のために浪費と消費を使ったが物の消費や記号の消費などの意味	1
15	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	②	0	私は、Aさんの文章は適していないと思います。理由は私にとって「消費」とは、最後まで使ってなくなってしまうと思っています。だから、例である携帯電話は、壊れてしまってから変えるべきだと私は思います。	2	私は、	0
16	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私は、この文章が適していると思います。なぜなら、消費についての例があげられていて、人間がどのように消費しているかがわかりやすく示されているので、適している	3	国語辞典などに沿うのではなく、実際に世の中に起きていることを見つけだし、改めて考えなおしあたらしい発見をしている筆者の考えを批判することは出来ないと私は思いました。	3
17	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	二つの例を挙げているが、例を一つに絞って詳しくする方が分かりやすいと思った。しかし、根本的に、「浪費」は「贅沢」という違う言葉で説明されているため、説明の仕方を統一した方がいいと思う。	1	消費が「経済で、人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為」だと記されてあっても、実際に満たされるかどうかまでは表していないから、筆者の考えは間違っていないと思う。筆者によっては「満足をもたらさない」と考えているだけであって、矛盾しているとは思わない。	3
18	必要限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	この文章は適していないと思います。なぜなら例文が二つあがっているけど浪費ほどしっかり消費への意味が理解できる文が書かれていないからです。	2	Bさんの意見をふまえて、消費の意味「経済で、人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為」と辞書では記されていて、筆者は消費は満足をもたらさないと書いてあるが、その後の満足を求めて消費しているという分が辞書と似たような意味になって	0
19	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私は適していると思った。なぜなら、本文に「記号や観念の受け取りには限界がない」と書かれているからだ。腹いっぱいに食べたことに満足するのは浪費だが、店を周るだけで満足していないと、消費のことを述べられている。	2	私も筆者の述べていることには納得できない。なぜかというと、消費と浪費の違いは明白ではないと考えているからだ。贅沢とは必要のないものを買うことで、生活を豊かにする時間があったとしても、またすぐに違うものが欲しくなる。その繰り返しは、消費と一緒なのではないかと私は思っ	2
20	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していないと思う。なぜなら、消費の良い所、悪い所が書かれていないからです。上の書き方だと消費は悪いことをしているようにしか見えません。だからそこに良い所も書いた方が適するのではないかとも思いました。	3	筆者が文中で使っている、消費は辞書の意味とは違うから、消費については矛盾しているため文章は正しいとは言えないが、自分の言葉だけでなく、哲学者の言葉を使っているから、説得力があると感じた。しかし、贅沢を取り戻すことについてが少し曖昧になっていると私は思うので、私は、筆者の主張には納得が出来ない	2
21	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この直前の分に浪費について書かれてあるので、この文章は適していると思う。浪費についての説明で例を挙げて説明していて、この文章でも例を挙げて説明していて構成されているので適していると思っ	5	Bさんの意見をふまえると、	0
22	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	消費という言葉については、あまり説明がないので、消費について書いているのは良いと思った。例えがわかりやすく消費がどういう意味なのかがわかりやすい。だから私は適していると思う。	5	Cさんが言っているように、消費と浪費の違いを対比的に述べて、消費社会の問題点を浮き彫りにさせている。ただBさんが言っているように、消	0
23	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	適していると思う。※の部分より前の文では「消費」という単語について説明している。それに違和感なく、続く食べ物を使っての具体例はわかりやすく、見る人にも引き続き読んでいられると思ったからです。	4		0

24	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は、適していないと思いました。なぜなら、一つ前の文で浪費のことを話しているのにいきなり消費のことについて話し始めているからです。	2	Bさんが言うように消費とは経済で人間の欲望を満たす行為だが、それは一時的なもので、また新しいものが作り出されると、新しい方へ行き自分が一番手に入れたと皆に広めたがる。それが人間だと思う。	1
25	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると思う。話題になっているものは手に入れたいと思うし、話題になるものは毎回違うものだから、満足がいかず、消費してしまうと思うから。	2	浪費と消費の違いを挙げていて、筆者の言っていることはなっとくできると思う。国語辞典は欲望を満たすために消耗するけれど、これが満足いくとは書かれていないのであまり関係な	2
26	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	※までの本文では、浪費について具体的に説明されているが、消費については満足に説明されていなかった。Aさんの文章は消費についての説明にあたる文章となっているので※の部分に適していると思う。	5	Bさんの意見に納得した。なぜなら、本文を読んで疑問に思う点が多くあったからだ。筆者の「消費は満足をもたらさない。」という言葉のほかにも、国語辞典の定義と矛盾していそうで筆者の述べていることには納得できない。だが、Cさんの意見の通り、論じ方は間違っているとは言えない	5
27	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1		0		0
28	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	二つの例をそれぞれわかりやすく説明していてとてもいいと思いました。消費のことがこの文で詳しく例として挙げられていて僕は文の入り方終わり方がよくてこの文は適していると思いました。	2	Cさんが言っているように自分も主張に説得力を持たせていていいと思う。Bさんが言っている辞書のように消費と矛盾しているというのはCさんが言っているように浪費との違いを明確に言い表して対比的に述べることということでいいのかなと自分は思いました。僕はこの意見をみてCさんのほうが僕の意見とあっていると思いま	1
29	贅沢を言い表した	0		0	④	0		0		0
30	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると思います。理由は前の文では、浪費についての具体的な例が挙げられているのに対して、消費についての具体的な例が挙げられていなかったからです。消費とは何かなどを述べていて良いと思いました。	5	私は、BさんにもCさんにも共感できるなと思いました。まずは、Bさんが消費と浪費が成り立たないと言っていて、Bさんが調べた意味と筆者が言った意味が逆になっているのは、少し似ているとかならわかるけど全く違うのはおかしいなと思いました。でも、Cさんみたいに説得力を持たすための工夫とでも考えられると思いまし	1
31	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1		0		0
32	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	浪費の具体的な例は、説明されているが消費については説明がないので適していると思います。ただ、Aさんの文章だと浪費の例と比べて例え方が違うので比較するという点では適していないと思います。	2	作者が言う消費は満足をもたらさないというのは、Bさんが調べた意味も含まれていると思います。食べ物を食べる（消費する）と腹は満たされます。これは国語辞典で調べた意味になります。しかし、一度腹が満たされても腹は減ります。だから作者は、満足をもたらさないと考えたのではない	1
33	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	急に、お店や携帯電話などはっきりとした、例えが出てきて、わかりやすそうではあるけど、私には分かりずらかったです。「チェンジ」や「モデル」などの言葉をだすならもっと2つの言葉の意味の説明が	1	筆者の言いたいことの受け取り方は人それぞれだから、Cさんの言いたい事ともわからなくはないけど、矛盾がおきることで、どっちを頭に入れればいいかわからなくなるし、頭かこんからがるのでそろえてほしいと思い	1
34	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1		0		0
35	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	私は適していつと思います。文章に書いてあることも間違っていないと思うからです。携帯は次々新しいのが出てくるから、書いてある通りのチェンジしたものを受け取っていると思いました。	2		0
36	豊かさの条件	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	あの文と自分の考えはほぼ同じで、実際に行ったことによる満足はなく記号といった点でいえば、新しいといってもあまり変わっていなかったり、よくわからないことなどがそういう考えとして成立しているのではと思う。	1	筆者の言う満足は終わらないことを意味しているのだと思う。新しいマンガが出たら買うし、服もボロボロになってきたり、サイズが合わないと買わなきゃいけない。つまり、そこに満足感は終えることなく続くものだと筆者は語っているのだと思う。	0
37	必要の限度のモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していると思います。理由は、現代は、モノや製品のよさももちろんだけど、それよりもそのブランド、店の記号とかを大事にしていると思ったからです。	2		0
38	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	④	0		0		0

39	必要限度を超えるモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	浪費と同じように、消費についてしっかり説明されていると思った。わかりやすい例を挙げて説明しているところが特に良かった。読むと、共感できるなぁと思える文章だった。	3	私は納得できる。なぜなら、1つ1つの説明にわかりやすい例を挙げているから。確かに、辞典で出たように、言葉の意味自体はその通りだし、矛盾しているかもしれないけど、結局実際は本文に書いてあるとおりだと思うから、少々の矛盾は仕方ないことだ	3
40	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	私は適していると思います。これまでに浪費という言葉がたくさんでてきているので、そもそも浪費とは何かを書いてあるのはいいと思いま	2		0
41	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していないと思います。なぜなら、「では、消費とは何か。」とAさんの考えた文章に書いてあるが、※前の文にジャン・ボードリヤールが消費について、説明しているからです。だから、私は適していない	2	私もCさんの意見と同じで、筆者の主張に納得ができます。	2
42	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると思います。なぜなら、※前の文章で浪費について、例えを使って説明しています。その後にこの文章がくるなら、同じように消費について例えを使って説明しているため適していると思いました。	5	私はBさんの発言には反対で、辞典で言う「人間の欲望」のその欲望は人が生きていくのに必要な分だけのことを言っているのではないかと思います。そのため、筆者の言う欲望を満たすは必要以上のことだけど辞典は必要な分だけだと思うから、筆者の述べていることに矛盾はなく、私は納得できると思います。	5
43	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	私は、この文章はある程度、適していると思う。理由は、消費が満足できないということを示すときに、人の具体的で身近に感じる行為を例に挙げているからだ。だから、この文章は適切だと思う。	2	私は筆者の考えに納得できる。Bさんの言うこともわかるが、国語辞典はその言葉に対する意味だけであって、筆者が主張しているのは、その言葉の意味をふまえた上で、表現を変えて主張しているものだと思う。だから、浪費は満足を生み、消費は満足を生まないという、筆者の主張は	5
44	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	消費についていろいろ述べていて、適していると思います。例をあげて説明しているところがいいと思いました。そして、例は一つだけでなく、また違う例をだしているのもいいと思いました。	3	私は、筆者の意見について納得できます。Bさんが言っていることもわかりますが、消費することが全ていいことだとは思いません。贅沢のしすぎは後々自分を苦しめる行為だと私は思うからです。Cさんと同じで筆者が考えていることに私は納得ができます。	2
45	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	Aさんの文章は適していると思う。理由は、前の文章で、記号を消費するとはどういうことか問いていて、浪費を対比して説明しているので、文章の順番的に次はメインの消費について説明すると思ったか	4		0
46	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	消費とことで例をあげているので適している。すごくわかりやすくかいてあるし2つも例をあげているのでまた別の視点からもとらえることができるのでこの文に適していると思います。	2	私は、筆者の主張に納得できます。筆者は哲学者の意見を取り入れることによって分かりやすくせいかくに述べている。対比していることでどこがわるいのかどう直していくべきなのかを考えることができる。最初に我々に説得し工夫しているので良いと思っ	4
47	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると思います。この文の前にも後にも消費の具体例が書かれていないからです。ここに消費の具体例を書くことで浪費と対比もできるので適していると思います。	4	私は、必要なものがあるだけで贅沢なんじゃないかなと思います。	0
48	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	自分は適していると思います。※前の部分には記されていなかった消費の具体的な例を挙げているからです。消費と浪費を比べているのに、消費だけに具体例がないのはとてもわかりにくいと思いました。	5	Bさんの意見もCさんの意見もきっと間違っていないと思いますが、自分は、どちらかといえば、Cさんに近い意見です。確かに国語辞典の定義とは矛盾していますが、あくまでも筆者さんがジャン・ボードリヤールさんの言葉を借りて個人の意見を記しているだけですし、文章も別に的外れなことは書いていないように思えました。	1
49	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	身近なもので消費についての具体例を上げ、浪費との対比を説明しているように感じ、※の後に来る「浪費と消費の違いの明確さ」についての説明に入りやすくなったと感じ適していると思います。	5	Bさんの意見を読むと、世見一般的な「消費」の意味と、筆者の考える消費には矛盾するものがある。しかし、Cさんのように哲学者の言葉などを使っていたので納得ができないわけでもないと思い、消費に対するイメージをどうもつかによってBさんにもCさんにも納得できると感じ大変おもしろ	1

50	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	上記の文章はこれまでの前文とは違い具体的な例が入っている。例が前文よりもとても細かくて難しい。しかし、前文の食事の話ともつながっているので、私はこの文は適していると思う。	3	私はCさんの意見と同じように感じました。Bさんの意見もわかりますが、辞典で調べたことはその単語の意味だけで、その単語が社会でどうなっているかは書かれていないのでBさんの意見には反対です。筆者の最後の文の意味は少し考えましたが社会に流されてたくさん物を消費することはやめた方がいいなと思いました。	1
51	限度を超えてモノ	0	モノに付与された意味・観念	1	③	0	消費の具体的に書かれていてその具体例としてケータイのモデルチェンジのことについて書かれており、今の人々は多くの人が携帯電話を持っているのでこの具体例に興味や関心を持ちやすいのでいい	3		0
52	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観	1	③	0		0		0
53	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	適していると思う。グルメブームのことを例にとって私たちに共感をうまく生ませている。しかし私は、最後の方の何を受け取っているのか、という部分に、「価値」というメッセージもいいのではないかなと思った。	3	私は、Cさんよりの意見だが、Bさんの意見もおもしろいなと思った。矛盾しているようにみえるが、結局は同じなのではないかと思う。一見正反対に思える辞書と筆者だ。欲は少しの間満たされる。しかし、人はそれ以上にまた欲が湧く。するとまた消費してしまうから、満足しきれない。ということにつながるのだろうと思う。	1
54	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していないと思う。本文の方の消費ともう一つの消費の意味が少し違う気がしました。	2		0
55	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1	適していると思います。	2		0
56	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していると思います。※の前までは、浪費についての説明をしていたので、※に消費についての説明があって正しいと思います。そしたら、※の後の文章に書いてある違いについての説明ができると思います。	5	筆者が、消費者は満足を求めて消費しているって書いてあるのを見て、自分自身、本当にそうだなと思いました。いっつもしている買い物は自分の満足を得たいがためにしていると思いました。満足をしても、また満足を得たくなる。その繰り返しだとわかりました。だから私は、筆者の主張に	2
57	必要の限度を超えて	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	僕はこの文章が適していると考えた。なぜなら、この文章は消費を言い換えて否定しているので、この前の文章と対比の関係を作り、浪費と消費の違いを明らかにすることができると思ったからである。	4	僕はCさんと同じで作者の主張に納得できました。一見無意味だと思われる浪費でも、消費とは違い贅沢を感じることができる。また、消費は贅沢を奪っていく。という考えはなるほどと思った。また、これらのことから『我々に必要なのは贅沢を取り戻すことなのである』という考えに納得で	2
58	目の前にあるモノ	1	必要の限度を超えてモノ	0	③	0	自分は適していると思います。浪費は生活に豊かさをもたらすので携帯電話はモデルチェンジをすることで人々が興味を持つと思います。このことから人々の生活を豊かにしていると思います。	2		0
59	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私は適していると思います。消費についていくらか例があげられていてわかりやすいし、話が分かりやすいと思いました。	2	私はCさんの意見に賛成です。浪費と消費の違いが明確に分かっていたらいいと思うし、むしろ説得力があっていいと思います。	1
60	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	私は適していないと思う。この文章に、納得できる人はたくさんいると思うが、世の中には、おいしい物を食べたい、より良い商品を使いたい人がいて、その人たちが消費を続けているのだと考えたから。	2	私もCさんと同じ意見だ。哲学者の言葉を使うことで、分かりやすく説明していて、かつ自分の知らなかったことを知ることができる。そして消費社会	1
61	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	書かれていることが明確な点は良いと思うが、浪費の具体的な説明文を見た時、浪費は歴史的に説明されているのに、消費は現代のことをもとにして書かれている。昔と現代では考え方も違うので、適さないと思う。	2	国語辞典で調べた意味と矛盾していても、あくまでも筆者の意見であるから良いと思う。浪費は満足をもたらすや、消費には限界があると言い切っているので、「～かもしれない」とうやむやにされるより分かりやすくて、哲学者の言葉を出すことで、もっと説得力があかるため、よく理解できる。だから筆者の意見に納得できる。	3

62	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	適していると思う。前文では浪費と消費について食べる量という例を挙げられているが、浪費の方が説明が簡単で分かりやすかったので、消費についての説明や例がAさんの文のように書かれていると理解しやすいから。	5	筆者が哲学者の言葉を使って浪費と消費がそれぞれどのようなモノでどのような違いがあるか、分かりやすく私たちに理解してほしかったからではないのかなと思う。国語辞典は確かに意味が書いてあるが、なじみのない言葉や単語がよくでてくるので理解がしにくい。だから、理解がしやすかったので筆者の主張に納得でき	5
63	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していないと思う。なぜなら、消費と浪費を比べた時に消費に関しては、自分がその文章を読んだ時に具体的かつ身近に想像できるが、浪費に関しては読む人が想像できにくいと思う。その点で適していないと思った。	2		0
64	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	筆者は消費には限界がない理由として、消費の対象はモノではないからだと言っているけど、Aさんはグルメブームを例にあげていて、それは消費の対象がモノなので空白の部分には適していないと思いました。	2	私はBさんの意見と同じで、筆者は消費は満足をもたらさないと言っているけど、浪費まではいかない程度の消費、例えばいつもより少し良いものを自分へのごほうびとして買ったときには、私は満足するし嬉しい気持ちになるので、贅沢と浪費は同じでは	3
65	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると思う。九行前に、浪費はモノの受け取りには限度があるから、満足をもたらすが、限度を超えるとストップするとある。だから、消費は限度というものがないから終わらないと浪費と対比していて良いと思う。	3	私もCさんと似た意見を持つ。なぜなら、Bさんの言う事も分かるが、人によって感じ方は違うと思うからだ。哲学者の言葉も後の意見につなげられるし、具体例も分かりやすい。浪費社会や消費社会という言葉は、日常的に考えていないが、後半は読者側も自分事として読めるし贅沢の本当の姿が見えたようにも感じる。	1
66	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	②	0	適していないと思います。二つの例はとても具体的に書いてあるけど、消費をここまで具体的に書くと浪費の説明する段落の説得力が少しなくなるかなと思ったからです。	5	Cさんの意見に賛成です。Bさんの視点で調べたことと矛盾しているという意見も分かりますが、欲望を満たすことが満足とは筆者は考えていないと思います。反対にCさんの言っている哲学者の例を使って対比的に述べていることが消費社会の問題を読者が理解し納得できるように書いてあるので私は納得できます。	5
67	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると思う。挙げられているどちらの例も、人が優越感に浸りたいから行っているもので、特に携帯電話は何年も使えるものなのに、なぜ変える必要があるのか。この意味を受け取りにいく行動こそ消費である。	2	私は納得できる。国語辞典にある消費と本文にある消費は矛盾しているかもしてないが、浪費との違いを明確に対比し述べることで、消費社会の問題点を浮き彫りにすることができる。そのためには、極端に消費と浪費の関係を言い表し、挙げられている具体例の理解へうながさなければ	5
68	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	適していると思う。少し例の話が長いと感じたが、「モノの付与された記号を消費する」という表現の意味を読み手に伝えるには文章全体としては妥当な量だと思った。また、前後と合わせて読んでも違和	4	私は筆者の意見に納得できる。現代社会を生きる人々が、気づいていないことを見抜き、浪費・消費とは何かを的確に表現していると思った。	2
69	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	自分はこの文章は適していないと思う。確かに「おすすめ」の店を延々と回り続ける人々は「意味」を重視していることになるのだろうが、満足するために店を延々と回っている人もいるはずだから、適していないと思う。	2	筆者の考えについては正しいように感じた。まずBさんの主張に対しては、国語辞典の定義が必ずしも正しいとは限らず、別の見方をすれば、別の意味が生まれるのも当然のように感じる。筆者の主張は対比して物事を述べているため、「浪費」と「消費」の違いを的確にして述べている点は評価すべきだというふうに感じ	5
70	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1		0		0
71	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章が例が2つあってその例も私には分かりやすかったし、消費についての説明は具体的に出来ていると思ったので、私はこの文章は適していると思う。	3	Cさんの意見に筆者が哲学者の言葉を使って消費を定義したのは、浪費との違いを明確に言い表して対比的に述べることで、消費社会の問題点を浮き彫りにするためとあったが、私にはよく理解が出来ないが、他の具体例も納得できる部分や、論じ方は間違っているとはいえないと書かれた部分は私もそうだと思ったの私も	3

72	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	「消費」についての説明をしている点では、適していると思う。しかし、本文の五段落目に贅沢を浪費と言い替えているので、消費も何かの言い換えの説明が入っていた方がより、説得力があるのではないかと思う。	2	Bさんは、国語辞典に書いてある事と矛盾しているといっていますが、筆者は人がどう感じるかということをベースに述べているし、消費社会の説明のために、「消費は満足をもたらさない」と述べているので、筆者の意見は正しいと私は思います。消費社会を否定する考え方はとても説得力があ	5
73	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	浪費の説明をしているときには”消費の場合”と”浪費の場合”で書かれているけれど、Aさんの文章には”消費”の場合のみだから、”浪費”だったらどうなるかを、書いたほうが良いと思うからあまり適して	2		0
74	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	空白の部分の前は消費や浪費のことを述べているのにかかわらず、空白の部分ではあまり述べられていないため、空白の部分には適していないと思う。	2		2
75	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	私は適していると思う。この文章の前の段落では、主に浪費について食事での話を取り上げている所から、Aさんの文章も食事という話の中で書かれているので、読み手が対比しやすいと思ったから。	5	私はCさんと同様に筆者の主張に納得できた。前半で浪費と消費のどちらにも触れた上で、哲学者の言葉を用いたことでより、内容が濃くなったと考えられる。後半はそれを全部まとめて理解した上で消費社会の問題が取り上げられ、結論がまとめてあるのは工夫として評価できる。だから私は筆者の主張に納得できる。	5
76	記号や観念	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	適していると思う。身近な「グルメブーム」や「携帯電話」が例にしてあって、とても分かりやすい。本文の「消費はストップしない」という文にも値しているし、モデルチェンジのなしで売れないのも現代の状況だと思う。	3	私は筆者の主張に納得できる。必要の限度を超えた支出は無駄ではない。生活には生存に必要なものが十分あればそれで事足りるとは思っていない。理由は「あなたが持っているものは全部生存に必要なものなのか」と聞かれたらそうではないと思うからだ。周りには無駄だと思われても本人からしたら大切で必要なものも	2
77	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	適している。浪費に最初に詳しく述べられているが、消費についてはあまり述べられていない。後の、「消費と浪費の違い」について述べるには、個々で消費について述べておくことは必要であるから、適していると思った。	4	Cさんの考えに私は近いです。筆者か読者に伝えたかったことは「贅沢を取り戻すこと」です。それに、私は国語辞典の定義が全てではないと考えています。筆者は自分の考ええ偉人の言葉を使って読者に伝えようとしています。この文章は説得力があり、例え定義と矛盾していても、伝えたいことが伝わればそれでいいと考えま	1
78	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は、Aさんの書いた文章は適していると思います。前の本文で消費はモノに付与された記号や観念を受け取っていると書かれています。その具体例を述べることで、浪費と消費の対比がしやすくなっているからです。	5	私は、Cさんの発言に賛成です。その理由は、Cさんも話しているように、浪費と消費の違いを明確にして二つを対比させ、消費社会の問題点が分かるようにしているから。また、具体例も哲学者の言葉や身近なもので表しているから想像しやすく分かりやす	1
79	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	消費と浪費が対比されられているのにどちらも記号と受け取り続けるというところと、	0		0
80	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	④	0		0		0
81	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	適していると思います。理由は、前の文で、浪費の具体例を挙げています。しかし、消費についての具体例はまだ挙げておらず文として成り立っていないと思います。よって、※の部分に適していると推測されます。	4	筆者の考えは、感情の問題であって辞書にのっているような意味で挙げられていないと思います。筆者は消費社会の問題を浪費と消費を対比させています。納得できる具体例も挙げています。哲学者の言葉も使っています。筆者は読者にわらりやすい工夫をしていて納得できるような文です。よって、私は筆者の主張に納得	5
82	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	前の文で、「消費」についての説明はされているが、空白の部分の前後に、その具体的な例が述べられていない。さらに、後に続く文に自然に文をつなげることができる。だから僕はAさんの例を用いた文は適していると思う。	4		0

83	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	適していないと思う。なぜなら、消費について説明するところで、先にグルメブームという例をおいていることで量ではなく意味を受け取るという結論が後回しになり、対比なのに話がつながっていないから。	2	Bさんの意見については、「人間の欲望を満たすため」とあっても、その行為によって、満足をもたらすかは全く別の話のように思える。「受け取る」ために消費、または浪費をしているが、この話では、それによって満足がもたらされるか否かという題であって、「満たすため」というのは理由なので、私は筆者に同意できる。	2
84	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私は適していると考えます。なぜなら、浪費は具体的な例があるのに対し、消費は例がないまま浪費と対比されており、消費とは何かという疑問が残ったままになってしまうため、浪費と消費の批判に差がで	4		0
85	必要を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観	1	⑤	0		0		0
86	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していないと思う。私はこれは、浪費の例だと思います。理由は、どこにでもある飲食店の中から、わざわざ宣伝されたところに行かなければならないという発想がそおそも不必要ではないかと思うからです。	2	私は、どちらかというとCさんと思じ意見だと思います。この説文の中では、贅沢イコール浪費と題して、それに対するものを消費と題しているのでBさんとは違うなと思いました。そうすることでやはり説得力もあるし、分かりやすい文章だなと思います。たまにの贅沢はいいことだと分かりました。	1
87	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味や観念	0	①	1	僕はこの文章は適していると思います。理由は、前の段落には浪費の具体例が書かれているので、消費についての具体例を書けば、その後の段落で老舎の違いについて述べることができると思うからです。	4	僕は筆者の意見に納得できます。理由は、浪費との違いを表して、消費社会の悪循環を利用したものだといっているので、消費社会の問題点をあげていて、僕も筆者と同じ事を思うし、贅沢をすることは必要であると思うので、僕は筆者の意見に納得で	2
88	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観	1	③	0		0		0
89	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	※までの本文では浪費とはどういうものか、そしてその具体例を哲学者の言葉を用いて説明されており、消費の説明に足りなかった具体例がAさんの文章には書かれているので、この文章は適していると思われる。	5	結論としてはCさんの意見である。理由としては、Bさんの主張は言い換えれば、言葉の意味が標準のものとは矛盾しているため納得いかないというものであるが現代において言葉はよくも悪くも流動的でありなにも辞典のみが正しいとは思えない。なので分かりやすさを重視したCさんの意見	1
90	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	前文で筆者が述べている、「消費には限界がない。」という主張に納得できるような事実を、身の回りで考えられる具体例を加えて説明されていて、浪費との違いを明確にすることができるため、適してい	3		0
91	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	自分はこの文章は適していると考えた。なぜなら、きちんと具体的な消費の例を説明しつつ、「たとえばこうゆう例もあるよ。」と読者にお知えていて浪費の具体的な説明からこの文章につなげるのはとても良いとおもった。	3	筆者の考えについて私はとても納得ができた。なぜなら浪費と消費の対比を明確に言い表せていて、両方の具体例も全然違って納得ができた。また、消費社会の問題点も数多くあり、筆者が読者に対して説得力を持たすため工夫して具体例を言い表していてとてもよいと私は思った。なので、私は筆者の考えはとても納得で	4
92	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私はAさんの文章は正しいと思う。浪費については、具体例を挙げられている。しかし、消費については具体例が挙げられていない。このことから「※」をうめる文章は消費の具体例を挙げる、Aさんの文章が正しい。	5	Bさんは「国語辞典の定義と矛盾しているよ。」というが、私はそうは思わない。筆者は、浪費や消費の具体例や哲学者の言葉を引用し、論じている。これは説得力を持たせる工夫であると思う。それに対して、国語辞典を持ち出し、あげ足を取っているようなことは間違いだと思う。	1
93	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	しっかり消費について、具体例を挙げていて、一つではなく、複数例を挙げているから、適していると思います。	2	間違っているわけでもないし、間違っていないとも言えない。人それぞれだと思うから。自分が納得したならそれでいいと思う。	1
94	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	私は、この文章は適していると考えます。なぜなら、この文章の前後には、消費とは何かが書かれていないからです。消費についての説明や具体例が挙げられいる点が	5	私は、Cさんと同じ考えです。Bさんの考えは、筆者の考えには合っていないと私は考えます。筆者は、消費というのは悪循環を起こすから	1

95	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私は適していると思いました。「消費はモノではなくてモノに付与された記号や観念を受け取っている」という筆者の考えにそって、なおかつ具体例を挙げて書かれているので適切だと思います。	3	Bさんは国語辞典の定義を挙げて述べているけど、私はその定義の捉え方を間違っているように感じました。消費して欲望を満たすのは一瞬で、もし一つ何か欲を満たしたら次に新しい欲望が生まれるからです。欲を満たすことが贅沢ではなく、それが贅沢だと感じることで贅沢ができていないというのは不思議に思いました。	1
96	必要の限度を超えモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	一見すると特に違和感のない文章に思えましたが、よく読むとそうでないと思える点が出てきた。二つの例に根拠がないと思った。どちらも意味や記号だけを受け取っていると書いてあるがそうでない可能性もあるから。	1	Bさんの発言は根拠に元ずいた発言だと思う。本来、どんな発言であっても根拠がなければ意味をなさない。しかし、評論の文を書くにいたって、事実を書くだけでは売れない。多少、筆者なりの論じ方がないといけない。過去のデータや調査結果などの根拠を示さず、筆者の偏見で書かれたこの評論は少し共感できない部分があ	3
97	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	前の文が浪費の説明を他の言葉を使いながらしていたので順番てきに次は同じかんじで消費の説明がされるだろうと予測がつくのでこの文は適していると思います。	4	筆者は国語辞典の意味ではなく自分でみてかんじたことを消費の説明にしていると思った。筆者はこの贅沢を浪費と言い換えることができると言っていてだから消費との違いを簡単に説明しながら今どんなかんじになろうとしているのを説明していて自分たちには何が必要なのかも書かれてい	1
98	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観	1	①	1		0		0
99	必要の限度のモノ	0	モノではなく、記号や観念	0	③	0		0		0
100	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	私は、この文章が適していると思う。なぜなら、実例を挙げ、わかりやすく説明しているからだ。後の文章で消費では満足しないので消費社会の悪循環が生まれることをより納得がいくものにしていると思う。	3	私は、どちらかというとCさんの意見に賛成です。なぜなら、本文中の消費と浪費の話がわかりやすく説明してあり、納得できるからです。しかし、Bさんの国語辞典と矛盾しているという点は私も同じ事を思ったからです。これは、辞書の意味と社会問題を表す文として別のものとして考えるべき	3
101	必要以上のもの	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	私はAさんの文章は適していると思う。理由は、前の文章では浪費について多く語られているので消費について語る文章は必要だと思う。さらに、モノをモデルに言い換えるなどしてとても分かりやすいから。	4	私は、筆者の述べていることに納得できる。なぜなら、Cさんが述べていたように、言葉を言い換えたりしわかりやすくかつ具体例をだし、深く筆者は述べておりそれによって消費社会がどのようなものでどういった問題点があるのかをわかりやすく伝えている。なのでBさんが言うように本来の意味が違っても筆者の意見に納得で	5
102	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	本文の前後には、消費の具体的な例が出されていない。Aさんは、本文にない消費の具体的な例を自分の文章で補い、かつ、例を複数、挙げて分かりやすくしている。これらの理由でAさんの文章は適していると考えます。	5	Bさんが国語辞典で調べたことと筆者の述べていることに矛盾があるから納得できない、という考え方に対して、Cさんは筆者のを肯定している。私は本文を読んでCさんと同じく筆者の主張に納得できました。しかし、Bさんの国語辞典との矛盾の指摘を聞いて筆者の主張の全てが正しいとは言い切れないとも考えました。	3
103	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私はこの文章は適さないと考えました。なぜなら、浪費についての本文は具体的な例を挙げておらず、二つのワードについて情報量の偏りがあらわれると考えたからです。	2	Bさんの国語辞典の着眼点は面白いと思いました。しかし消費のイメージは本文と同じく「消費には限界がない」というものがあります。人間の欲望を満たすというのも、一時的な満足感であり、結局のところ消費には終わりが見えないように感じられたので、私はCさんのように筆者の主張に	3
104	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観	1	②	0		0		0
105	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私はAさんの書いた文章は適していると思う。そう思う理由として、ここまでの本文では、記号・観念という言葉について詳しく説明されていないため、個々で記号について説明するのは適しているといえる。	2	私はBさんの意見と違い、筆者の意見に納得できる。Bさんは辞典に記されている意味と矛盾しているから納得できないとしているが、私は矛盾していないと思う。なぜなら辞典では一言も消費によって満足が得られるとは書いていないからである。満足しようと消費をしても満足できないから筆者は消費を批判していると私は思う。	3
106	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1	適している。消費の例についてはっきりと書かれている。	3		0

107	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると思える。なぜなら、浪費とはどのような事かは、前文で例を挙げて紹介しているが、消費のことに対してはそれがないが、この文章では例のことが書いてあっ	4		0
108	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	適していないと思う。理由は、浪費の方はここまで詳しく説明されていないから、消費の方が多く説明させてしまい、偏りができてしまうため。	5	私はCさんと同じように、浪費との違いを明確に表しているので、納得できる。そしてBさんの発言については、筆者は筆者の考え方があるから、国語辞典と矛盾しているか、そういうのは違うと思った。	3
109	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文は適さないと思う。理由としては、前文では浪費の説明がされていて、その後に具体例が来るその流れを壊さないようにするためにはここでは消費の説明がくればいいと思う。その後にこの文章をつなげるべきだと思った。	2	Bさんの意見を読むと辞典にのっているのが正しいととらえてしまう。だが、この作者は哲学的な視点からも見てると思うので、これを非定すると作者以外の方も非定してしまうと思うので私はBさんの意見よりCさんの意見のほうが私の考え方と近いのでCさんの意見の方が私はいいと思いま	1
110	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると思います。前文の浪費は生活を豊かにし必ずどこかでストップするという考えとは逆に、消費は満足をもたらさず、記号の消費は終わらないと書いてあり、次の文へとつながっているからです。	2	Bさんの考えは違うんじゃないかなと思いました。満足を求めて消費をするが、消費者は満足できず、消費をつづけるということが筆者の考えだと思います。辞書の意味は欲望を満たすためにということなので、消費者は満足したくて財貨を消耗したが満足できず、次の消費を行っているので、意味は一緒だと思います。	1
111	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	適していると思う。本文中では詳しく説明されていない部分を補い、具体的な説明によって説明しているからだ。しかし、それより前の「記号を消費することは…」の文の次にこの文章を入れたほうが内容が分かりやすく感じた。	3	Cさんの意見が自分と合っている。贅沢とは何かという導入からはじまり、浪費と消費という普段から使う言葉だが、しっかりと意味が理解できていないものの説明をし、対比されている。そのため、分かりやすく、贅沢を取り戻すことが必要という筆者の考	5
112	満足をもたらす。	0	満足をもたらさない。	0	③	0	私は適していると思う。確かにAさん自身は満足をするとは思う。しかし、相手に話す時は、店の記号しか伝わらず、その店に行っていないため満足しない。そのため私はAさんの意見は適していると考えた。	2	筆者が述べている消費は、矛循していると思う。Bさんの意見と同じですが、消費は物を消耗することだと考えた。そのため、消費は満足をもたらさないと筆者は述べているが私は違うと感じた。消費と浪費の関係は成り立っているとは思えないので、私はこの筆者の考えに納得できない。	5
113	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	私はこの文章は適していると思います。浪費の文には浪費について説明し、その後で例を挙げているので、消費の例について書かれているこの文章は適していると思い	5	Bさんの意見も分からないこともないがCさんと同じように主張に説得力を持たすための工夫と評価できると思い、私も筆者の主張に納得できた。	3
114	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	Aさんの考えた文章は、それまでの本文に出てきた語句を使い分かりやすく説明している。浪費と消費の対比もしていて後の本文と内容がつながっているから私は良いと	4	二人の意見を見て、この本文の見方が変わった。国語辞典の定義と筆者の述べていることは確かに矛盾しているが、その言葉の表現が違っただけで、筆者の考えに納得した。	2
115	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章の前の段落の始まりが「記号を消費するとはどういうことだろうか。」で浪費の説明しかされていなかったので、記号の消費を例を挙げて詳しく書いてあるAさんの意見は適していると思う。	3		0
116	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	私はAさんの文章が適していると思います。前の文章では浪費は満足をもたらすと主張していて、Aさんの文章では、消費は記号はいくらでもうけとることができ、満足できないと例を挙げて浪費と対比できているから。	5	私は二人の意見に賛成できます。Bさんは辞典には違う意味が書いてあるから納得できない、Cさんは問題点を浮き彫りにするためだから納得できると主張している。筆者側からすると思惑通りだと思う。このように様々な意見が出ることで興味・関心がわき、消費社会にの悪循環、本当の贅沢とは何かを気づかせたいのかもし	1
117	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	消費の説明はもうすでにしているので、前半の文章はあまり適していないと思う。しかし、後半の文章は別の例を挙げて説明しているので、さらに消費のことが分かりやすくなると思うので適していると思う。	2	BさんとCさんの意見はどちらもまちがいではないが、筆者は消費を定義するのではなく、消費の中には贅沢などないという意見。消費には満足することが決してないと主張する。我々は日頃から贅沢をしているから消費の渦に巻き込まれない。消費の渦に巻き込まれたら贅沢できないか取り戻すことが必要という筆者の考	0
118	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	③	0		0		0

119	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると思う。理由は、実際に好きな著名人が宣伝していたお店に行ったことがある。そのお店にあるものが食べたいわけではない。行ったという意味、事実が大切であるから記号の消費は終わらない。	2	BさんとCさんの発言をふまえて、私はCさんの意見に近いと感じた。べつに筆者は、国語辞典に載っている「消費」について話しているわけではない。哲学者が述べた言葉をふまえて「消費」に定義をつけた。だからべつに矛盾しているわけではないと思	1
120	必要の限度を超えモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	適していないと思います。浪費の時に哲学者を1人あげその人が述べたことや、十九世紀のブルジョワの贅沢などの昔のことにふれていないから適していないと思います。	2	Bさんが言っていたように、筆者が消費は満足をもたらさないという言葉は、私は自分がほしいとその時に思いたとえ後でいらなくなったとしてもその時はうれしいと思います。なので、筆者の述べていることには、納得で	2
121	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していないと思う。なぜなら、※の前文の最後に「これが浪費…」「そして必ずストップ…」という文がある。浪費と消費をしっかり対比させたいのであれば、その言葉に対する対義語が必要だと思ったから。	2	まずこの文のタイトルとは。「贅沢」というのがキーワードで、贅沢とは何か。何が付きまとうのかを論じていく文が構成される。だが、Bさんは、それについて述べず、ただ文のキーワードの一つである「消費」に目を向けて話している。これは筆者が伝えたかったこととはずれている。本当の贅沢とは…そこが大事だと思う。	0
122	必要の限度を超えモ	0	モノに付与された記号や観	1	①	1		0		0
123	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	消費についての具体例を挙げて書かれており、また※の前後にも書かれていない内容の為この文は適していると考える。	3	Bさんの意見の中で「経済で、人間の欲求を満たすために財貨を消耗する行為」という風に消費の説明が記されているとあるが現時点で日本が財貨を消耗することで満足できているのか疑問に思った。現状に満足していないから消費し続けているのだと思う言葉には多くの意味がある為筆者の考えを含め色々な考え方がある	3
124	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	宣伝により有名になった店や新しい商品に興味が湧くのが、現代はSNSにアップするなどの目的を持った人もいるが、ただおいしいものを食べたい、便利な品がほしいという人もいると思う。	1	消費は満足をもたらさないのではなく、消費をすることで一時的に満足を感じ、時間が経つと、また満足感を得たいと思うようになることであると考える。そのため、消費に限度はないという部分には肯定だが、満足をもたらさないという意見には私は否定すると考えられる。つまり、納得するところとしないところの両方がある。	2
125	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	前半では、消費と浪費が対比されており、浪費については具体例を挙げて説明されているが、消費については書かれていないため、両者の違いを述べるために、例を挙げているので、私は適していると考えます。	5	国語辞典に書いてある消費の意味と、筆者が述べている消費の意味は矛盾するげれど、挙げられている具体例は納得できるし、消費を定義していることにより、浪費との違いもはっきりとわかるため、主張に説得力が増しているので、私は筆者の述べていることに納得できる。	5
126	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は※の部分に適していると思います。なぜなら、※の前半に浪費について具体的に述べられているのに対し、※には反対の消費についての具体例を挙げながら説明することができていると思うからです。	5	私もCさんと同じ意見で、消費と浪費の違いを区別することで、消費社会の悪循環についてよりわかりやすくなっていると思います。筆者が一番伝えたいことは贅沢を取り戻すということであるため、消費をするのではなく浪費について構成するためには対比的に表したほうが読者に伝わりや	5
127	必要の限界を超えて	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	Aさんの文章には消費について書かれており、グルメブームや携帯電話の例をだしている。店の食べ物や携帯電話をモノとして受けとらず、記号や意味で受け取っていることを説明できているため適切であると考える。	3	私はBさんが調べたようないみが消費であると考えていたため、消費と浪費の関係は成り立たないと考える。しかし、消費の財貨を消耗する行為の目的を考えると、欲望を満たすために財貨を消耗するが、満足が得られないために消費のサイクルの渦に巻き込まれ、贅沢ができなくなっていると考えられ、筆者の考えに納得でき	3
128	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私はAさんの考えは適していると思う。自分にも当てはまることがあり、店や携帯電話だけでなく、洋服も入ると思う。次々、新しくなっていきそれは終わりがなく、延々と繰り返していくと思う。	2	筆者は消費社会を問題として挙げていて、明確にするためね対極にある浪費をだしていると思う。現代では浪費をする余裕がなく、何を楽しみに生きているのだろうと考える時がある。毎日贅沢をすることはできないが、たまに贅沢をすることは心に余裕を与えるため良いことだと思った。	0

129	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると考えられる。そのお店の料理がどうこう言う前に、人気のあるお店に行ったことを自慢する傾向にあるし、行ったことも一つの通過点であり、またすぐ次に行こうとして満足感を得ていないから。	2	私は筆者の考えに納得できます。なぜなら、大量消費の社会だからこそ、消費をするのが当たり前になっていて満足感を得られないからです。今のような社会がすべてのことに当てはまるようになっていくと、浪費だったものがどんどん消費に変わっていき、満足感を味わうことができなくなるのではないと思います。	2
130	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	※までの本文では、浪費に対してどのような物であるのかという事が食事という具体例を用いて書かれている。また、Aさんの文章もそう非がどのようなものであるかを具体列を用いて説明しているので適していると思う。	5	Cさんの意見にもあるように筆者の主張にはとても説得力があり、消費社会の問題点について考えさせられる内容になっている。しかし、実際に消費者として消費社会を生きている私たちが消費によって満足感を得られていないかというとそうではないと思うので、そのような点に関しては筆者の意見には納得できない。	3
131	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	※の部分より先に「記号を消費するとはどういうことだろうか」と取り上げているから、内容は例えを出していて説得力があっていいと思うが、「記号を消費するとはどういうことだろうか」の文章より先に持っ	3	Cさんの意見と一緒で、消費と浪費の違いが明確に説明されていて、そのうえ具体例を述べることで、より内容が深まり、納得できる・説得力のある論じ方だと思う。	4
132	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	浪費についての説明はフランスの哲学者ジャン・ボードリヤールの意見をふまえて自分の意見や説明をしているが、Aさんの文章は例のことしか書いてなく、自分の考えや意見のみで説明しているため適して	2	消費でも浪費でも自分自身が満足できて、社会が回っていくならばどっちでもいい。Bさんの意見に賛成。	1
133	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	※より前の部分で浪費について書かれており、※の後の部分では、消費について批判している内容が書かれている。そのため※の部分には、浪費と対比した上で消費を批判する理由が書いていないといけないため適している。	4	消費についての内容がくわしく書かれており、浪費との違いを明確に表して対比したうえで消費社会の問題点が述べられているため筆者の意見に納得	4
134	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	Aさんの文章は適していると考えます。前文では記号を浪費することについて話しています。なので次にくる文は記号を消費することだと思います。このようにして浪費と消費を対比しているのではないかと考えました。	2	私はCさんの意見に賛成です。筆者が哲学者の言葉を使って論じることで、主張に説得力を持たせることができると思います。また、贅沢に関して考えたことがなかった私でも納得できるような主張であると思いました。過度が贅沢はいらないけれど、たまに贅沢なことをしたいです。消費と浪費の違いがよくわかりました。	1
135	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0		0	辞典で調べて出てくるものと今の現状が本当に一致するとは限らない。今の消費社会の問題点を分かりやすく私達に伝えるために具体的な例を挙げていて、その内容も納得できる。Cさんの言うように、主張に説得力を持持たすための工夫ということが読んで分かるため、私は筆者の論じ方、主張に納得ができる。	5
136	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	Aさんの文章は適していると思う。文章を初めから読み進めてみて浪費についての説明はあるが、消費についての説明がない。消費についての結論のみが記載されている。よってAさんの文章は正しいと思う。	4	Bさんの意見も確かにその通りであると思う。しかし、国語辞典のような「消費」の捉え方をしているから、大量生産・大量消費・大量投棄の経済が生まれてしまったと筆者は言いたいのではないか。元々の意味はそうであるが、全ての人に合てはまるわけではない。一人一人捕らえ方が違うのではないかと私は思った。	1
137	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	モノを受け取ることが目的ではなく、受け取る際に付いてくる、意味や記号などが目的となっているため、同じものでも新しいものであれば新しい記号が出てくるので限り	1		0
138	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	私は適していると考えます。浪費についての具体例は前の文章の中に書かれており、ここの部分では消費についてを詳しく説明している。読む側が理解しやすいように具体例をだすことで説明されているため適切です。	5	国語辞典で調べれば、矛盾点が出てくるかもれないがこれはあくまで一人の一つの考え方であるから納得できる。それぞれ筆者と同じ考え方ではないし、さまざまな意見があるからこそ社会について考えが出てくるのだと思う。消費社会への一つの考え方としてこの文章を読んでみれば、筆者の主張に納得できると考えられ	3

139	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	私は適していないと考えた。理由は消費の具体例をグルメブームやモデルチェンジなどを用いて書かれているが、浪費についての具体例がなく、結果的に何を伝えたいのかはっきりとしない文の構成だと思ったから。	2	浪費とは、モノを受け取る限度があり、その限度に達することで満足感が得られるが、消費とは、Bさんによると人間の欲望を満たすために財貨を消耗することだという考え方があるが、消費とは限度がないため、欲望が完全に満たされることはないので、消費と不満足の悪循環が生まれないように、浪費を心がけることが必要	0
140	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	※の直前に食事についての浪費の具体例が書かれており、この文章はそれと対比されているので適していると思う。この文章があることで、モノに付与された意味・観念というものを具体的に共通の想像ができる。	4	私もBさんと同意見で、消費が満足をもたらさないと言いきってしまう必要はないと思う。本文中の消費しても満足が得られないから消費してというサイクルを利用してモノを売るという表現があるが、消費するという行為は一時の満足感を得られるからこそのサイクルか為り立つのではないかと感じたため納得できない。	3
141	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	※までは、浪費についての具体例があげられているため、※以降は、消費についての具体例を挙げるべきだと思うため、この文章は適していると考える。	4	定義としては成り立たない話であるかもしれないが、哲学者の言葉を用いたり、わかりやすい具体例で話すことで、読者が分かりやすいようにしている。	0
142	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	消費にはどうして限界がないのかが書いており、理由として消費の対象がモノではないことをグルメブームや携帯電話についての話で具体的に明らかにしているため、私はこの文章が適していると考える。	3	消費についての意味では人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為とあるが、この根本は人間の欲望を満たすという部分にあり、消耗することのみの目的ではないため、矛盾ではないと考える。また、違いを見つけるために混乱しないよう、言葉を分けて分かりやすい説明を行う工夫で	2
143	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると考える。前では浪費について食べ物の話を用いて具体例を提示して説明しており、この文章でも消費を食べ物と関連付けて分かりやすく書かれていて書かれていない詳しい説明があるため良いと思う。	5	私は筆者の意見に賛成する。確かに消費という言葉はあまり良い事として遣われない印象があり、浪費と比較しストップしないという例はとても納得できた。現在の経済の悪循環は贅沢をはき違えそれぞれが利益を求めた結果であると考えられる。意味や観念に捉われることなく自分に必要なものを判断しえていくことが必要であ	2
144	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	目の前にあるモノを受け取っている訳ではなく、与えられたモノや情報の話をしており、消費についての話をしているため、適していると	3		0
145	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	②	0	私は適していないと思う。※より前文で、哲学者の言葉を引用して浪費を説明している。だから、消費についても哲学者の言葉で説明した方がわかりやすいと考える。	2		0
146	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると考える。※前後の文章では消費について深く論じられておらず、消費の「モノに付与された意味・観念を受け取っている」事がどういうことなのかが不明だったが、※を狭むことによって理解できたため。	5	私はCの意見に近い。なぜならBの国語辞典で繰った答えと呼ばれるべきものは、この筆者ははなから焦点をそこにおいていないであろう事がうかがい知れるためである。消費と浪費、その定義づけは筆者がする。論点のずれや論じ方の不明瞭さがあるわけではないと感じたため、私は筆者の主張に参同できる。	3
147	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	Aさんが書いた文章は、前述されている「記号を消費する」という言葉に対して関連付けしながら、浪費との比較を行い、※の後の本文で、消費についての社会的側面を記述する文章につながる為適していると考える。	5	確かにBさんが考えることも理解できる。けれども、筆者は消費社会を取りあげ、そこに必要であることは贅沢を取り戻すことであると伝えたいのである。そのため、Cさんの消費と浪費を対比的に表すことで、消費社会の問題を取り上げたいという考えは納得ができる。だから私は、Cさんの意見と同様であると考える。	1
148	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観	1	②	0		0		0
149	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	③	0	Aさんは、ここで消費についての例を挙げて説明しているが、文章の流れでは浪費の後に消費に関することを述べていてまた、削除されている後に消費についてのことが書いてあるため、適切ではないと考える。	2	Bさんのように辞典で調べると矛盾していると思い、納得できないとあるが、作者の考えであり、私はCさんのように消費と浪費を対比することで、現代の消費問題について理解できたし、見直すことができたため、対比した具体例を用いたことに対して筆者	5

150		0		0	①	1	空白以前及び以降の文章には消費についての具体的な設明が書かれていない。よって、Aさんの書いた文章は空白部分に適切な内容であると考えられる。	4		0
151	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	前文には浪費の説明・経違が記されており、※の後文には消費の経違が記されている。このことによりコメには、消費の説明が入っていると考えられる。よって、※の文は消費を説明しているため適切である。	4	文章を読んでいて、浪費・消費についてよくわかった。Bさんの意見にあった、国語辞典と矛盾しているという点では、一つの国語辞典で決めるのもよくないと思うし、国語辞典に載っていることが全てじゃないと思う。人それぞれ考え方はあるし、自分がどう捉えるかでよいと思う。Bさんが辞典通りの意味が正しいと思えは	1
152	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	Aさんは浪費よりも消費のことについて書いてあるが、消費のことについてはすでに書いてあるため、浪費についてかかなくてはならない。よって適していないと考える。	2	国語辞典の消費という意味は欲望を満たすためだと書かれているが全てが欲望を満たされることはないと考えられるので筆者の「消費は満足をもたらさない。」という言葉も納得できる。また、浪費や消費社会についての例も納得できるため私は筆者の主	3
153	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	記号や観念の受け取りには限界がなく、ストップしないということの例が書かれておらず、限度のことが分からないのでこの文章は適していないと思います。ストップではなく、チェンジの説明になってしまっている。	2	私は筆者の考えについて納得できます。国語辞典で意味を調べると筆者の考えは定義と矛盾しているけれど、哲学者の言葉を見てみると理解できるからです。今の私たちの在り方を例を挙げて具体的に表しているからです。今の私たちにとっては筆者が言うように贅沢を取り戻すことが満足を取り戻すことだと思うからです。	3
154	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	前の部分で浪費の具体例が挙げられており、それと対比するように文章中の消費の説明に挙げられている消費はものに付与された意味・観念を受け取るという具体例があるためこの文章は適していると考える。	5	筆者の主張は、贅沢は必要であり消費社会の消費の渦に巻き込まれることで贅沢ができなくなるというものである。浪費と消費を対比して、消費社会の問題点を浮き彫りにするために哲学者の言葉を用いていると考えられ挙げられている具体例により主張に説得力が感じられるため、私は筆者の主張に納得することができる。	4
155	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	浪費の言葉の説明がされていないということと、話の活れがあっていないためふさわしくない。明確にそのあとの文で説明されているため、今例を出されてもわからないため、ふさわしくないと思った。	2	対比を行うということはとてもよいことだと思います。今後も消費社会は続いていくと思います。またより多くの消費物が増えると思います。なぜなら、衛生面などがもっと重視されてきているため、廃棄物が増えると考えら	0
156	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観	1	①	1		0		0
157	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適切でないと考える。この文では浪費の説明に比べ消費の説明が多くまた、具体的であり、浪費と消費の関係について客観的に見ることができないため適切ではない。	2		0
158	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると思います。前の文章では消費について少ししか触れられていないうえに、具体例がなくて意味が理解できませんでした。しかしこの文章を見て消費の意味を理解し、なぜ意味・観念の受け取りに繋がるのかわかりました。	3	Bさんが言っている通り国語辞典の意味から消費が満足をもたらさないという言葉には納得ができない。しかし、Cさんの意見にもある様に消費社会の問題点について筆者が挙げれおり私はこれに納得できた。私は人によって満足の感度は異なり又、その方法も人それぞれだと思うため分から改善すべき所を改善すべきだと	2
159	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	消費は本文の具体例の中で「行かなければならない」と述べられていますが、私は違うと思います。自分が「行きたい」と思って行くものであり、「行かない」という選択を自分ですることもできると思います。	1	私は、筆者の主張に納得できます。Cさんが述べているのと同じように本文では消費と浪費の違いを明確にして対比的に述べています。また、具体例も挙げられているため、内容が理解しやすく、納得できるものになっています。このように読者が理解しやすいような工夫がされているため、私は筆者の主張に納得できます。	5
160	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	本文中で消費についての説明や、消費社会などについても触れられているが、消費の歴史的背景が書かれてるはずなので、消費の具体例が書かれているため、この文章は空らんに入る文章として適していないと考えられる。	2		0

161	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	先に説明された浪費のように、しっかり消費について具体例を挙げて説明されている。よって、私はこの文章が「※」の部分に適していると考える。	3	私もBさんと似たような考えです。消費することで全てが欲望が満ちるとは言い切れませんが、満足感を得られることも多くあり、決して消費は満足をもたらさないとは言えないと思います。そのため、国語辞典や私自身の考えと筆者の考えとは矛盾しており、述べている文を納得できないと思	2
162	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していないと思う。理由は具体的な消費の説明をするべきところを具体例を2回使って説明しているからだ。これでは具体的な消費とはという部分が分かりにくくなってしまうと思う。	3	私はBさんに賛成です。消費というのは自分がほしいと思ったものや買いたいと思ったものを使ったりすると思うからです。筆者が言うように消費は満足をもたらさないというのは少し違うかなと思いました。だから私はBさ	1
163	必要の限度を越えて	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	記号を消費するということを具体的に述べて説明しているのでその点は適しているが、消費と浪費の違いを明白にできていないので適していない。	2	私もBさんと同じ意見で、国語辞典の定義と矛盾している「消費」を述べていて消費と浪費の関係は成り立たないので筆者の述べていることには納得できない。また、国語辞典の定義だけでなく一般的にも消費は人間の欲望を満たすためにお金でモノやサービスを購入することであると考え	3
164	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	私はこの文章が適していると思います。なぜなら後に続く文章で消費についての批判が述べられていて、前の文との間にこの文章を入れると流れもきれいになるからである。	2	私は筆者の考えについてあまり納得できません。国語辞典で記載されているものと、筆者の述べていることが矛盾であり、消費と浪費の関係が成り立たないからです。例文も私が思う消費と浪費の考えとは違っていて、すごく違和感を感じました。	3
165	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	Aさんの文章は適していないと思う。なぜなら、Aさんの文章は※前の文章と書いてあることがほぼ変わらず、補促としてAさんのように例を挙げる必要性がないため適さないと思う。	2	筆者の消費では満足をもたらさないという意見に反対です。確かに消費と浪費では浪費の方が満足度は高いと思います。しかし消費も欲求も満たすという面では満足をもたらしているはずです。筆者の意見では、消費が悪になっているが、そうではなく消費があるからこそ浪費でより高い満	2
166	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観	1	①	1		0		0
167	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	例を二つ上げて消費について説明しているけど、二つの例を組みとって消費を理解するのが時間を沢山使用してしまうため、一つの例に対し、もっと具体的説明をすれば読者はより理解しやすいと思うから適切でないと思う。	4	Bさんのように漢字の表面的な意味としては、辞典で調べた通りだと思うが、人間にはそれぞれ価値観があるから、辞典のように一つだけの意味または答えにはならない。筆者が伝えたいのは、消費が人間にもたらす影響についてであって、消費の漢字の意味ではない。よく考えば、消費での幸せは一瞬に過ぎないことが分か	1
168	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1		0	Bさんは国語辞典を用いて、消費は人間の欲望を満たすために財貨を消耗することであると知り、筆者の意見に納得していないが、筆者は物理的なモノの消費ではなくそのモノも意味や観念を受け取ることを消費であるとしているので、財貨をというモノの消耗とは違っているという点から、私は筆者の意見に納得できる。	2
169	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章は、消費について、意味や記号の受け取る例を用いたり、前文での浪費との違いや消費の意味を書いており自分が納得できた文だと思ったので、消費についての文は適していると思う。	3	Bさんの意見について、国語辞典では、その言葉の意味が書いてあるためであり、それが我々人間にどのような意味を持つのかは別であるため、筆者の「消費は満足をもたらさない」という言葉は国語辞典の定義と矛盾していることは、当然であるので私はBさんの意見に反対する。	0
170	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	前文に浪費は必ずどこかで満足をもたらすが、消費は対象がものではないため、消費は終わらないことが書いてあり、モノではなく意味や記号を受け取っているという具体例が内容に含まれているため、適していると思う。	3	国語辞典に載っている情報は一般的な意味であるため、常に変化している社会では、実際の状況と異なる場合があると思うのでBさんの意見は正しいと思う。そのため筆者はAさんの意見のように具体例を述べ、浪費と消費を比べることで実際の状況や考えを知ってもらい、納得できる文章となっていると思います。	1

171	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	②	0	私は、適していないと思います。それは、モノを受けとるためには、理由や目的があるからです。目的があればモノを受け取ったことになると考えます。情報を受け取ることの目的を考えるといいと思います。	2	私は、消費することも満足が得られると思います。消費者である私達が消費し続ける理由は、満足が得られないからではなく、満足を得ているからこそ、もっと満足を得たい、という人間の特性があるからだと思います。消費は満足をもたらすと思うので、筆者の述べていることには納得ができ	2
172	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章は適していると考える。実際、私たちがSNSという情報を受け取る媒体を使って情報収集をし、それを発信する側も人にいいね。と言われるためにモノを購入しているという実体があるためである。	2	私は、Cさんの考えに賛成であり、Bさんの考えには反対である。なぜなら、Bさんの発言から「消費は満足をもたらさない。」という言葉が国語辞典の定義と矛盾していることは納得できるが、このことから消費と浪費の関係が成り立たないと決めつけてしまうのは理由不足ではないかと考え	1
173	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	※までの前文は消費についての抽象的な説明がされているが具体例がないため、ものに付与された意味・観念である消費の具体例を述べているので、この文章は適切で	5		0
174	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	③	0	私は適していないと思います。なぜなら、この文章の前には浪費と生活に関する内容が書かれているのにこの文章では消費に関して書かれている上に、文頭の「では」という接続詞では話が継がらないと思うからです。	2	Bさんは国語辞典の内容と筆者の考えが矛盾していると述べているけれど、私はそうは思わない。なぜなら、国語辞典が述べている人間の欲望というのは、生きていくうえで感じる食べたい、着るものが欲しいなど最低限の欲のことではないかと思ったからです。その内容であれば国語辞典と筆者の考えは矛盾していないと思	1
175	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	モノに付与された意味・観念を受け取る消費において、意味や記号について説明されているため適していると考える。グルメブーム、携帯電話を例に消費とは何かを具体的に説明していると思う。	3	筆者は消費と浪費の違いを具体的な例を挙げて対比することで、消費社会に対する問題点を浮き彫りにしている。満足することが決してない消費のサイクルに投げ込まれ、大量生産・大量消費・大量投棄の経済、消費社会の中で生きる私たちは贅沢を取り戻さなければならないという主張	3
176	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観	1	④	0		0		0
177	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章は適していると思う。なぜなら、消費とは何かを分かりやすく述べる場面であり、そして、筆者の「消費は満足感をもたらさない」という主張をより後押しする文章になっていると思うからだ。	3	消費が満足感をもたらすかどうかはそれぞれの感じ方があるため、一概には言えないと思う。また、Bさんが述べているような国語辞典の意味をふまえても、筆者の文章には納得できない。しかし、筆者の論じ方に関してはCさんと同様、主張に説得力を持たすための工夫として評価できると	2
178	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	③	0	私は適していると思う。「消費」について読者が想像しやすいように、身近な日常生活の出来事に置き換えて理解を深めようとしているところが良いと感じた。次の段落の一文にもよくつながっていると思う。	3	私は筆者の意見に納得している。筆者が言いたいことは贅沢に対する消費社会の問題点を認識してほしいということであって国語辞典に載っている消費と浪費を説明しているわけではない。Cさんが言うように消費と浪費は一つの例であって読者が読みやすいように説得力をつけて、社会の問題点に結び付けているのだと思	5
179	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	ある店がおいしいと聞いたら、その店に行ってみようとは思うけど、だからといって「その店に行ったことがある」という意味を受け取りたいわけではないと思う。ただ純粋に美味しいものを食べたい人もいる	1	「消費は満足をもたらさない」と断言するのは、間違っていると思うが、消費は欲望を満たすために財貨を消耗する行為なだけで、満足するかどうかは人それぞれなので、決して矛盾しているわけではないと思う。	2
180	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	私はこの文章は適していないと思います。なぜなら※としては内容は適していると思うが、私はこの消費という説明について二つも例を出す意味がないと思うからです。	3	消費は「経済で、人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為。」と国語辞典に記されていて予盾していると述べていますが欲望を満たしても満足しないという人間の性質であると思います。人間は欲望を満たしても満足できず次の欲望を満たそうとする。それが消費と筆者は述べている	1

181	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章は適していないと思う。なぜなら前の段落ですでに消費についての説明が具体例とともに書かれているからである。これ以上の消費についての説明は不必要と感じた。	2	筆者の考えには賛同しかねる。筆者の述べる浪費についてモノの受け取りには限度がありどこかでストップするということが納得できない。Bさんのような国語辞典での定義ではなく、浪費には限度のないものの受け取りだってあるのではないかという考えである。なので浪費と消費に大きな差異はないのではないかと考える。	2
182	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	※直前の「浪費はモノ、消費は意味・観念を受け取る」という考え方の具体例として文章が述べられていて、※超然と※で効果的に対比がなされているので読者が2つの違いを理解しやすいと考えたので適切と判断した。	5	私は、筆者の主張に納得できる。Aさんが取り上げた「消費は欲望を満たすために財貨を消耗する行為」を、決して満ちたりることはなくても、より大きい満足感を得ようとすることだと解釈したので矛盾していないと考えています。Cさんの言うように私も具体例にも納得できるから筆者の考え方	3
183	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	②	0	私は、適していないと思います。文章そのものは内容に合っていて良いと思うけれど、※の後の文で消費と浪費の違いの説明や消費についての影響などを説明しています。なので、※に埋めるためには適していないと思いました。	2	私は、Cさんと同じで筆者の考えに納得できます。Bさんの言っていたように国語辞典の定義と違っていても、世の中は国語辞典通りには進んでいないからです。私たちの生活次第で消費や浪費の意味は変わっていくと考えました。具体例も日々の生活の中で納得できるし、間違っていないと思うので、私はCさんと同じ意見で	2
184	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると思う。なぜなら消費とは消えることがないもののことだと思うから。どんどん次へまた新しくなっていくものをいつまでも追いかけ続ける人がいるし、人は無意識に新しいモノに目がいっちゃうから。	2	私は人の気持ちを考えることが苦手だし、他人の意見は理解しようとはするけど、自分の興味がないことに対しては無関心だから筆者の考えを読み取りたくない。自分の意見は贅沢とは人によって基準が違うから筆者のように決めつけるのはよくないと思っ	2
185	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	④	0	適切でないと私は思います。モデルチェンジの話が出ているが、今回の話から少しずれてると思います。浪費と消費がどんなものなのかを説明しているから、私は少しずれていると思いました。	2	筆者は贅沢を取り戻すと述べていますが、すでに私たちはしているのではないかと思います。例えばCDや本を買うことです。これらは生活になくてはならないものではありません。なので、すでに私たちは十分に贅沢な生活を送っていると思うので、私は筆者の述べていることに納得できませ	2
186	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していないと思う。私はグルメブームの例は理解できなかったためである。ある店が宣伝された時、消費者が求めるのは、その店の外観や内装、食事のおいしさ、接客であり、記号の消費を説明できないと考えたからだ。	2	私はCさんの意見と同じく、筆者の考えについて納得できる部分が多くある。一番納得できたところは、消費は終わらないものであるが、浪費はストップするものであるというところだ。それは浪費がどこかで満足をもたらすからであり、その違いを論じるために消費を定義したので、国語辞典と比較するのは間違いだと思った。	3
187	限度を超えてモノ	0	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	私は適していないと思います。なぜなら具体例が目に見えないものだからです。※の前文で同じような文構成が書かれていたので読み手に矛盾を招き、読み手が理解しにくいような文になってしまうと思うからです。	2	私はCさんの意見と同様です。哲学者の言葉を使い浪費と消費の違いを明確に示し、また具体例を示すことにより相手に理解してもらいやすい工夫がされているからです。読み手にも消費と浪費について考えさせられるような構成となっていたので文が読み取りやすく、工夫されていることが	5
188	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	「記号を消費するとはどういうことだろうか」の文の後に浪費とはどういうことかを具体的な例を挙げて説明しているが、「記号」を消費することの具体的な説明は書かれていないため適していると思う。	4	辞書には、消費は人の欲望を満たすための行為という意味として記されているけど、私は筆者の考えに納得できます。人はある程度の贅沢をすることで満足感が得られ安心して生活ができると思うからです。必要なものを必要な分だけ消費しても、それ以上の満足感は得られないと思いま	2
189	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると思います。Aさんの文が入る前に浪費の説明がされているけど、消費の説明はされていません。その前の文を読んで消費って何だろうと凝問を持つ読者は必ずいると思います。説明もわかりやすいです。	4	Bさんの国語辞典との矛盾している話の消費は満足をもたらさないというのは、人間は欲しいものを買ってもまたすぐにほかのものも欲しがるということだと思いました。私もその一人で、服とか買ってもらってもまたすぐにほかものも欲しいと思ってしまいます。これは人それぞれだから筆者は間違ってないと思いました。	2

190	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	今ではインターネットが日常の中にあるのでSNSなどで店のことを書き込むと次々と人に情報が渡り、店という記号の消費はいつまでも終わらないというところに納得したので適していると思う。	2		0
191	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	消費についての具体的な説明や例を挙げて、前の文章までに書かれた消費の意味をさらに詳しく、わかりやすくまとめられているため、私は、この文章は適していると思います。	3	私もCさんと同じで、筆者の考えに納得できる。たしかに、消費の意味は国語辞典の定義とは矛盾しているかもしれないが、挙げられている具体例にも納得できる。また、主張に説得力があると思う。こういった理由から私は、筆者の考えは間違っていない	3
192	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私は適していると思います。なぜなら、記号を消費することについて、前文よりも詳しく書かれていると思うからです。また、別の例も取り上げられており、理解しやすいと思うからです。	3	Bさんの意見に対して、確かに国語辞典と筆者の言葉は矛盾していると思いました。しかし、欲しいものがあったとき、消費をすればモノが手に入ります。ですので、また欲しいものがあっと時に消費をします。つまり、一時的に欲は満たされるが、また欲が出てくると消費していくということだ	1
193	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	説明の内容は良いと思うが、消費の説明が浪費の説明よりも割合が多い。消費は具体例を挙げているが、浪費はあげずに説明だけなので、もう少し抑えてもよいと思う。	3	説明もあって対比されているのでわかります。	0
194	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私はこの文章は適していると思う。なぜなら、この文章には消費ついての説明が具体的に書かれているからだ。浪費の具体例は書かれているが消費については書かれいないため、ここには消費の具体例が当てはまると思う。	5	私は筆者の考えには納得できません。なぜなら、ご飯を食べたりしてお金を浪費するよりも、服を買うなど消費をした方が満足感が得られるからです。同じようにお金を使うなら満足感があった方がいいと思います。だから筆者の考えには反対です。	2
195	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していると思う。消費とは何なのか、を誰でも想像しやすいような具体例を述べながら書いてあるから。例を二つあげることでより具体的に消費について説明できていると思うので、私はこの文が適してい	3	私はCさんの意見に賛成です。	1
196	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	適していると思う。消費についての具体例を二つあげてわかりやすく説明しており、次の段落の消費と浪費の違いにつなげているため。	3	Bさんの意見もわかるがCさんの意見にも納得できる。たしかに国語辞典と矛盾しているのは納得できないかもしれないが、読者に筆者の考えや思いを分かりやすく伝え、読者にも考えてもらうには、この主張は正しいとも思った。でも話を盛りすぎるのは良く	1
197	必要以上のもの	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	有名人が利用している店などが宣伝され、一度そこの店に行ったならば、次に他の店が宣伝された時、絶対に今後はそこに行かないといけないというルールはないと思うので適してはいないと思う。	2	Bさんと同じで、自分の考える消費の意味と国語辞典に載っている通り、自分の欲望を満たすために、財貨を消耗する行為だと思うので、筆者の「消費は満足をもたらさない。」という意見に納得することはできない。	2
198	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	②	0	私は適していると思う。※の前には浪費について、具体例をあげながら説明されているが、消費については詳しく書かれていない。だから、※の部分で消費について具体例を挙げながら説明することは適していると思う。	5	私は筆者の考えに納得できる。消費について国語辞典の定義と矛盾していることは確かである。しかし、社会全体の今の問題を考えるときには、筆者の述べている具体例や哲学者の言葉が必要になると思う。もし、国語辞典の定義にとらわれていたら、社会問題は解決していかないと思う。だから筆者の考えに納得できた。	3
199	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	その前の文に記号を消費するとはどういうことだろうかと投げかけがあり、浪費の例を挙げて説明していて、そのあとに消費の例と記号の消費の話がしてあるからこの文章は適していると思います。	4	私は、Cさんの考えと同じで辞書と筆者の意見が違っても読者にわかりやすく違いを説明し、消費社会の問題点を伝えたかったんだと思うので筆者の主張に納得できます。Bさんが言うように確かに辞典と矛盾したことが書かれていて困惑する気持ちもわかるけど、ここでは消費と浪費の違いを説明しているだけだからいいと思	4
200	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	半分適していると思った。消費の具体例が書いてあって意味を受け取っていることについては書いてあるけど、そのあとに出てくる観念についての具体例も書いてあるともっと説得力があると思った。	2	消費は満足をもたらさないとなっているが、その後にしかし消費者は満足を求めて消費しているとあるので、国語辞典と筆者の考えは矛盾していないと思った。だから私は、消費と不満足の悪循環が生まれるという筆者の主張に納得できる。	3

201	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	私はこの文章は適していると思います。なぜなら消費についての具体的な例を出しており、その後の文章につながる消費についての説明がこの文でされていると思うからです。	3	私は筆者の考えについて納得です。なぜなら、消費していることによって贅沢することができないようになっているという実感があるからです。Bさんが発言している消費では、消費をすることによって満足を得られるといっていたけれど、消費だけでは満足することはできないと思います。だから筆者の考え納得です。	2
202	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味や観念	0	①	1		0	筆者が哲学者の言葉を使って消費を定義したのは、消費と浪費を対比し、消費社会の問題点を見つけるため、挙げられているさまざまな例や、筆者が述べている考えも納得できる。	2
203	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私はこの文章は適切であると思います。人々は世の中の流行に敏感である。流行に乗るために食べ物やモノにお金を使用している。そして流行が変わる度にお金を使うので、消費はいつになっても終わらない。	2	私はBさんの意見に納得しました。「なぜ消費は満足をもたらさないのか。」と疑問に思いました。筆者は、消費は限度が決まっていないから満足をもたらさないと述べているが、私は、限度が決まっていない分、自分の満足のいくところまで消費をすることができると考えます。だから筆者の意見に納得することができません。	2
204	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	③	0	私はAさんの文章は適していると思います。前の部分では、消費と浪費の言葉の説明がなされているので、空白の部分に具体的な例が入ると考えます。その後の文を強調するためにもAさんの文章は適していると考えます。	5	国語辞典での消費の意味と筆者の述べた言葉は矛盾している。しかし、筆者は哲学者の言葉を使って消費の意味を述べることによって、消費社会の問題点をより強調していると考える。浪費と消費の違いを明白にすることで、対比しながら考えることができる。より深く理解でき、身近に感じることができた。だから私は納得で	5
205	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	私はAさんの文章は※の部分に適していると思う。なぜなら消費はモノに付与された意味や観念を受け取るからだ。有名な店で食事をしたりモデルチェンジという言葉にひかれたりするのは消費の意味と合っていると思う。	2	Bさんの意見も理解できるが、筆者は消費と浪費は全く違うと主張しており浪費こそが生活を豊かにすると言っている。また、私はCさんの意見に納得した。筆者は浪費がいかに大切かを伝えるために今の生活における消費の問題点をより強く主張したと感じた。私も筆者と同様に贅沢を取り戻すことが必要である感じた。	1
206	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味や観念	0	③	0	私は、この文章は適していると思う。なぜかというと、消費とはモノに付与された意味や観念に見合わせた内容になっていて、消費とは対称的であるストップしないということが合わせて書かれているから。	3	私は、消費というものは絶対に存在するものだと思いました。もし消費がないと、贅沢という概念も知らないということが起こると思います。確かに消費社会は批判されるものだが、大量生産と大量消費をねらいにしてそういう社会を育んでいる人もいると思う。だから、消費があってこその贅沢	1
207	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章は適していないと思う。なぜなら店に行ったり「新しい」モデルの携帯電話を買ったりすると十分な満足を得ることができるし、それぞれの満足にも限度がありいつかはストップされるため、限度があるからだ。	2	Bさんの意見をふまえ、私はこう考える。筆者の言う満足とはすなわち浪費であり贅沢のことを指す。贅沢とは必要の限度を超えて支出が行われるときに感じるものであり、消費ではモノの意味・観念を受け取るため、そのように感じることはできない。国語辞典の意味は違ってもこの筆者の考えは筋が通っているため私は納得でき	3
208	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると考える。なぜなら、この文章の具体例の示すものが本文に書かれている「消費はモノに付与された意味・観念を受け取る」という言葉にあてはまると思うからだ。	3	私はCさんの意見に賛同する。筆者のあげている具体例にも納得できるうえに、実際に消費生活をしている中で満足を得られるのは一瞬であると考えるからだ。また、Cさんの意見の中の国語辞典に「人間の欲望を満たすため」とは書いてあるが、満たすことができる。満たされるとは書かれていない。以上のことから筆者の考え	2
209	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していないと思う。なぜなら※の部分より前では浪費を中心に書かれているが、批判的な文が少ないのに対して、※の部分は消費について批判的な文が多く、人々の消費に対しての行動を批判しているように感じたから。	2	「贅沢を取り戻す」という題名であり、本文では贅沢と浪費が同じ意味で使われている。つまり、筆者は消費より浪費について肯定的に感じているのではないかと思った。だからCさんの考えのように、筆者が哲学者の言葉を使って消費を定義したのには納得	2

210	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	消費について、具体例を挙げ説明することで、浪費と消費がしやすくなっている。また、消費する人は、モノを受け取っているのではなく、意味や記号を受け取っているという内容は前文と合っていて適していると思う。	2	国語辞典に載っている消費と筆者の述べる消費では、確かに矛盾は生じるが、私は費者の主張に納得できる。筆者は歴史的に「消費」と「浪費」を対比させ、時代の変化によってその意味合いが変わってきたことを明確にし、消費生活の問題を読み手にわかりやすく説明している。そして我々の課題を明確にしている。	5
211	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると思う。なぜなら、浪費は詳しく説明されているが、消費は説明されていないからだ。私は浪費を詳しく説明するのであったら同じように消費も説明があった方が浪費と消費の違いが詳しく分かると思う。	4	浪費で生活は豊かさをもたらした。消費でも人間の欲望を満たすために財貨を消耗する。しかし、今の社会では消費社会になりすぎて、不満を持つ人や、苦しんでいる人がいる。だから浪費社会も取り入れていけばよいのではと、筆者は考えていると私は思う。だから、消費と浪費を均等にしていくことが大事だと私は考える。	1
212	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	私は適していると思います。なぜなら記号を消費することはどういうことかというところに浪費の説明がされていて消費については説明がされていないから。	4	Bさんの言っている通り、筆者と国語辞典の意味が違うので納得できません。筆者は消費では満足を得られないと書いてあるのに国語辞典では、人間の欲望を満たすために消費はあると書かれている。二人の意見が違うので私はどちらにも賛成か反対かを考えることができません。	2
213	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	※までの部分では、食事の時の浪費の具体例があがっていたのに対してAさんの書いた分には消費の具体例がかかれているので適していると思います。別の例もあげてより消費についてわかりやすくなっていると思います。	5	私もBさんのように納得いっていません。なぜなら、人は消費することでもモノに付与されている意味・観念を受け取って満足していると思うからです。Bさんが「経済で、人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為」といっているとおり、満足とは欲望を満たすことなので筆者の述べていることに対し、納得できませんでした。	3
214	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	この文章は適していると思う。「※」の前に浪費についてまとめられ、後ろには二つの違いが説明されているため、この文章を入れることによって文脈が途切れないまま文が続くからだ。	4	私もCさんと同じく筆者の考えはしっかりと論点を捉えて主張されているから納得できる。筆者が挙げている具体例がとてもわかりやすく、浪費についても、消費についても理解することができた。消費について辞典とは異なった言葉を使うことはCさんの言う、主張に説得力を持たすための工夫だということに納得した。	5
215	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私はこの文章に賛成します。なぜなら、この文章の前の段落で、消費について詳しく説明されてなかっらからです。そのうえ、具体例があり、消費がどういうものなのかがすぐ理解することができたのでいいと思います。	5	私は筆者の主張にとても納得させられました。普段消費について特に何か思ったことがありませんでしたが、この文を読んで改めて考えたとき、消費は、人間がどれだけ消費しても満足できないことをいい事に、サイクルを上手く利用してたんだと思うと、お金の使い方は本当によく考えないといけないんだなと恐ろしく感じました。	2
216	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	私はこの文章は適していないと思います。文頭で「消費とは何か」とありますが、消費が何かということは前文を読むとわかるのに、消費についての説明をするのは、おかしいのではないかと思いました。	2	Bさんが言っている様に、国語辞典にのっている「消費」と、筆者が言っている「消費」は矛盾している。でも、私が考えた筆者の「消費」については、欲望を満たすために人は消費をするが、そうしても満足が得られないから、また、消費をして、欲望を満たすための行為を繰り返すから、消費は満足をもたらさないと言っていると思	3
217	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	この文章では消費がグルメブームに言い換えられていたり、その他の例も挙げられていて、消費について詳しくわかりやすく説明されているので、適していると思う。	3	私はBさんの意見と同じで、筆者の「消費は満足をもたらさない」という言葉は国語辞典と矛盾していると思います。	1
218	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	誰しもが行っている行動を具体例にして、消費というものを分かりやすく説明し、消費は記号を受け取るということを強調しているので、私はこの文章は適していると思います。	3	筆者の浪費と消費の違いを明確にするためにあげた具体例は、日常的でとても分かりやすい。そして、浪費と消費の問題点を明らかにし、今の社会に必要な課題を出しているので、説得力がある。	3

219	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私はこの文章は※の部分に適していると思います。前の文章では、浪費についての例や意味を書いているので、その後に、消費とは何か、その例について書いてあることになります。だから、私は私は適していると思います。	5	私は本文とCさんの意見をふまえて、筆者の考えに納得・共感できました。浪費と消費の違いについてわかりやすく、対照的に比べることで、私たちが消費の渦に巻き込まれることにより、贅沢ができなくなってしまっていることを述べている。分かりやすい具体例を書いてあるので、たくさんの人が分かる内容になっていると思う。	4
220	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	③	0	空白の前の文章で、浪費の具体的な例が書かれているので、ここで消費についての具体例を挙げるのは良いと思う。それに、身近な話題でわかりやすいので納得できる。なので、私は適していると思う。	4	確かに、Bさんの言っている事には間違いはない。だが私は矛盾していないと思う。なぜなら、国語辞典のいう消費する行為が人間の欲望を満たさなかったら満たすまで私たちは消費する。こうして、欲望を満たさなければ消費をするという悪循環が生まれ社会や環境に影響を与えているか	1
221	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	⑤	0	人々が、グルメブームの中で店を記号的に促えたり、携帯電話のモデルチェンジを「チェンジ」という情報・意味に受取るのは、消費はモノに付与された意味・記号・観念を受け取るという前後の文に適していると思う。	2	国語辞典には消費とは「経済で、人間の欲望を満たすために財貨を消耗する行為」とあるが、筆者はその人間の欲望すらも経済社会によって仕立て上げられたものではないかと主張している気がした。消費者に仕立て上げられた我々は、消費の渦に巻き込まれ、贅沢をうばわれてしまったの	1
222	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	私は、この文章は適していると思う。グルメブームも携帯電話にも共通して人々は流行に乗りたがっていて、流行の移り変わりは絶え間なく、限界がないので、消費は終わらないのだと思う。	2	浪費と消費の違いについては、挙げられた具体例で納得することができたが、Bさんが消費について国語辞典で調べたら矛盾していたという発言を読んで、消費は結局良いものなのか悪いものなのかが分からなく	1
223	目の前にあるモノ	1	モノに付与された記号や観念	1	④	0	私は適していると思う。なぜなら、前の文章は浪費についての具体例は書かれているが、消費についての具体例は挙げられておらず、Aさんの文の後にも消費についての具体例が挙げられていないためである。	4	私はBさんの意見に反対で筆者の主張は納得できる。なぜなら、消費は「欲望を満たすために財貨を消耗する行為」であって「必ず欲望を満たす行為」とは書かれていないからである。また、筆者も「消費は満足をもたらさない」という主張の後に「満足を求めて消費している」と述べており国語辞典と主張は同じ意味だと私は思	3
224	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は、適していると思う。なぜなら、前文のように具体的な例があり、その例が私たちの生活に身近なものであるため、読者自身の生活において共感をもつことができる内容であると思うから。	3	筆者が、「消費は満足をもたらさない」と述べているのに対し、国語辞典の定義とは矛盾が生じている。そのことについて、私は欲望を満たすためだけに財貨を消耗し、欲望が増え続けた場合には消費も増えていくから、消費に限度がないので、限度があるものと比べ、満足しにくいのだと思う。だから、筆者の主張に納得でき	2
225	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	人間が新しく始めた消費のことについてモノに付与された記号や観念を受け取っている具体的な例をあげているが、浪費の必要の限度を超えてモノを受け取ることの例が具体的にあげられていないから適さないと思う。	2	辞典上での意味を筆者が言う消費の意味は確かに矛盾している。だが、筆者が先に述べている浪費は贅沢と言い換えていて、必要を超えた支出があるから人間は豊かさを感じて生きていくために贅沢は必要だ。二つの言葉は少し似た意味を持っているため、比較し読者に消費社会の問題点を分かりやすくしていると思う。	0
226	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	この文章はとても良く適していると思う。なぜなら、消費に関しては※の前後で説明がされていないからである。これでは、読者が消費の意味をあまり理解できず、なぜ消費社会が批判されるのかが分かりずらいと思う。	4	私はBさんの意見に賛成である。なぜなら、本文中で消費によって贅沢ができなくなったと書かれているが、有名人が利用したお店を自分も利用できたら、それだけで贅沢ができたと感じて十分な満足をもたらすからだ。そのため、筆者の消費社会とは我々から贅沢を奪うものであるという意見	2
227	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	適していると思います。理由は、具体的な例があるとわかりやすいし、消費の対象がモノではないということがより理解できると思うからです。	2	消費社会とは我々から贅沢を奪うものである。浪費家であろうとする我々を消費者に仕立て上げ、満足することが決してない消費のサイクルに投げ込むのが消費社会である。消費の渦に巻き込まれることで贅沢ができなくなっているので、我々は贅沢を取り戻すことが必要なのである。	1

228	目の前にあるモノ	1	モノに付着された意味・観念	0	③	0	私は適していると思う。消費という意味を理解してその具体例を出すことで読者にわかりやすい。また、最後に消費者が新しいモノを買う目的を述べているので浪費との違いも理解できて良いと思う。	3	Bさんのように筆者と国語辞典の定義が矛盾していると納得しにくいだろう。でも筆者は文章で国語辞典の定義を使わず哲学者の言葉で読者に消費と浪費の違いを分からせようとしている。だから国語辞典の定義を意識すると納得できないのは当たり前だと思う。よって、私は筆者の主張に	2
229	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	④	0	私は、Aさんの考えは適していると思う。なぜなら、具体例が分かりやすく述べられていて、なおかつ前の文と後ろの文に当てはまっているからだ。現代の人々は行動パターンを例として取り上げていて、良いと思った。	3	私はCさんと同じ意見で、筆者の考えに納得することができる。現代社会の問題点を指摘し、それについて具体例を出しているところも良いと思う。Bさんの言う「国語辞典の定義と矛盾している」という言葉にも納得できないことはないが、明確に示しているという点をふまえると、私は筆者の考えの方が共感することができる。	2
230	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	②	0	筆者は、消費の対象はモノではないと言っている。Aさんの挙げた例えは、携帯電話がありますが、Aさんは人々は携帯電話というモノではなくチェンジという情報・意味を受け取ったと述べてるため適していると思う。	2	筆者が哲学者の言葉を使って消費を定義したのは、浪費と消費の違い明確に言い表して、消費社会の問題点を浮き彫りにし、そして消費社会の悪循環を無くし、贅沢を取り戻したいと読者に呼び掛けたいからだと思った。挙げられている具体例や悪循環になった訳も理解することができるため、私は筆者の主張に納得ができ	3
231	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は、Aさんが書いた文章は適していると思います。なぜなら、Aさんの消費について書かれた例もとても分かりやすいし、根拠があると思ったからです。また、消費と浪費についてはっきりと違いが分かるからです。	3	国語辞典に書かれていることと、筆者が述べていることは確かに矛盾しているが、どちらも間違ったことは言っていないと思う。客観的に考えたら、国語辞典に書かれていることは正しいと思うが、筆者が「消費は満足をもたらさない」というように時と場合によって消費の意味は色々な意味でとらえることができると思う。	3
232	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	適していると思う。なぜなら、消費について身近な例をあげており、わかりやすいからだ。また、浪費については具体例が挙げられているが消費についてはあげられていなかったから適切だと思った。	5	Bさんの発言で筆者が矛盾していると私も思った。また「消費は満足をもたらさない」というのは人それぞれ違うと思うから断定はできないと思う。さらにCさんと同様に具体例に納得できた。でも最後の一文の「我々に必要なのは贅沢を取り戻すことなのである」は納得できないと思った。	3
233	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私はこの文章は※の部分に適していると思う。なぜならボードリヤールが述べたことにわかりやすい具体例が入っているからである。また、※の前の文に書かれている「記号や概念」の意味が詳しく書かれているからだ。	5	私はCさんの意見と同じく筆者の主張に納得できる。Bさんのいうように国語辞典の定義には当てはまらないが筆者の主張は、「消費」という言葉だけでなく、その時の人の心情や、その時代の背景も加味してあり、国語辞典よりも詳しい説明になっていると思ってたからだ。だから、私は筆者の主張に納得することができる。	3
234	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	④	0	文の中で、「もちろん～ためである」や「モデルチェンジしないと売れない」などと、根拠のない断定を例に挙げているため、適していないと思う。	2	筆者は結論として消費によって贅沢ができなくなっていると言っているが、贅沢の捉え方というのは人それぞれである。Bさんの意見の中にある国語辞典で調べた時意味として「欲望を満たす」と書かれている。それを贅沢だと感じる人もいるので、消費によって贅沢ができなくなるという結論	3
235	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私は適していると思う。前文にも例が詳しく書かれていて、この文章にも例が詳しく書かれている。例が書かれていることで読書も理解しやすくていいと思った。一つではなく二つの例が書かれているところがよいと思った。	3	私はCさんと同じで、筆者の述べていることに納得できます。Bさんの考えもありだと思うけど、浪費との違いを明確にし、説得力のある文章だと思いました。哲学者の言葉を使って読者が分かりやすいようにしてあるのも良いと思います。国語辞典と矛盾しているようだけど、それは明確にするには仕方ないことだと思います。	5
236	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	⑤	0	私はこの文章は適していると思います。なぜなら、消費ということはが「消えてなくなる」という意味があり、例にある携帯電話のように、新しい機種が出ると、今までの機種の魅力などが消えてなくなっているからです。	2	私はCさんと同じ意見だ。筆者は「消費」を言葉の意味ではなく、社会的な意味を示している。そう示すことで私たち読み手に浪費と消費の違いや、問題点への理解をうながしている。消費社会をこのまま続けていては、我々は贅沢ができない生活を送ることになってしまうということを、筆者は読み手に伝えたいのだと感じた。	5

237	目の前にあるモノ	1	モノに付与された意味・観念	1	①	1	私はこの文は本文に適していると思う。理由は、前の文で浪費についての説明はされていたが消費についての説明があまりされていなかったからだ。また、浪費と同じように具体例を出して説明をしているからだ。	4	私はCさんと同じく筆者の意見に賛成だ。理由は、辞典と意味が異なっていても実際の世界ではどうなっているのかという事を述べているのは筆者の方だからである。本文に書かれているように消費は必要最低限の物だけを買う事だが、多くの人は浪費を行っていることだろう。だから私は筆	4
238	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	この文章は空白の部分に適していると思います。空白の前に浪費のことについて書かれているので、次の文章では比較するために消費のことをについて書くべきだと思ったからです。また、例も書かれていて良かったです。	5	筆者が定義した消費は国語辞典の消費と矛盾しているが、この定義を使ったのは、浪費との違いを明確に言い表し、対比的に述べることで、消費社会の問題を浮き彫りにするためだと思います。論じ方は違うとは言えないし、主張に説得力を持たすための工夫だと思いました。	0
239	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私はこの文は適していると思う。浪費については、具体例付きで、説明しているのに対し、消費については具体例付きで書かれていなかったので※の部分にこの文は適すると思う。	4	私が考える消費とは「自分が満足を得るために欲しい物、好きな物を買うこと」だと思う。だから、Bさんの意見に賛成だ。消費することで、お金が減り、満足を得ることができない場合もあるが、自分が本当に必要な物、好きな物を買うのだから、全く消費は満足をもたらさないことはないと思う。	1
240	限度を超えてモノ	0	モノに付与された記号や観念	1	①	1	私は適していると思います。本文で、浪費については言葉の意味、日常生活での具体例が述べられていたけれど、消費については例が述べられていないので、Aさんの文章中の日常生活での例が本文に必要だと思います。	5	私の個人的なイメージですが、浪費という言葉はどちらかというと悪い印象を感じます。しかし消費は、普段から私自身の立場が消費者なので、なんとなく良い印象です。お金を出すということに変わりはないのに、どうしてこんなにも印象が違うのかとても不思議です。正直、文章を読んだのですが、あまり理解できませんでした。	0